

平成27事業年度に係る業務の実績に関する報告書

(資料編)

平成28年6月
長崎県公立大学法人

(資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.
1	1	新学部・学科設置	1 8
2	2	しまなびプログラム	3
3	9	資格試験合格者数	4 5 6
4	10	語学研修先一覧	7
5	11	外国語の数値目標と実績(国際交流学科、経済学部)	7
6	12	学部、研究科の学位授与方針、教育課程編成・実施方針、入学者受入方針	8 14
7	49	留学生の受入・派遣状況	13
8	50	募集人員	14
9	53	入学志願者及び入学者数	14
10	55	オープンキャンパス参加者数	14
11	56	NICEキャンパス長崎について	17
12	57	他大学との教育面の連携について	17 25
13	59	授業評価結果の概要	19
14	65	FDの取組	20
15	67	「長崎県立大学やるばいプロジェクト」奨励金交付実績	22
16	68	就職状況	24
17	69	課外講座実施状況	24
18	71	学長裁量研究実績一覧	26 30
19	73	市町との連携協定事業	27 34
20	80	産学官連携の主な取組	27 29 31 32 35
21	89	アジア・国際戦略に関する取組	27
22	91	長崎県立大学プロジェクト研究費について	27 32
23	92	研究論文数及び学会発表数	29
24	93	受託研究・共同研究一覧	32 34
25	94	交流協定校一覧	33

(資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.	
26	95	シンポジウム・フォーラム開催実績一覧	33	
27	96	東アジア研究所「東アジア研究ネットワーク」について	33	
28	97	公開講座・地域公開講座・学術講演会実施状況	36	38
29	98	教員の研究活動内容一覧	36	
30	107	長崎県公立大学法人の経営戦略	42	
31	110	外部資金獲得状況	51	
一	111	用語解説		

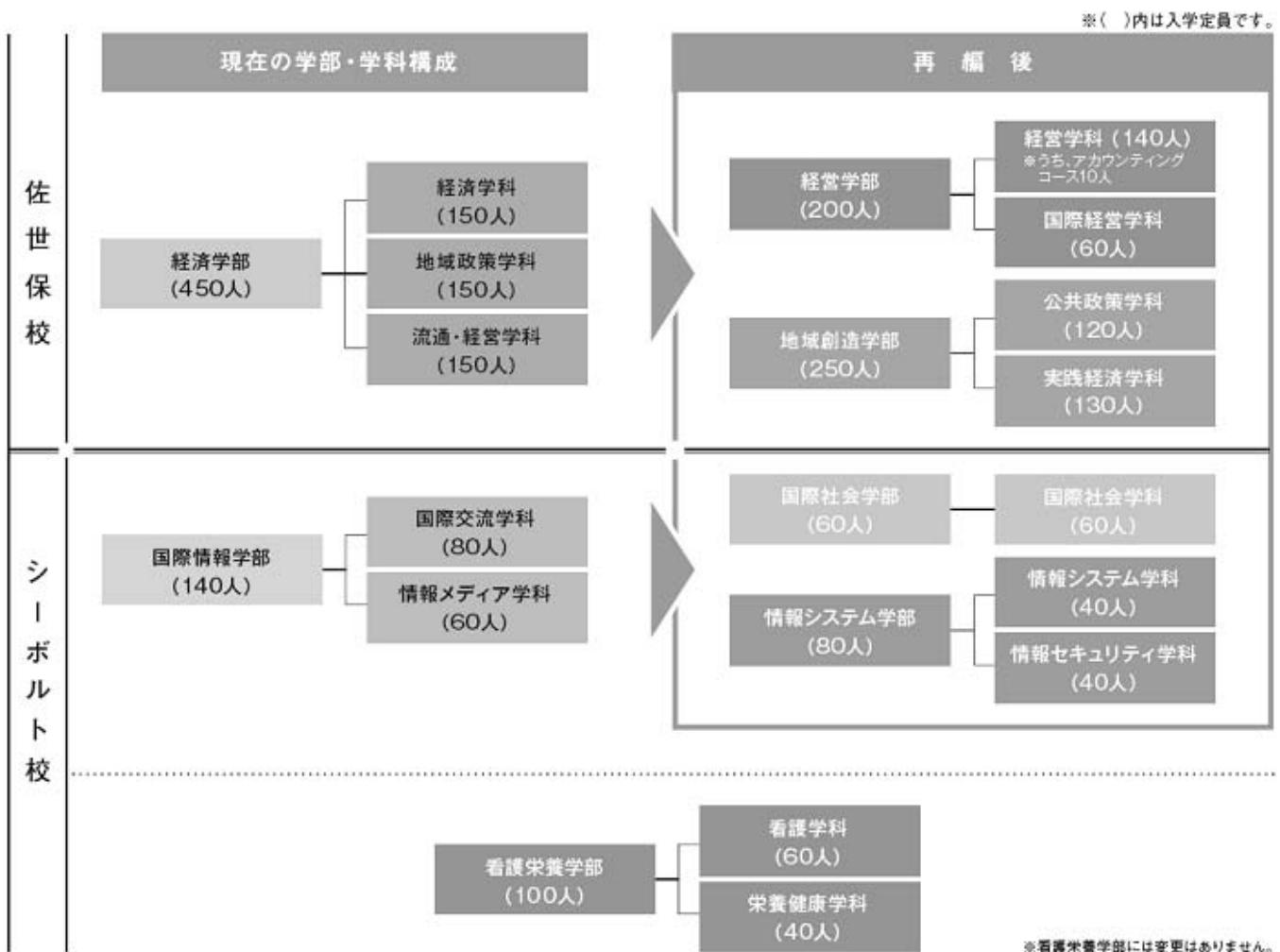
※ 資料については既存の資料より抜粋し、活用しています。

平成28年4月新学部設置決定のお知らせ

本学は、新学部設置届出書を平成27年4月に文部科学省に提出しておりましたが、平成27年6月23日に正式に受理されました。

これに伴い、平成28年4月から新学部を設置し、従来の3学部7学科体制から、「経営学部（経営学科／国際経営学科）」「地域創造学部（公共政策学科／実践経済学科）」「国際社会学部（国際社会学科）」「情報システム学部（情報システム学科／情報セキュリティ学科）」「看護栄養学部（看護学科／栄養健康学科）」の5学部9学科体制へ改組を行うことが決定しました。

これより、学生の募集を開始致しますので、入試情報などにご留意ください。



● 本学独自のプログラム「しまなび」プログラム

県立の大学として地域に貢献するため、離島が多い長崎県の特性を活かし、「しま」を第3のキャンパスと位置づけました。平成25年度までに県内5市3町と連携協定等を締結し、各地域での「しまなび」プログラムの実施に向けた準備を行っています。学生は、事前学習を行った上で、フィールドワークとして「しま」を訪問し、現地での生活や人々との交流のなかで、実践的な学習を積み重ねていきます。学習成果については、発表会等を通じて地域へ提案を行います。

この取り組みで、学生が課題を発見し解決する能力、主体的に行動する能力、チームでディスカッションし発信する能力等を身につけ、社会人基礎力を涵養します。

科目群名 | 全学教育科目「しまに学ぶ」

科目名 | 講義科目「長崎のしまに学ぶ」2単位(必修)

単位数 | 演習科目「しまのフィールドワーク」2 単位(必修)

(※平成28年度より全学部必修)

担当教員 | 専任教員全員(共通シラバス・指導マニュアル作成のもと実施)

講義科目

「しま」についての事前学習

PBLによる
フィールドワーク計画の作成

- ①課題(テーマ)の発見
- ②目標設定
- ③資料収集
- ④目標の達成方法の検討
- ⑤フィールドワーク計画



演習科目

しまのフィールドワークの実施
(4泊5日)

(新上五島町、五島市、壱岐市、対馬市、宇久町、的山大島
小値賀町)



まとめ・発表会の実施



専門科目による
深い学びへ繋ぐ

学習管理システム(manabie) 学習・グループワーク・現地手配などを一括管理

「しまなび」プログラムにおいて、学生の学習進捗、グループの議論の把握やグループ内での情報共有、グループのフィールドワークの日程や行動予定の登録を行うシステムで、登録された行動予定からしままでの宿泊予約・交通予約・受入先への連絡などの管理もでき、PBL学習を促進するシステムです。

しま名	日程	テーマ	指導教員	学科	学生数
1	対馬市	8/18～ 8/22 対馬からPR動画発信	ポンサピタック サンティ ピヤ	情報メディア	9名
2		8/26～ 8/29 つしまなび (島からの島民の流出防止と 観光客の増加について)	福島 涼史	国際交流	12名
3		9/1～ 9/5 対馬における観光客について	小形 健介	流通経営B	11名
4		9/8～ 9/12 対馬まなびカレッジ (理想の博物館の提言と、空き家活用 による地域活性について)	長濱 幸一	経済B	10名
5		9/8～ 9/12 対馬市における観光について－日本人観光客、 韓国人観光客への調査結果－	長沼 信之	地域政策B	16名
6		9/8～ 9/12 対馬の魅力について	舟橋 豊子	流通経営B	11名
7		9/15～ 9/19 対馬の交通に関する調査	松本 勝明	地域政策B	16名
8		9/15～ 9/19 魅力を、ずっと対馬。あたらしいを、もっと対馬。 (対馬の癒し産業の発掘・発信)	岩重 聰美	流通経営A	3名
9		9/22～ 9/26 対馬の交通に対する改善提案	西岡 誠治	地域政策A	17名
					小計 105名

しま名	日程	テーマ	指導教員	学科	学生数
1	壱岐市	8/18～ 8/22 若者の視点からのPR	李 炯喆	国際交流	10名
2		8/26～ 8/29 しまなび in 壱岐 (観光客の増加のために)	瀬端 孝夫	国際交流	11名
3		8/26～ 8/29 壱岐の新たな魅力探し	竹田 範義	流通経営A	8名
4		8/26～ 8/29 壱岐を訪れる観光客を増やすために	青木 圭介	経済B	11名
5		9/1～ 9/5 行ってみんね壱岐♪ (歴史や自然の情報発信)	竹部 隆昌	国際交流	9名
6		9/1～ 9/5 若者を対象としたPR方法考案	河又 貴洋	情報メディア	10名
7		9/1～ 9/5 壱岐の経済の発展について	辺見 一男	情報メディア	9名
8		9/8～ 9/12 壱岐の現状について	古河 幹夫	経済B	11名
9		9/8～ 9/12 ポスターによる壱岐内外の魅力発信について	車 相龍	地域政策A	16名
10		9/8～ 9/12 壱岐のグルメマップ	谷澤 毅	流通経営A	8名
11		9/8～ 9/12 壱岐でいきいき粋な旅 壱岐の島を満喫しよう！	新川 本	流通経営A	7名
12		9/8～ 9/12 学生目線の情報発信について	新川 本	流通経営A	8名
13		9/8～ 9/12 自分たちのPR活動	大田 謙一郎	流通経営B	15名
14		9/8～ 9/12 壱岐の魅力と交通利用状況の調査	吉本 諭	地域政策B	15名
15		9/15～ 9/19 壱岐の問題点とその解決策について	高橋 秀至	流通経営B	4名
			小計	152名	

しま名	日程	テーマ	指導教員	学科	学生数
1	五島市	8/26～ 8/29 五島の魅力と活性化について	伊藤 憲一	情報メディア	9名
2		9/1～ 9/5 ブックレット～五島～	祁 建民	国際交流	11名
3		9/1～ 9/5 五島について「宣伝・提案・依頼」 ～動画～	吉光 正絵	情報メディア	10名
4		9/1～ 9/5 五島市の観光ガイドブック作成	植野 貴之	経済A	10名
5		9/1～ 9/5 五島市における再生可能エネルギーへの 取り組みと住民の環境意識	宮崎 明人	地域政策B	15名
6		9/1～ 9/5 五島滞在記～五島での五日間～ (オリジナリティに富んだ情報発信)	宮地 晃輔	流通経営A	8名
7		9/1～ 9/5 五島の活性化に向けて	宮地 晃輔	流通経営A	7名
8		9/1～ 9/5 しまの魅力について	西島 博樹	流通経営B	11名
9		9/8～ 9/12 しまの魅力発見とPRについて	有馬 弥重	経済A	10名
10		9/8～ 9/12 五島の観光に関する課題と解決策	綱 辰幸	経済A	11名
11		9/15～ 9/19 五島のおすすめ観光プラン	尹 清洙	経済A	11名
12		9/15～ 9/19 五島に人を呼び込むために	中村 和敏	経済A	9名
13		9/15～ 9/19 五島の観光と電波状況について	大塚 芳宏	経済A	11名
14		9/15～ 9/19 学生目線の五島PR ～「特産品」「観光」「歴史・文化」～	矢野 生子	経済B	11名
15		9/15～ 9/19 下五島地域におけるアメニティマップの作成	奥山 忠裕	地域政策A	16名
				小計	160名

しま名	日程	テーマ	指導教員	学科	学生数
1	新上五島町	8/18～ 8/22 しまの課題と提案について	田村 善弘	経済B	10名
2		8/18～ 8/22 Twitter: 新上五島をひろめ隊	上村 俊彦	国際交流	11名
3		8/18～ 8/22 新上五島の魅力について	唐津 理恵	国際交流	10名
4		8/26～ 8/29 若者をしまに多く取り入れるために ～定住と観光の視点から～	藤沢 望	情報メディア	9名
5		9/8～ 9/12 九州の愛ランド 五幸はもらわんね ～Five Happiness Island～ (島外へ魅力発信)	村上 則夫	流通経営A	11名
6		9/15～ 9/19 地理的視点から見た観光資源と特産品のPRについて	石川 雄一	地域政策B	17名
7		9/22～ 9/26 地域の人との協働による健康づくりと地元の魅力 探し～ウォーキングマップ作りを通して～	西村 千尋	地域政策A	13名
					小計 81名

しま名	日程	テーマ	指導教員	学科	学生数
1	小値賀町	8/18～ 8/22 小値賀の情報発信について	小原 篤次	国際交流	11名
2		8/26～ 8/29 小値賀の人と誰かをつなぐために	金村 公一	情報メディア	8名
3		9/1～ 9/5 しまに学ぶ～小値賀の人材育成～	吉居 秀樹	地域政策A	12名
4		9/8～ 9/12 小値賀島の特産品と観光名所、それらを取り巻く 現状とこれからに関する報告	齋藤 光正	流通経営A	10名
5		9/8～ 9/12 小値賀の課題とわたしたちからの提案	神保 充弘	流通経営A	12名
6		9/8～ 9/12 野崎島の諸説に関する比較	鴻上 喜芳	流通経営B	6名
					小計 59名

しま名	日程	テーマ	指導教員	学科	学生数
1 宇久町	9/1～ 9/5	宇久島の魅力について	柳田 芳伸	経済A	11名
2	9/15～ 9/19	宇久のオリジナルツアープラン	讀谷山 洋司	経済A	11名
				小計	22名

しま名	日程	テーマ	指導教員	学科	学生数
1 的山大島	9/15～ 9/19	的山大島の観光資源について	西 道彦	経済A	11名
2	9/15～ 9/19	的山大島の魅力発見と現状調査	山本 裕	流通経営A	12名
				小計	23名

合計(56グループ)	602名
------------	------

・「しまなび」プログラムの成果の活用について

1 目的

「しまなび」プログラムにおいて学生が作成した成果のうち、「しま」での活用が期待できるものについて「しま」の関係者と協議し活用策を考える。

2 協議概要

①五島市



【協議月日】 3月8日（火）

【協議者】 学生4名、五島市企画・観光担当職員、
観光協会職員

②壱岐市



【協議月日】 3月16日（水）

【協議者】 学生1名、壱岐市企画・観光担当職員、
観光連盟職員

③小値賀町



【協議月日】 3月31日（木）

【協議者】 学生3名、小値賀町企画担当職員、観光担当職員

資格試験合格者数

<佐世保校>

(単位:人)

項目		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
販売士検定	2級	9	15	11	4	15
	3級	17	19	9	11	9
ファイナンシャル・プランニング技能検定	2級	3	10	8	8	9
	3級	47	32	48	28	16
日商簿記検定	2級	12	8	1	6	4
	3級	35	8	11	10	15
秘書技能検定	1級	—	—	—	—	—
	準1級	14	8	8	6	2
	2級	81	94	42	44	53

<シーポルト校>

(単位:人)

項目		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
MOS (マイクロソフトスペシャリスト)	Excel	32	27	27	22	19
	PowerPoint	—	—	—	—	—
	Word	22	17	—	9	—
秘書技能検定	1級	—	—	—	—	—
	準1級	—	—	3	—	8
	2級	13	8	7	26	19
応用情報技術者資格		1	0	0	0	0
基本情報技術者資格		2	3	2	1	1

(単位:%)

項目		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
看護師国家試験	合格率	98.4	100	100	100	97.1
	国公立平均	98.8	97.0	98.3	98.4	98.6
保健師国家試験	合格率	95.6	100	98.2	100	—
	国公立平均	95.3	99.1	96.0	99.9	—
管理栄養士国家試験	合格率	92.7	90.7	100	95.1	93.0
	国公立平均	95.2	91.0	96.8	95.8	90.9

語学研修先一覧

	大学名	国名	備考
1	ウィスコンシン大学オシュコシュ校	アメリカ	
2	バンクーバー・アイランド大学	カナダ	旧名称:マラスピーナ大学
3	ランガラカレッジ	カナダ	
4	モナッシュ大学	オーストラリア	
5	北京大学	中国	
6	華僑大学	中国	
7	上海外国語大学	中国	
8	高麗大学校	韓国	
9	マウントアイダカレッジ	アメリカ	
11	エドモンズコミュニティカレッジ	アメリカ	
10	セミオRELC	シンガポール	
11	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	イギリス	

平成25年度追加校

	大学名	国名	備考
1	メリルハースト大学	アメリカ	
2	サザンクイーンズランド大学	オーストラリア	
3	ミシシッピー州立大学	アメリカ	

平成26年度追加校

	大学名	国名	備考
1	ビクトリア大学	カナダ	

平成27年追加校

	大学名	国名	備考
1	ディアブロバリーカレッジ	アメリカ	

国際交流学科及び経済学部における外国語の数値目標と実績

《国際交流学科》

○ 英語

中期計画数値目標：国際交流学科で英語を選択する学生については、卒業時までにTOEIC600点以上の能力取得に加え、さらに高得点を目指す

		H23	H24	H25	H26	H27
全学生	学生数(人)	330	320	328	324	332
	うち600点以上(人)	146	137	156	150	185
	600点以上の割合(%)	44.2	42.8	47.6	46.3	55.7
4年次生	学生数(人)	98	87	94	90	97
	うち600点以上(人)	48	48	51	49	65
	600点以上の割合(%)	49.0	55.2	54.3	54.4	67.0

○ 中国語

中期計画数値目標：国際交流学科で中国語を選択する学生については、卒業時までに中国語検定2級以上の能力取得に加え、さらに高得点を目指す

		H23	H24	H25	H26	H27
全学生	学生数(人)	12	16	20	18	14
	うち2級以上(人)	1	1	8	7	4
	2級以上の割合(%)	8.3	6.3	40.0	38.9	28.6
4年次生	学生数(人)	2	2	6	5	5
	うち2級以上(人)	1	1	3	3	2
	2級以上の割合(%)	50.0	50.0	50.0	60.0	40.0

《経済学部インテンシブプログラム》

○ 英語 中期計画数値目標：経済学部の英語インテンシブプログラム受講生については、卒業時までにTOEIC600点以上の能力取得を目指す

		H23	H24	H25	H26	H27
全学生	学生数(人)	161	165	125	92	49
	うち600点以上(人)	28	27	19	15	10
	600点以上の割合(%)	17.4	16.4	15.2	16.3	20.4
4年次生	学生数(人)	38	41	40	44	49
	うち600点以上(人)	10	16	7	5	10
	600点以上の割合(%)	26.3	39.0	17.5	11.4	20.4

○ 中国語 中期計画数値目標：経済学部の中国語インテンシブプログラム受講生については、卒業時までに中国語検定3級以上の能力取得を目指す

		H23	H24	H25	H26	H27
全学生	学生数(人)	45	55	41	32	16
	うち3級以上(人)	6	16	20	17	8
	3級以上の割合(%)	13.3	29.1	48.8	53.1	50.0
4年次生	学生数(人)	8	13	9	17	16
	うち3級以上(人)	1	1	6	9	8
	3級以上の割合(%)	12.5	7.7	66.7	52.9	50.0

経営学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

経営学部

教育目標

経営学部では、現代の国内外の企業経営に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で経営上の課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営に関する専門的・総合的な視野を備え、企業の経営における様々な課題を理解し、分析・解決できる人材
- 外国語を用いたコミュニケーション能力と国際的な視野を備え、グローバルに活躍できる人材

ディプロマポリシー

経営学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 経営、マーケティング、会計等に関する専門的な知識をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力
3. 外国語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力
4. 他者の意見や人格を尊重しながら提案・行動をできる能力

カリキュラムポリシー

経営学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解するために必要な専門的知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目を配置する。
3. 経営上の諸問題を発見・分析・解決し、ビジネスの場で活躍できる実践能力を育成するため、発展科目として経営・国際経営・会計等関連科目、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させ、それまで学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養させるため、ゼミナール科目を配置する。
5. 国際経営学科では、全学教育と専門教育の連携により語学力を向上させ、英語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力向上させるため、英語による授業等の科目を配置する。

経営学科

教育目標

経営学科では、現代の企業経営に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で様々な企業の課題に主体的に対応できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営、マーケティング、金融等に関する知識・知見を有し、企業の各分野において活躍できる人材
- 会計、簿記、税法等に関する専門的知識をもとに、企業や団体の経理部門で活躍できる人材
- 経営、会計等に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

ディプロマポリシー

経営学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経営学）の学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 経営、マーケティング等に関する知識・知見をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力
3. 会計、簿記、税務等に関する専門的知識
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

カリキュラムポリシー

経営学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解する専門的な知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目並びに会社法や簿記に関する科目を配置する。
3. 経営上の課題を発見・分析・解決するための知識を修得させるため、発展科目として経営学・マーケティング分野及び会計関連分野の科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。

5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

国際経営学科

教育目標

国際経営学科では、現代の企業経営に必要な知識・知見と実践力及び国際的な経営感覚を身に付け、グローバルな視点で様々な企業の課題に主体的に対応できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営に関する知識・知見及び外国語を用いたコミュニケーション能力を有し、東アジア地域をはじめ海外展開をする企業や団体で活躍できる人材

ディプロマポリシー

国際経営学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経営学）の学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 海外に事業展開している企業の仕組みやグローバルな環境を理解し、国際的なビジネスの場で活用できる実践的能力
3. 外国語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

カリキュラムポリシー

国際経営学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解する専門的な知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目並びにグローバルな経営に関する科目を配置する。
3. 海外に事業展開している企業の仕組みやグローバルな環境を理解し、国際的なビジネスの場で活躍するために必要な知識を修得させるため、発展科目として国際経営及び経営・経済関連分野の科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。
6. 全学教育と専門教育の連携により語学力を向上させ、英語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を向上させるため、英語による授業等の科目を配置する。

地域創造学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

地域創造学部

教育目標

地域創造学部では、地域の発展に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で地域の課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 地域社会や地域経済が抱える様々な課題を専門的、総合的視野に立って理解し、分析・解決できる人材
- リーダーシップを有し、他者と協働して地域社会や地域経済のあり方を創造できる人材

ディプロマポリシー

地域創造学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 地域の諸課題を理解し、調査・分析できる能力
2. 政策や企画を立案するプロセスを修得し、公的団体等の政策を企画・立案できる能力
3. 経済に関する知見をもとに、地域経済動向を分析できる能力
4. 地域企業の海外事業展開などをグローバルな視野で推進できる能力
5. 他者の意見や人格を尊重しながら提案・行動をことができる能力

カリキュラムポリシー

地域創造学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。また、地域創造学部の教育内容を概観するため、「地域創造概論」を配置する。
2. 公共政策や基礎的な経済理論を理解するために必要な知識を修得させるため、基幹科目として公共政策や地方政治、経済学に関する科目を配置する。
3. 地域の諸問題に関する見識を高めさせるとともに、それらの分析に必要なスキルを修得させるため、発展科目として高度な政策関連科目及び経済関連科目、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させ、これまで学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養させるため、ゼミナール科目を配置する。

公共政策学科

教育目標

公共政策学科では、公共という視点に立って、政策の企画・立案及び評価に関する知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で地域の政策課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 公共政策に関する知識・知見を有し、地方自治体等において活躍できる人材
- 公共政策に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

ディプロマポリシー

公共政策学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（公共政策学）の学位を授与します。

1. 地域が抱える諸問題を理解する能力
2. 社会調査及び分析手法を修得し、諸分野に活用できる能力
3. 政策や企画を立案するプロセスを修得し、公的団体等の政策を企画・立案できる能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

カリキュラムポリシー

公共政策学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域創造学部の教育内容を概観するための「地域創造概論」や、地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。
2. 地域社会が抱える様々な課題を分析・考察し、政策や企画を立案するプロセスを理解させるため、基幹科目として必要な科目を配置する。
3. 地域の諸課題に関する見識を高めるため、発展科目として高度な政策関連科目及び公共政策の諸分野に関する科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践的能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. これまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

実践経済学科

教育目標

実践経済学科では、企業活動における企画・立案能力を有し、地域経済の動向を分析しその発展に寄与できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経済学や地域経済に関する知識・知見を有し、地域企業において活躍できる人材
- 経済学や地域経済に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

ディプロマポリシー

実践経済学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経済学）の学位を授与します。

1. 地域経済動向などの分析に必要な知識とスキル
2. 地域経済が抱える諸課題に関する分析能力や解決能力
3. 地域企業の海外事業展開などをグローバルな視野で推進できる能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

カリキュラムポリシー

実践経済学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域創造学部の教育内容を概観するための「地域創造概論」や、地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。
2. 地域経済動向などの分析に必要な知識を修得させるため、基幹科目として基礎的な経済理論を理解するための科目を配置する。
3. 経済の諸課題に関する見識を高めるため、発展科目として高度な経済関連科目並びに地域経済及び企業経済関連科目を配置する。また、それらの知識を統合し、実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

国際社会学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

国際社会学部

教育目標

国際社会学部では、国際社会及びメディアに関する知識と実践力を身に付け、グローバルな視野での課題解決能力及び情報発信能力を有する人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 政治、経済、社会をグローバルな視野でとらえ、地域社会や国際社会で活躍できる人材
- 高いコミュニケーション能力と情報収集・分析及び批判的・論理的思考能力を備え、自治体や企業の国際部門・マスコミ・多国籍企業等で活躍できる人材
- 東アジア地域に対する広い知見を深め、東アジア諸国を中心とした国際交流の推進や社会の発展に寄与できる人材
- 国際社会に関する知識を有し、教員として活躍できる人材

ディプロマポリシー

国際社会学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（国際社会学）の学位を授与します。

1. 国際社会の構造、現状及び動向について基本的な知識を修得し、現代社会における諸問題を多面的に理解する能力
2. グローバル化する現代社会の諸課題を自ら発見し、解決に導く能力
3. メディアに関する基礎知識を修得し、自らの意見を発信する能力
4. 国際感覚と高い外国語能力に裏づけられたコミュニケーション能力を有し、地域社会や国際社会のために積極的に働きかけができる能力

カリキュラムポリシー

国際社会学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 国際社会に関する知識を修得させるため、入門科目として国際関係やメディア社会に関する基礎的な科目を配置する。
2. 国際社会が直面する問題の理解を目指し、基幹科目として国際政治学、国際経済学、メディア社会学、マスコミュニケーション論等の学術的知識を修得させる科目を配置する。
3. 国際社会を多角的に分析・考察できるように、発展科目としてグローバル社会の研究、地域研究、メディア研究に関する科目を配置する。
4. 論理的な表現力とコミュニケーション力を育成するための演習科目、専門知識を実践的に活かすための実践科目を配置する。
5. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
6. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。
7. 外国語教育については、全学教育科目及び専門教育において英語または中国語を必修とし、コミュニケーション能力の向上のため、外国語による授業、留学生との討論、発表等の科目を配置する。

情報システム学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

情報システム学部

教育目標

情報システム学部では、情報システムに関する知識と実践力を身に付け、高度情報化社会における課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- システム開発にかかる知識や技術を有し、情報技術分野で幅広く活躍できる人材
- 感性豊かな実践的創造力を有し、情報技術を駆使して創造的デザイン分野で活躍できる人材
- 情報セキュリティに関する知識や技術を有し、情報セキュリティ分野で活躍できる人材

ディプロマポリシー

情報システム学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
2. CGや映像、サウンドなどの各種コンテンツを制作するための感性豊かな実践的創造力
3. 情報セキュリティ分野において活躍するための基本的な知識や技術
4. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

カリキュラムポリシー

情報システム学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理

- やIT技術に関する基本的な科目を配置する。
2. 情報システム学科では、プログラミングやコンテンツ制作に関する知識を深めるため、学科専門科目として情報システムに関する応用科目と情報デザインに関する科目を配置する。
 3. 情報セキュリティ学科では、セキュリティに関する知識を深めるため、学科専門科目として情報セキュリティ技術とセキュリティマネジメントに関する科目を配置する。
 4. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけさせるため、演習科目を配置する。
 5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

情報システム学科

教育目標

情報システム学科では、情報システムに関する広い視野と知識を備え、システム開発のプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- システム開発にかかる知識や技術を有し、情報技術分野で幅広く活躍できる人材
- 感性豊かな実践的創造力を有し、情報技術を駆使してデザイン分野で活躍できる人材

ディプロマポリシー

情報システム学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（情報システム学）の学位を授与します。

1. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
2. CGや映像、サウンドなどの各種コンテンツを制作するための感性豊かな実践的創造力
3. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

カリキュラムポリシー

情報システム学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理やIT技術に関する基本的な科目を配置する。
2. プログラミングやコンテンツ制作に関する知識を深めるため、学科専門科目として情報システムに関する応用科目と情報デザインに関する科目を配置する。
3. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけるため、演習科目を配置する。
4. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

情報セキュリティ学科

教育目標

情報セキュリティ学科では、情報セキュリティ全般にわたる広い視野と知識を備え、情報セキュリティのプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 情報セキュリティに関する知識や技術を有し、企業や行政などの情報セキュリティ分野で活躍できる人材

ディプロマポリシー

情報セキュリティ学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士(情報セキュリティ学)の学位を授与します。

1. 情報セキュリティ分野において活躍するための基本的な知識や技術
2. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
3. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

カリキュラムポリシー

情報セキュリティ学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理やIT技術に関する基本的な科目を配置する。
2. セキュリティに関する知識を深めるため、学科専門科目として情報セキュリティ技術とセキュリティマネジメントに関する科目を配置する。
3. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけるため、演習科目を配置する。
4. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

看護栄養学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

看護栄養学部

教育目標

看護栄養学部は、統合的な学習体験を積み重ね、創造的な思考力を身につけることで、看護や栄養に関する高度な専門知識と実践能力を持ち、人びとの健康と福祉の向上に貢献するとともに、あらゆる年齢層のさまざまな健康状態の人びとと接することができる豊かな人間性を持った人材を育成することを目指します。

ディプロマポリシー

1. 看護師、管理栄養士の国家資格を得て、高度な専門知識と実践能力を駆使して人びとの健康と福祉の向上に貢献できる。
2. 食の知識が豊富な看護師、医療や看護の知識が豊富な管理栄養士として、「チーム医療」の一員として活躍できる。
3. 看護の知識や技術が豊富な養護教諭、「食と健康」の中核的役割を担う栄養教諭および学校栄養職員として、教育現場で活躍できる。
4. 看護や地域保健、栄養の分野で活躍する高度専門職業人、研究者、教育者をめざすことができる能力を有する。

看護学科

教育目標

看護学科は、生命の尊厳と人権の尊重を基本とし、生活する人々の健康問題の解決と生活の質の向上に向けて保健・医療・福祉を統合した看護ができる看護職、国際的視野をもち、専門職として看護の発展に自律的・創造的に貢献できる看護職の育成を目指します。

そのため、「看護の対象である人間を理解し、生命の尊厳にもとづいた支援がで

きる能力」、「人々の健康状態を的確にとらえ、生活の質の向上を目指した看護ができる能力」、「保健・医療・福祉などの他の専門職の人々と連携しながら、看護の専門性を発揮した活動ができる能力」、「広い視野に立って考え、生涯に渡って学習を継続していくための基礎的な能力」を養うことを教育目標としています。

ディプロマポリシー

1. 人間性豊かな看護職として、看護の対象である人々を生き方や多様な価値観を持つ個人として理解することができる。
2. 人々の健康ニーズ(健康増進、疾病予防・早期発見、健康回復、安寧な人生の看取り)に対応できる基礎的看護実践能力を有する。
3. 健康支援に関わる保健・医療・福祉等他職種との連携の必要性と看護職の役割について理解し、人々の健康生活を支える基礎的看護実践力を有する。
4. 看護専門職として、生涯にわたり看護の質向上へ向け自己学習、自己研鑽できる基礎的能力を有する。
5. 保健・医療・福祉の分野で看護サービスの質向上に寄与できるリーダーシップの基礎的能力を有する。
6. 所定の条件を満たすことにより、養護教諭一種の資格を得て、看護職としての専門性を備えた教育職として活躍できる。

カリキュラムポリシー

1. 教養教育の充実をはかり、人間性豊かな看護職養成のために全学教育科目単位を24単位以上とする。
2. 看護栄養学部の特長を活かした学部共通科目を構成し、食と運動について理解した上で看護職として実践に活かすことができる科目を設置する。
3. 看護専門職としての実践力を備えた看護職養成のため、カリキュラムおよび学習内容の順序性を考慮したカリキュラム編成とする。
4. 地域で暮らす人々の生活と健康との関係を理解したうえで役割が果たせるように、保健医療福祉の連携と看護の役割について講義、演習、実習を通して理解できるように構成する。
5. 保健師養成を大学院教育とするが、学部における看護師養成においても地域における人々の生活の理解と健康教育支援の科目を設置する。
6. 看護職として基礎的学習の統合として「しまの保健・医療・福祉」「しまの健康実習」「災害看護学」「災害看護学実習」を位置づける。
7. 養護教諭免許取得希望者で所定の条件を満たす学生のために、養護教諭1種免許取得のカリキュラムを設置する。

カリキュラムツリー

栄養健康学科

教育目標

栄養健康学科は、生命科学に立脚した「食と健康」に関する専門的知識や技能を保持した、健康社会実現のために社会の幅広い分野で貢献できる管理栄養士の育成を目指します。特に、「地域の人々の健康と福祉の向上に貢献できる問題解決能力を持った人材」、「人々の健康維持・増進と疾病の予防・回復に貢献できる栄養マ

ネジメント・アセスメント能力を持った人材」、「食品開発、食糧資源の有効利用、食品衛生管理などの分野で活躍できる人材」や「次世代社会を拓く子供たちの食育を担う人材」育成等を教育目標としています。

ディプロマポリシー

1. 「食と健康」に関する生命科学・健康科学の基本的・最新的知識および技術を修得しており、それらの実践的展開に必要な能力を有する。
2. 病院や高齢者福祉施設等の管理栄養士として、個々の対象者の病態や栄養状態の特徴に基づく栄養ケアプランの作成、実施、評価の総合的なマネジメント能力を有する。
3. 学校の栄養教諭・栄養職員および保育施設等の管理栄養士として、子供たちへの食育を通し、健康的な成長・発達を支援する能力を有する。
4. 保健所・市町村等の管理栄養士として、地域社会の健康保持・増進および疾病予防に関するマネジメント能力を有する。
5. 食品の研究・開発や食品衛生管理等の分野で活躍できる能力を有する。

カリキュラムポリシー

1. 初年次に栄養専門家教育の導入科目として「管理栄養士活動論」を設け、専門科目の理解の前提となる基礎科目として、「基礎化学」および「基礎生物学」を設置する。また、各種機器分析法の基礎的な原理と分析技術の理解を深める「機器分析演習」を設置する。
2. 看護栄養学部の特長を活かした学部共通科目を構成し、医療や看護の知識について理解した上で管理栄養士として実践に活かすことができる科目を設置する。
3. 専門基礎科目としての『社会・環境と栄養』『生命と健康』『食べ物と健康』の各分野では、講義とそれらの実験・実習を設置し、栄養学を学ぶための基礎知識・技術の修得および生命科学への関心を養う。
4. 栄養学の基幹となる専門科目としての『栄養学の基礎』をはじめ、『個人と栄養』および『栄養教育・指導』の各分野では、講義や実験・実習・演習を通して、専門知識・基本技術の修得を行う。
5. 栄養学の実践的な専門科目としての『臨床栄養』『地域栄養』『フードマネジメント栄養』の各分野では、講義および実習を通して、各職域の管理栄養士として必要な高度な専門知識と技術の修得を行う。
6. 学内において各専門科目で修得した知識と技術を統合し、総合演習を経て、病院、保健所、学校・福祉施設等の協力のもと学外での実習(臨地実習)を行い、社会性や協調性および問題解決能力を養う。
7. 本学教員の研究・教育専門分野に関わる「卒業研究」を通して最新の研究を行い、管理栄養士育成のみならず企業への就職や将来の研究者も視野に入れ、研究計画の立案力、創造力、総括力を養い、併せて実験または調査研究から得られたデータの解析・洞察の能力を養う。

経済学研究科

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

経済学研究科

教育目標

経済学研究科は、専門化・地域化・国際化という教育理念の下、地域社会に貢献できる高等専門教育研究機関および生涯教育機関（キャリア・アップ教育機関）として寄与することを目的とし、現実の産業経済社会に対して様々な側面から問題発見・問題解決の能力を持つ人材の育成を目指します。

1. 産業経済・経済開発に関する理論および分析技法の理解の上に、定量的・定性的な分析能力を持った研究者の育成。
2. 経済・産業に関する幅広い視野と高度専門知識を持った産業エキスパートの育成。
3. 税務・会計に関する高度専門知識を持った専門的職業人の育成。
4. 国内外の経済活動に関する高度専門知識の修得の上に、より優れた判断力と指導力を持った社会的リーダーの育成。
5. 外国人留学生の人材養成によるグローバルなネットワークの構築の上に、国際社会に貢献できる人材の育成。

ディプロマポリシー

21世紀の知識基盤社会を迎え、産業経済・経済開発などの分野においても「専門化」、「情報化」、「国際化」という現代社会の要請に適応する人材養成や高等専門教育などが求められている。このような状況の中で、本研究科の修了生は、産業界、官公庁、あるいは研究分野からの幅広い人材養成ニーズに対応し、現実の産業地域社会に対して様々な側面から課題探究能力を備え持つ高度な専門職業人としての能力を有する。

1. 産業・経営領域で学位を取得した学生は、産業・経済に関する広い視野と、高度な専門知識を持ち、産業分野における活力創出のニーズに応えうる高度な専門職業人としての能力を有する。また、税理士などの国家資格を取得し、地域産業の活性化に寄与できる税務・会計に関する高度な知識を備えた会計工キスパートとしての能力を有する。
2. 地域・公共政策領域で学位を取得した学生は、地域経済・地域産業振興や公共政策等に関する政策の企画・立案をリードする政策工キスパートやまちづくりコンサルタントとしての能力を有する。また、国際社会の変化に対応し、国際間および地域間の諸問題を多元的に分析することにより社会に貢献できる高度な専門職業人としての能力を有する。

カリキュラムポリシー

【領域共通科目】

1. 現実の産業社会に対して様々な側面から課題探究能力を持つ高度な専門的職業人を養成することを目的として「経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「経済統計特論Ⅰ、Ⅱ」「情報処理特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。

【産業・経営領域】

1. 産業・経営に関する理解を深めるため「産業組織特論Ⅰ、Ⅱ」「流通産業特論Ⅰ、Ⅱ」「農業経済特論Ⅰ、Ⅱ」「経営学特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。
2. 流通に関する理解を深めるため「流通経済特論Ⅰ、Ⅱ」「マーケティング特論Ⅰ、Ⅱ」「流通システム特論Ⅰ、Ⅱ」「流通情報特論Ⅰ、Ⅱ」「流通と消費者特論Ⅰ、Ⅱ」「流通史特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。
3. 税務・会計に関する理解を深めるため「会計学特論Ⅰ、Ⅱ」「財務諸表特論Ⅰ、Ⅱ」「財務会計特論Ⅰ、Ⅱ」「企業税法特論Ⅰ、Ⅱ」「租税法特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。

【地域・公共政策領域】

1. 地域に関する知識と理解を深めるため「国際経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「貿易特論Ⅰ、Ⅱ」「国際政治学特論Ⅰ、Ⅱ」「国際金融特論Ⅰ、Ⅱ」「中国経済特論Ⅰ、Ⅱ」「西洋経済史特論Ⅰ、Ⅱ」「経済システム特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。
2. 公共政策に関する理解を深めるため「公共政策特論Ⅰ、Ⅱ」「地域経済特論Ⅰ、Ⅱ」「計量経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「財政学特論Ⅰ、Ⅱ」「地方財政特論Ⅰ、Ⅱ」「地域計画特論Ⅰ、Ⅱ」「都市地理学特論Ⅰ、Ⅱ」「社会情報特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。
3. 長崎県が離島を多く抱えている地理的特性から「離島研究特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。

国際情報学研究科

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

国際情報学研究科

教育目標

国際情報学研究科は、国際性、学際性、先端性を重視した教育研究に基づく幅広い知識と技術を合わせ持った高度専門職業人の育成を図り、地域社会や国際社会へ貢献できる大学院（修士課程）を目指します。

具体的には、IT革命の急進展やそれに伴うグローバル化の深化などによる社会の激しい変化に対応できる人材の育成や、情報と社会との関わりについての幅広い知識を修得し、活用できる能力を有した人材の育成を行います。また、最先端の情報技術を駆使した情報システムの高度な知識や技術を修得し、高度情報化社会を担うことができる専門職業人の育成を目指します。

さらに、時代や社会の要請に応えることができる高度な知識と技術を有し、国際社会、地域社会、企業、官庁などで中心的・指導的役割を担える高度専門職業人の育成や、高度な語学力とコミュニケーション能力を有し、国内外における国際的場面で活躍できる人材の育成を目指します。

ディプロマポリシー

急速に進行する国際化、情報化に十分対応するためには、自らが設定した研究課題について、情報の収集、分析を主体的に行い独創的な成果を導き出し、研究成果を論理的に整理し、将来を見据えた視点と的確な表現で国内外に発信する能力を有する。

国際交流学専攻の修了生は、国際間の政治や経済を学際的に分析研究するための専門知識、長崎や日本を東アジアの一員として世界に発信するための専門知識を有

する。（国際関係領域）世界の人々と交流するために必要となる異文化理解に関する専門知識と、高度な英語、中国語のコミュニケーション能力を有する。また、英語を主専攻とした者は、英語圏の社会や文化、英語コミュニケーション、次世代の英語教育に関する専門知識を有する。（国際コミュニケーション領域）

情報メディア学専攻の修了生は、情報技術理論やそれを応用したコンピュータソフト開発、高度な画像処理技術、セキュリティの高いシステム開発能力とともに、画像、映像、音声などの様々な情報発信のためのコンテンツを企画、創造、開発する能力を有する。（情報技術・コンテンツ領域）高度情報化社会についての国際、社会、経済、法的な理論を基に、様々なメディアを介したコミュニケーションにおける情報内容や表現方法が社会に及ぼす影響について理解し、実践的活用能力を有する。（社会情報領域）

カリキュラムポリシー

国際交流学専攻

1. 21世紀の国際関係、国際社会の諸問題を学際的に研究考察する際に必要となる学識を涵養する。
 - ・国際関係、国際経済、国際協調、日本を取り巻く国際環境について研究する科目群として、「日本政治外交史」「日米関係と安全保障」「朝鮮半島の政治」「中国の政治欧州統合論」「国際関係史」「国際紛争と法」「国際機構と法」「国際ビジネス論」「国際経営論」「国際金融論」「国際経済学」などを設置する。
 - ・国際社会、国際交流や異文化への理解を深めるための科目群として、「異文化間コミュニケーション」「比較文化論」「異文化共生論」「中国文化論」「韓国文化論」「東洋史特論」「西洋中世史」「文化とパフォーマンス」などを設置する。
2. 国際社会の一員として発信できる高度なコミュニケーション能力を涵養する。
 - ・世界に向けて発信していくための外国語コミュニケーション能力を涵養する科目群として、「英語コミュニケーション論」「中国語コミュニケーション論」「韓国語コミュニケーション論」などを設置する。
 - ・世界に情報を発信する際に必要となる日本に関する知識を高める科目群として、「日本文化論」「日本近世史」「日本近代文学」「長崎地域資料論」などを設置する。
3. 英語圏の文学、英語コミュニケーションの専門家としての専門知識を涵養する。
 - ・高度な英語コミュニケーション能力や英語に関する専門知識の習得のための科目として、「英語音声学・音韻論」「英語学概論」「英語学特論」「国際英語論」「応用言語学」「英語教育研究」「翻訳論」「イギリス文学」「アメリカ文学」などを設置する。

情報メディア学専攻

1. 情報システムの開発や普及に貢献するための能力を涵養する。
 - ・情報技術理論とシステム開発、画像処理技術の科目として、「微分幾何学」「カオス時系列解析」「情報セキュリティ」「画像情報処理」「画像計測」「ヒューマンインターフェース」などを設置する。
 - ・情報発信のためのコンテンツの企画、創造、開発の科目として、「視聴覚コミュニケーション」「色彩情報」「メディアコンテンツプランニング」「視覚認知」などを設置する。
2. 高度情報社会の学際的理解を涵養する。
 - ・社会情報関連の科目として、「映像ジャーナリズム論」「情報ネット経済」「情報法」「メディア・コミュニケーション」「情報政策」などを設置する。
 - ・メディア関連の科目として、「映像と社会」「文化と社会」「メディアと表現」「教育とメディア」「広告と文化」などを設置する。

人間健康科学研究科

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

人間健康科学研究科

教育目標

人間健康科学研究科は、本学が公立大学であることを強く意識し、大学の知的財産を地域社会や住民・企業等に還元することが大きな責務であると認識しています。

島嶼の多い長崎県では過疎化と高齢化が他の都道府県より進んでおり、保健・医療・福祉関係の出費の比率は極めて高くなっています。これらの領域における課題解決のための高度な専門的知識や技術を創造する研究者および高度専門職業人を育成することが本研究科の教育目標です。

このことを踏まえ、県民の健康の保持増進ならびに疾病の予防に寄与する最新の知識や技術を研究開発する能力、最新の知識や技術を活用して県民の健康水準を向上させていく能力、地域の専門職と連携して県民の生活習慣に変革をもたらす政策を考案し、保健・医療・福祉・介護システムを変革する能力、健康保持増進の視点に立って次世代の専門職を育てる能力などをもった高度専門職業人を育成すると共に、地場産業の発展・活性化に寄与する研究・開発に取り組みます。その育成の対象は、学部卒の一般学生のみならず、社会人、外国人留学生などを含んでいます。

ディプロマポリシー

看護学専攻

保健医療福祉に関わるニーズの多様化・複雑化、社会の変化に対応するには、自ら課題を探求し、幅広い視野にたって柔軟かつ総合的な判断ができるための知識、技能、研究能力が必要とされている。また、過疎化・高齢化が急速に進んでいる本

県において、高度化・細分化および特性化した地域の社会的ニーズに応えるためのマンパワーの育成および再教育が必要である。

看護領域に関する多くの諸問題を解決ができる指導的人材、すなわち高度専門職業人としての能力を有する。

看護医療について実践的な教育指導ができる高度な専門家としての能力を有している。

将来の看護学や保健医療の基盤を支え、学術研究を通じて社会に貢献できる研究者、教育者としての能力を有する。

栄養科学専攻

食品の機能性を科学的に追究し、その成果を健康の増進や質の高い食生活、体調の調節などに役立てること、また食品・食糧の質的向上およびそれらの生産技術の向上に役立てることを目標とする。これらを達成するために食品科学分野で活躍できる高度専門職業人としての能力を有する。健康の保持増進の視点に立って次世代の専門職を育てる能力を育成する教育指導者としての能力を有する。また必要な専門知識や基礎研究を修得させて栄養科学分野における研究者としての能力を有する。機能性食品や消費者にニーズに合った食品を開発するための高度な知識や能力を有する。

カリキュラムポリシー

看護学専攻

上記ディプロマポリシーの目標を達成できるよう、以下に示す教育方針で教育課程を編成し科目を設置する。

1. 看護研究において理論と方法に基づき分析し検討を行うことができる。
2. 地域の健康問題に関してヘルスアセスメントを行うことができる。
3. 看護行政について的確な判断・提案をすることができる。
4. 地域住民の立場に立って健康に関する問題点を見つけ出すことができる。
5. 自分の専門の分野において高度な看護実践能力発揮し、現場の指導者となることができる。

具体的には、看護学専攻においては、看護管理能力の育成と健康管理・指導能力の育成に重点を置き、『看護学共通科目』及び『看護学専攻科目』を設置する。

『看護学共通科目』は、看護研究の基盤となる「看護研究の理論と方法」や「保健統計」はもちろん、理論的検討を行う「看護理論」、看護に求められる「ヘルスアセスメント」、変化する保健・医療・福祉政策の中での看護行政を検討する「看護政策論」、対人関係能力の育成科目として「看護カウンセリング」など6科目を設置する。

『看護学専攻科目』においては、『看護管理学』『母子看護学』『成人・高齢者看護学』『地域看護学』『障害福祉ケア』の5分野を設置して、より高度な看護実践能力の育成を図るとともに、現場の指導者となる管理的能力を備えた高度専門職の育成を行う。

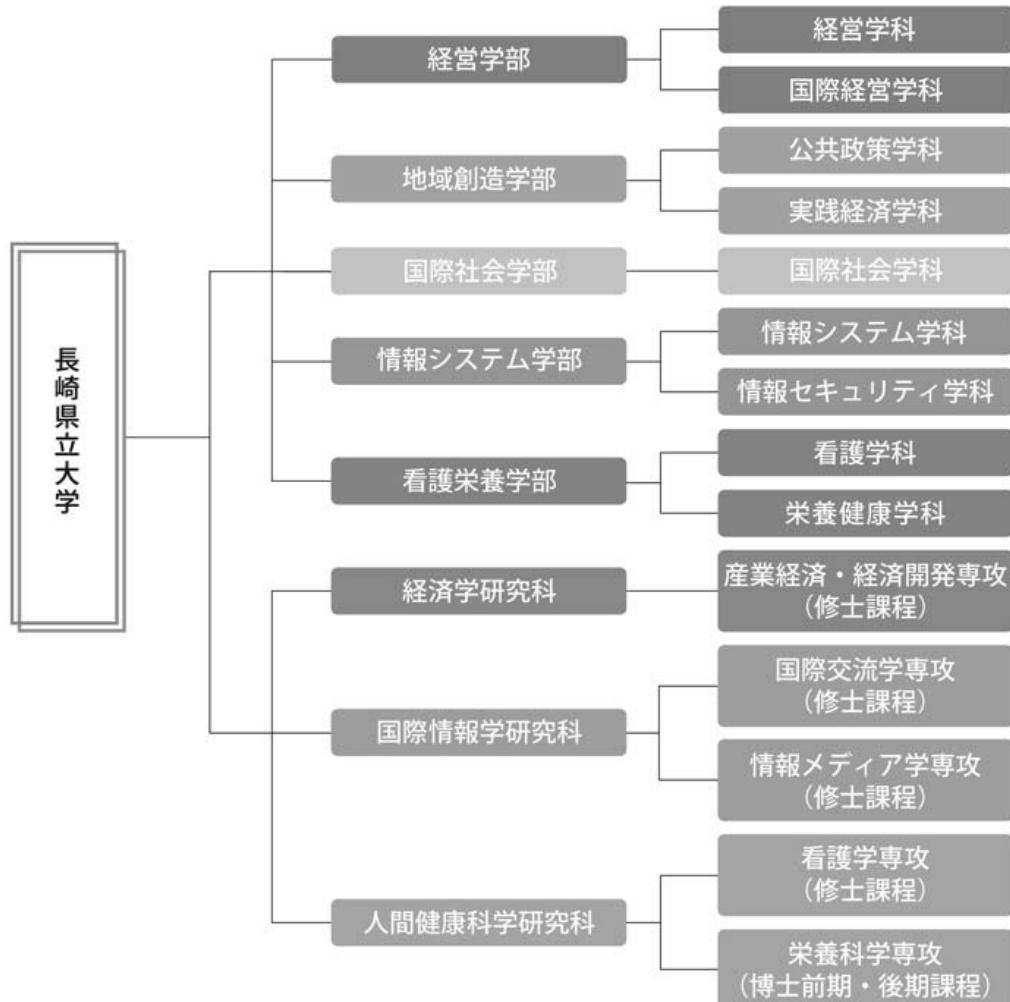
また、看護学専攻は、4年制大学の卒業生のみを主対象とせず、社会で経験を積んだ人材の中からも大学卒業と同等の能力のある看護職にも道を開き、勤務を続け

ながら履修できるよう、社会人を対象とした昼夜開講制を導入している。

栄養科学専攻

1. 栄養科学分野における高度な専門的職業人、教育指導者および研究者を育成するために、栄養科学専攻では『領域共通科目』『基礎栄養科学領域』『実践栄養科学領域』および『専門科目』の教育を行う。
2. 栄養科学専攻における全体的な教育・研究内容について理解するための導入として「領域共通科目」として「栄養科学特論」「栄養科学演習」を設置する。
3. 専門的な基礎知識および理論を修得するために『基礎栄養科学領域』の各特論を設置する。
4. 生命科学の本質である遺伝子発現に対する栄養素、ひいては食事の制御メカニズムを研究し、その成果に基づいた教育に重点をおくために、「細胞生化学特論」「栄養生理学特論」を設置する。
5. 超高齢社会における健康志向に応えられる食品の機能性の開発とその利用性に力点を置いた教育・研究を推進するため、人体の健康的な機能統合、代謝調節およびそれらに必要な栄養素補給、微生物と人間の共存、食品の安全性および食品の機能性とその利用を内容とする教育に重点をおく。そのために、「機能形態学特論」「代謝栄養学特論」「高分子化学特論」「共生微生物学特論」「食品機能学特論」を設置する。
6. 社会における健康問題の背景を食・栄養の面から疫学的な手法を用いて解析し、長期展望に立った栄養・健康の計画および実践に力点を置いた教育（「栄養疫学特論」）に重点をおく。
7. 人間を対象としたものの考え方方に視点をおいた実践科学としての栄養学を修得するために『実践栄養科学領域』の各特論を設置する。
8. 人体の健康的な機能統合、代謝調節およびそれらに必要な栄養素補給、腸内環境を含めた健康影響、健康づくりのための栄養状態の評価・判定、食生活、身体活動、ストレスなどの生活習慣によってもたらされる慢性疾患の予防および治療のための栄養補給、栄養管理のあり方、疾病回復のための食養法、運動負荷と健康増進・体力向上・疾病回復、栄養補給の適・不適の診断とその対応、加齢とともになる機能変化や生活環境と栄養との関連などについて、栄養効果と生体側の状態に関する教育に重点をおく。そのために、「保健栄養学特論」「臨床栄養学特論」「生活習慣病医療学特論」「栄養診断学特論」「健康体力科学特論」「栄養管理学特論」「調理科学特論」「健康増進科学特論」を設置する。
9. 国際感覚を持った栄養専門家の材育成を目指し、長崎ならではの食と健康を通じた国際交流を実践するための教育（「国際保健学特論」）に重点をおく。
10. 栄養科学分野の研究者として必要な知識や研究開発するための能力を『専門科目』で養成する。
11. 研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、健康科学を探究する修士論文・博士論文の作成に取り組むために、「栄養科学特別研究Ⅰ」「栄養科学特別研究Ⅱ」を設置する。
12. ゼミ形式により各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解する。また、研究成果の学会での発表、学術論文誌への原稿作成や投稿について修得することを目的として、「栄養科学特別演習Ⅰ」「栄養科学特別演習Ⅱ」を設置する。

アドミッション・ポリシー



長崎県立大学のアドミッション・ポリシー

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

求める学生像

- 人や自然を尊重できる人
- 何事にも好奇心をもち、積極的に挑戦したいと考えている人
- 目的をもって、忍耐強く努力したいと思っている人

- ・長崎の歴史・文化や地域的特性に関心をもっている人
- ・地域社会や国際社会に貢献したいと考えている人

[このページの先頭へ↑](#)

経営学部のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- ・企業の仕組み、マーケティング、簿記・会計などに関心を持つ人
- ・国際的に展開する企業活動や、日本企業の現場の仕組みに関心を持つ人
- ・企画力と課題解決能力を学び、チームで良質な製品・商品・サービスを顧客に提供することに強い関心を持つ人
- ・外国語を用いて、グローバルに活躍するビジネスパーソンを目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

経営学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- ・経営に関する専門知識を学び、企業を立ち上げたり、企業の成長に貢献したい人
- ・マーケティング・流通に関する専門知識を学び、小売・サービス・金融・運輸などの分野で活躍したい人
- ・会計の専門的知識を学び、税理士や企業の経理部門で活躍したい人
- ・経営に関する企画・立案能力を高めて、企業や地域社会の成長に貢献したい人

入学者選抜の基本方針

経営学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- ・一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- ・一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課すとともに、小論文で、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- ・推薦入試（アカウンティングコース）

小論文で、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- ・推薦入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適正などを総合的に評価します。

- ・帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- ・社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- ・私費外国人留学生入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、日本語能力を評価するとともに、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

国際経営学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- ・語学力向上に意欲を持ち、国際社会の中で活躍したい人
- ・国際的な経営に関する専門知識を学び、グローバルに活動する企業で活躍したい人
- ・他国の人とも協働しながら経営に関する企画・立案能力を高めて、国際社会の成長に貢献したい人

入学者選抜の基本方針

国際経営学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- ・一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- ・一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課すとともに、小論文で課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- ・推薦入試

個別学力検査等（英語）で、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- ・帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- ・社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- ・私費外国人留学生入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、日本語能力を評価するとともに、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

地域創造学部のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- ・地域社会や地域経済の課題に関心を持ち、その課題解決方法を学びたい人
- ・積極的に地域に入って、課題の発見や分析を行いたい人
- ・他者と協働してよりよい地域社会や地域経済を創造したい人

[このページの先頭へ↑](#)

公共政策学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- ・地域や私たちの身の回りのさまざまな政策課題について習得した知識を活かして、地域の豊かな暮らしの構築に向けて貢献したい人
- ・政策の企画・立案について習得した知識を活かして、行政や民間企業で活躍したい人
- ・地域の諸問題を分析・考察するための知識やスキルを活用して、地域づくりに貢献したい人

入学者選抜の基本方針

公共政策学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- ・一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語又は数学）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- ・一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、小論文で、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- ・推薦入試（県内離島高校区分）

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専

専門分野に対する適正などを総合的に評価します。

- 推薦入試

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、面接により、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適正などを総合的に評価します。

- 帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 私費外国人留学生入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、日本語能力を評価するとともに、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

実践経済学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 地域経済や企業の動向などの分析に興味・関心を持つ人
- 地域社会や企業において経済に関する実践的なスキルを活かして活躍したい人
- 経済学分野の実践的能力や立案能力を要する職種で活躍したい人
- 企業の国内外における取引や事業等においてグローバルな経済活動を目指す人

入学者選抜の基本方針

実践経済学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語又は数学）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- 一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、小論文で課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- 推薦入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- ・帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- ・社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- ・私費外国人留学生入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、日本語能力を評価するとともに、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

国際社会学部のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- ・国際政治や経済など国際社会の諸事象や仕組みについて幅広い関心を持つ人
- ・グローバル化する現代社会における諸問題を解決しようとする意欲を持つ人
- ・現代社会におけるメディアに関心を持ち、社会の様々な出来事に対して自らの考えを論理的に展開できる人
- ・東アジアに関心を持ち、東アジア諸国を中心とした国際交流の推進に貢献したい人
- ・英語や中国語などの外国語による高いコミュニケーション能力を習得する意欲を持つ人

入学者選抜の基本方針

国際社会学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、アドミッション・オフィス入試、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- ・一般入試（前期日程、後期日程）

基礎学力の把握ため、大学入試センター試験（4教科5科目又は6科目、又は5教科5科目又は6科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- ・アドミッション・オフィス入試（AO入試）

第1次選考では、出願書類に基づき、学科が求める学生像に合致しているか、学科を志望する理由が明確であるか、入学後の学習意欲や将来の展望が的確に示されているか、などの観点から評価します。

第2次選考では、小論文で課題に対する理解力、論理的思考力、表現力などの能力をみて、面接で出願書類を参考に、目的意識、学習意欲、学科が提供する専門分野に対する適性などを評価します。

- ・推薦入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- **帰国子女入試**

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- **社会人入試**

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- **私費外国人留学生入試**

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

情報システム学部のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 情報技術や情報セキュリティ技術に強い関心を持つ人
- 高度情報化社会における諸問題について解決を図ろうとする意欲を持つ人

[このページの先頭へ↑](#)

情報システム学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- Web、モバイル、ネットワークなどの情報技術に強い関心を持つ人
- プログラミングやシステム構築などにより問題解決を図ろうとする意欲を持つ人
- 多様な情報メディアを活用して、コンテンツを制作する知識を深め、技術や感性を高めたい人

入学者選抜の基本方針

情報システム学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- **一般入試（前期日程、後期日程）**

基礎学力の把握ため、大学入試センター試験（5教科6科目又は7科目）を課すとともに、個別学力検査等（数学）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- **推薦入試**

小論文では、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等

を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- **帰国子女入試**

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- **社会人入試**

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- **私費外国人留学生入試**

本学科が示す要件等をすべて満たしいること条件に、面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

情報セキュリティ学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 情報セキュリティに関する基本的な知識・技術を修得し、情報セキュリティ分野で活躍したい人
- Web、モバイル、ネットワークなどの情報技術に強い関心を持つ人
- プログラミングやシステム構築などにより問題解決を図ろうとする意欲を持つ人

入学者選抜の基本方針

情報セキュリティ学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- **一般入試（前期日程、後期日程）**

基礎学力の把握ため、大学入試センター試験（5教科6科目）を課すとともに、個別学力検査等（数学）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- **推薦入試**

小論文では、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- **帰国子女入試**

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- **社会人入試**

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 私費外国人留学生入試

本学科が示す要件等をすべて満たしいること条件に、面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

看護栄養学部のアドミッション・ポリシー

看護学科と栄養健康学科の学生は、単にその領域の科目を学習するだけでなく、国家試験を経て人々の健康に直接関わる職業に就くことを社会から期待されています。その基本は、憲法25条にしめされているように国民が健康で文化的な生活を営むことができるよう、社会的使命を実践することにあります。本学部では、豊富な科学的専門的知識を習得するとともに大学生として幅広く学び、あらゆる年齢層のさまざまな健康状態の人々と接することができる豊かな人間性を育成することを教育目標としています。

求める学生像

- いのちの尊さを理解し、まじめに努力する人
- 人に対する思いやりを持ち、人の苦しみを共有できる人
- 科学を重視し、適確に物事を行える人
- 社会制度の変化に敏感かつ適正に対応できる人
- 協調性があり、他の職種の人々とチーム医療のできる人

[このページの先頭へ↑](#)

看護学科のアドミッション・ポリシー

看護学科では、生命の尊厳と人権の尊重を基本とし、生活する人々の健康問題の解決と生活の質の向上に向けて保健・医療・福祉を統合した看護ができる看護職、国際的視野をもち、専門職として看護の発展に自律的・創造的に貢献できる看護職の育成を目指しています。

そのため、「看護の対象である人間を理解し、生命の尊厳にもとづいた支援ができる能力」、「人々の健康状態を的確にとらえ、生活の質の向上を目指した看護ができる能力」、「保健・医療・福祉などの他の専門職の人々と連携しながら、看護の専門性を発揮した活動ができる能力」、「広い視野に立って考え、生涯に渡って学習を継続していくための基礎的な能力」を養うことを教育目標としています。

求める学生像

- いのちを大切に思う心と人間を深く理解しようとする姿勢を持っている人
- 疑問を持ち、自分から問題に取り組む意欲を持っている人

- ・ものごとを科学的に追究し、計画的に行動できる人
- ・人間の多様性を認め、柔軟かつ建設的に考え方行動できる人
- ・人々との共同作業において協調性があり、率先して活動ができる人

入学者選抜の基本方針

看護学科では、一般入試（前期日程、後期日程）、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程、後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目又は7科目）を課すとともに、小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接で、調査書等の出願書類を参考に、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 推薦入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 推薦入試（離島看護師特別枠）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目又は7科目）を課すとともに、面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適正などを総合的に評価します。
- 帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 社会人入試

小論文で、高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 編入学入試

総合問題で、高等学校で得た基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。また、英語による記述試験を行います。

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 私費外国人留学生入試

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性、日本語による会話的表現力等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

栄養健康学科のアドミッション・ポリシー

生命科学に立脚した「食と健康」に関する専門的知識や技能を保持した、健康社会実現のために社会の幅広い分野で貢献できる管理栄養士を育成します。特に、「地域の人々の健康と福祉の向上に貢献できる問題解決能力を持った人材」、「人々の健康維持・増進と疾病の予防・回復に貢献できる栄養マネジメント・アセスメント能力を持った人材」、「食品開発、食糧資源の有効利用、食品衛生管理などの分野で活躍できる人材」や「次世代社会を拓く子供たちの食育を担う人材」育成等を教育目標としています。

求める学生像

- 身近な「食と健康」を通して健康・福祉社会の創出に貢献したい人
- 保健・医療・健康分野や県や市町村などの管理栄養士を志す人
- 食品開発、食品の安全性や機能性などに興味を持っている人
- 子供たちの食育を通して健康生活づくりに寄与したい人
- 生命科学に根ざした「食と健康」を科学するスペシャリストになりたい人

入学者選抜の基本方針

栄養健康学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科7科目）を課すとともに、個別学力検査で、高等学校で得た化学の基本的な知識と理解力について評価します。
- 一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目又は7科目）を課すとともに、個別学力検査（面接）で、志望動機や将来の展望などとともに、高等学校の一般的な学習を前提とした栄養・健康・生命科学に関する時事的諸問題についての理解力や理科学的思考などを総合的に問います。
- 推薦入試

和文及び英文の小論文で、課題に対する基礎的知識、読解力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接で、志望動機、学科への関心、生命科学への関心、健康観、将来展望、高校生活等の質疑応答から、目的意識と意欲を総合的に判断します。
- 帰国子女入試

小論文で、課題に対する基礎的知識、読解力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価します。
英語に関する問題も含みます。
面接で、志望動機、学科への関心、生命科学への関心、健康観、将来展望、高校生活等の質疑応答から、目的意識と意欲を総合的に評価します。
- 社会人入試

小論文で、課題に対する基礎的知識、読解力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価します。
英語に関する問題も含みます。
面接で、志望動機、学科への関心、生命科学への関心、健康観、将来展望、高校生活等の質疑応答から、目的意識と意欲を総合的に評価します。
- 私費外国人留学生入試

学力試験では、化学の基本的な知識と理解力について評価します。
面接で、志望動機、学科への関心、生命科学への関心、健康観、将来展望等の質疑応答から、目

的意識と意欲を総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

経済学研究科（産業経済・経済開発専攻）のアドミッション・ポリシー

本研究科は、専門化・地域化・国際化という教育理念の下、地域社会に貢献できる高等専門教育研究機関および生涯教育機関（キャリア・アップ教育機関）として寄与することを目的とし、現実の産業経済社会に対して様々な側面から問題発見・問題解決の能力を持つ人材の育成を目標とする。

1. 産業経済・経済開発に関する理論および分析技法の理解の上に、数量的・定性的な分析能力を持つ研究者の育成。
2. 経済・産業に幅広い視野と高度専門知識を持った産業工キスパートの育成。
3. 税務・会計に関する高度専門知識を持った専門的職業人の育成。
4. 国内外の経済活動に関する高度専門知識の修得の上に、より優れた判断力と指導力を持った社会的リーダーの育成。
5. 外国人留学生の人材養成によるグローバル的なネットワークの構築の上に、国際社会に貢献できる人材の育成。

産業経済・経済開発専攻の基本目標

1. グローバルな問題発想のできる専門的職業人の養成

従来の学問分野の枠を超えたグローバルな発想ができるだけでなく、社会の多様な方面で活動しうる高度な能力と豊かな学識を有する人材を養成する。

2. 地域社会に根差した大学院

長崎県という地域の特性を配慮した研究・教育に重点を置く。地域の産業技術の向上に対応しうる技術の指導や各種職業資格取得に役立つ教育を行う。

3. 国際的に貢献しうる人材の育成

国際交流の伝統を有する長崎県の特性を活かし、新たなる国際交流のための有能な人材を育成する。

求める学生像

- 高度な学術的専門知識を身につけ、教育・研究に携わりたい人
- 地域産業社会への貢献を考えている人
- 地域社会の多様な方面でリーダー的な活躍を考えている人
- グローバルな発想を持ち、国際連携・国際貢献に関心を持つ人
- 税理士を目指す人
- 中学校教諭専修免許（社会）・高等学校教諭専修免許（地理歴史・公民・商業）を取得したい人

[このページの先頭へ↑](#)

国際情報学研究科のアドミッション・ポリシー

本研究科は、国際性、学際性、先端性を重視した教育研究に基づく幅広い知識と技術を合わせ持った高度専門職業人の育成を図り、地域社会や国際社会へ貢献できる大学院（修士課程）を目指しています。

具体的には、IT革命の急進展やそれに伴うグローバル化の深化などによる社会の激しい変化に対応できる人材の育成や、情報と社会との関わりについての幅広い

知識を修得し、活用できる能力を有した人材の育成を行います。また、最先端の情報技術を駆使した情報システムの高度な知識や技術を修得し、高度情報化社会を担うことができる専門職業人の育成を目指します。さらに、時代や社会の要請に応えることができる高度な知識と技術を有し、国際社会、地域社会、企業、官庁などで中心的・指導的役割を担える高度専門職業人の育成や、高度な語学力とコミュニケーション能力を有し、国内外における国際的場面で活躍できる人材の育成を目指します。

求める学生像

- 國際関係に興味を持って、國際機関や多国籍企業で働き、國際社會に貢献したいという意欲のある人
- 歴史文化や異文化間コミュニケーションに関心を持ち、これらの分野の専門知識やコミュニケーション能力を通して、地域社会や国際社会に貢献したいという意欲のある人
- 情報技術や情報デザインに興味を持って、高度な技術開発に貢献したいという意欲のある人
- 社会と情報との関わりに関心を持って、高度情報化社会に貢献したいという意欲のある人
- 高度な関連知識を修得し、中学校教諭専修免許（英語・社会）、高等学校教諭専修免許（英語・公民・情報）の取得を目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

国際交流学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻は、国際性と学際性を重視した教育研究に基づき、現代の複雑な国際社会の諸問題を分析するための学識を養い、世界的な視野に立って問題を解決できる高度専門職業人の養成を目指します。また、高度な語学力とコミュニケーション能力を有した人材、比較文化、歴史、文学などに精通した国際性を有する人材の育成も行います。

具体的には、国際社会、言語、文化について国際理解とそれに基づく国際協調の精神を持ち、国際社会に貢献できる高度専門職業人の育成や外国語でコミュニケーションが十分でき、国際的に活躍できる人材の育成を行います。また、国際機関、多国籍企業、NGOなどで語学力と国際関係の知識を活用し、国際社会に貢献できる高度専門職業人の育成、および国際交流を目的とした団体、官庁や地方公共団体において国際関係の分野で活躍できる人材の育成を目指します。

求める学生像

- 国際社会の様々な問題に興味を持ち、国際機関や多国籍企業、NGOを舞台に世界的な視野に立って問題を解決し、国際社会に貢献したいという意欲のある人
- 国際交流の基礎をなす言語、歴史、異文化間コミュニケーションなどに関心を持ち、これらの分野の専門知識やコミュニケーション能力を使って、国内および国際社会で活躍したいという意欲のある人
- 官庁、地方公共団体などで国際交流の分野で働きたいという意欲のある人
- 高度な関連知識を修得し、中学校教諭専修免許（英語・社会）、高等学校教諭専修免許（英語・公民）の取得を目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

情報メディア学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻は、先端性と学際性を重視した教育研究に基づき、情報と社会の関わりについての幅広い知識を持った人材の育成を目指します。また、最先端の情報技術を修得し、活用できる人材、情報システムを創造的に構築できる高度な知識と技術を持つ専門職業人の養成を行います。

具体的には、情報と社会、経済、法などとの関わりについて幅広い知識を修得し、様々なメディアを介した情報が社会に及ぼす影響を分析できる能力を有した人材の育成や、情報システムの開発や情報コンテンツをデザインする能力を修得し、高度情報化社会において指導的立場に立つことができる専門職業人の育成を目指します。また、企業、官庁、地方公共団体において、情報技術の分野で中心的な立場に立てる人材の育成も行います。

求める学生像

- 情報システムの開発や高度な画像処理技術などに関心を持ち、最先端の情報技術の開発に意欲のある人
- 画像、映像、音声などのコンテンツをデザインすることに興味を持ち、高度な技術開発に貢献したいという意欲のある人
- 社会、経済、法などと情報との関わりに関心を持って、情報が社会に及ぼす影響について研究し、高度情報化社会に貢献したいという意欲のある人
- 企業、官庁、あるいは地方公共団体において情報技術の分野で指導的役割を担おうとする意欲のある人
- 高度な関連知識を修得し、高等学校教諭専修免許（情報）の取得を目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

人間健康科学研究科のアドミッション・ポリシー

本研究科は、本学が公立大学であることを強く意識し、大学の知的財産を地域社会や住民・企業等に還元することが大きな責務であると認識しています。

島嶼の多い長崎県では過疎化と高齢化が他の都道府県より進んでおり、保健・医療・福祉関係の出費の比率は極めて高くなっています。これらの領域における課題解決のための高度な専門的知識や技術を創造する研究者および高度専門職業人を育成することが本研究科の教育目標です。

このことを踏まえ、県民の健康の保持増進ならびに疾病の予防に寄与する最新の知識や技術を研究開発する能力、最新の知識や技術を活用して県民の健康水準を向上させていく能力、地域の専門職と連携して県民の生活習慣に変革をもたらす政策を考案し、保健・医療・福祉・介護システムを変革する能力、健康保持増進の視点に立って次世代の専門職を育てる能力などをもった高度専門職業人を育成すると共に、地場産業の発展・活性化に寄与する研究・開発に取り組みます。その育成の対象は、学部卒の一般学生のみならず、社会人、外国人留学生などを含んでいます。

求める学生像

- ・ 保健・医療・福祉・介護領域において社会に貢献したい人
- ・ 柔軟な発想を持ち、応用力、適応力、分析力、行動力に富んだ人
- ・ 科学技術の進歩を人の健康や生活のために積極的に調製・活用する社会性を身に付けたい人
- ・ 高度の専門知識や技術を習得したスペシャリストを目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

看護学専攻のアドミッション・ポリシー

少子高齢化の加速や保健・医療・福祉のコストの増加は、人々に疾病の予防の意識や医療費の高騰に関する関心を高めてきています。本研究科は、運動と食事に関する科学としての栄養科学と、健康の回復と向上に関する看護の科学の総合により、国民の保健・医療に関する多角的・総合的な研究を可能とし、本県のみならず将来の日本や世界の保健・医療の一翼を担うことを目指しています。

今日の超高齢社会に対応するための社会保障制度改革においては、健康のリスクマネジメントや保健医療のケアシステム構築および医療の制度改革を推進できる実践力のある人材の養成が期待されています。

また、生活習慣病の予防や緩和ケア等の保健・医療の課題を解決するためには、医師のみでなく、看護職等医療従事者の資質の向上がなければなりません。本学の看護学専攻では、これらの医療の改革にリーダーシップを発揮する改革者としての資質を持った者を養成し、高度専門医療のみならず地域医療、国際保健等において貢献することを確信しています。

平成28年度より看護学専攻に「看護学実践分野」と保健師の国家資格の受験資格が得られるとともに修士の学位が得られる「公衆衛生看護学分野」を設置しました。

これらの看護学専攻の分野の入学者は、大学の学部の卒業生とともに、看護の実践経験を積んだ社会人も歓迎します。初学者と経験者がお互いにディスカッションし刺激し合うことで学びを深めるカリキュラムを用意しています。社会人は勤務を継続して履修できるように夜間・休日開講など、開講時間に配慮し、長期履修制度も設けています。

求める学生像

- ・ ひとに关心があり、広く人文科学および自然科学の知見に興味がある人
- ・ 論理的に思考し、分析できる人
- ・ 学習意欲が旺盛で探究心の強い人
- ・ ねばり強く、研究的な取り組みのできる人
- ・ 看護学の実践の発展に貢献したい人
- ・ 思慮深く、協働できる人
- ・ 将来、保健看護学領域において指導者を目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

栄養科学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻は、急速な少子高齢化社会の推移に対応できる「食と健康」を中心とした領域の高度専門的職業人、教育指導者、研究者を養成するとともに、地域住民の保健・医療・福祉の向上ならびに地場産業の発展・活性化などに寄与することを目的としています。

このため、断片化した高度の専門知識を統合理解し、新しい課題に向けての栄養学的基礎知識を形成することにより、加齢や疾病による生体機能の変化を栄養学的見地から理解し、健康の保持・増進や生活習慣病の予防に役立てることを目標に取り組んでいきます。またヒトを対象とした栄養学研究を通して、実生活における栄養学的、健康科学的問題点を明らかにして、それらに対応するための有用な方策を探り、その成果を社会に還元することを目標に教授します。こうした教育・研究を通して、高度の専門的学力と研究能力を持ち、健康施策への応用可能な研究、食品・医薬関連産業における商品開発ならびに健康・保健・医療行政を推進できる高度専門職業人を育成します。

求める学生像

- 病院等医療機関におけるチーム医療で栄養専門家として活躍したい人
- 保健・医療・福祉・介護等の領域で地域栄養活動に従事したい人
- 食品・医薬品の開発・設計などの研究または普及啓発活動を行いたい人
- 管理栄養士・栄養士養成施設における教育・研究に携わりたい人
- 公的試験・研究機関等において栄養・食品分野の研究を行いたい人

外国人留学生の状況(平成27年度在籍者数実績)

○外国人留学生の受入状況

区分		佐世保校					シーボルト校					合計	
		中国	韓国	ベトナム	タイ	計	中国	韓国	米国	ベトナム	タイ		
学部	交換留学生	19	1			20	20	1	4		3	28	48
	私費留学生	7		1	0	8	4	1		0		5	13
	計	26	1	1	0	28	24	2	4	0	3	33	61
大学院	交換留学生	10				10						0	10
	私費留学生	3	0		0	3	9			2		11	14
	計	13	0	0	0	13	9	0	0	2	0	11	24
研究生	交換留学生					0						0	0
	私費留学生	0				0	0					0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	交換留学生	29	1	0	0	30	20	1	4	0	3	28	58
	私費留学生	10	0	1	0	11	13	1	0	2	0	16	27
	計	39	1	1	0	41	33	2	4	2	3	44	85

国別状況	中国	ベトナム	韓国	米国	タイ	その他	合計
(人)	72	3	3	4	3	0	85
(%)	84.7%	3.5%	3.5%	4.7%	3.5%	0.0%	100.0%

※短期私費は協定に基づく受入れの為、交換に含む

<参考>

○交換留学 派遣状況(平成26年度からの継続者+27年度新規派遣)

区分	佐世保校				計	シーボルト校				合計	
	中国	韓国	米国	その他		中国	韓国	米国	その他		
学部	8	0	1		9	3	4	4		11	20
大学院					0					0	0
合計	8	0	1	0	9	3	4	4	0	11	20

募集人員

<経営学部>

(単位:人)

区分			募集人員			
			経営学部			
			経営学科	アカウンティング コース	国際経営学科	
28 年度入試	特別選抜 (推薦入試)	県内	普通科等	20	12	
			商業科等	10		
		県外	普通科等	10		
			商業科等	5		
	一般入試	前期日程		70	-	
		後期日程		15	-	
	特別選抜	帰国子女		若干名	若干名	
		社会人		若干名	若干名	
		私費外国人留学生		若干名	若干名	
学科計			140		60	
学部計			200			

<地域創造学部>

(単位:人)

区分			募集人員			
			地域創造学部			
			公共政策学科	実践経済学科		
28 年度入試	特別選抜 (推薦入試)	県内	普通科等	15	25	
			商業科等		5	
		離島高校		5	—	
		県外		10	15	
	一般入試	前期日程	英語	40	40	
			数学	20	25	
		後期日程		30	20	
	特別選抜	帰国子女		若干名	若干名	
		社会人		若干名	若干名	
		私費外国人留学生		若干名	若干名	
学科計			120		130	
学部計			250			

<国際社会学部>

(単位:人)

区分		募集人員
国際社会学部 国際社会学科		
28 年度入試	AO入試	5
	特別選抜 (推薦入試) 県内	15
	県外	4
	一般入試 前期日程	30
	後期日程	6
	特別選抜 帰国子女	若干名
	社会人	若干名
	私費外国人留学生	若干名
	学科計	60
学部計		60

<情報システム学部>

(単位:人)

区分		募集人員	
情報システム学部			
		情報システム学科	情報セキュリティ学科
28 年度入試	特別選抜 (推薦入試) 県内	10	12
	県外	2	
	一般入試 前期日程	20	20
	後期日程	8	8
	特別選抜 帰国子女	若干名	若干名
	社会人	若干名	若干名
	私費外国人留学生	若干名	若干名
	学科計	40	40
	学部計	80	

<看護栄養学部>

(単位:人)

区分				募集人員			
				看護栄養学部			
				看護学科	栄養健康学科		
28 年度入試	特別選抜 (推薦入試)	県内	衛生看護科、離島枠以外	13	10 (区分なし)		
			離島看護師特別枠	2			
			衛生看護科	1			
	一般入試	前期日程		38	24		
		後期日程		6	6		
	特別選抜	帰国子女		若干名	若干名		
		社会人		若干名	若干名		
		私費外国人留学生		若干名	若干名		
	学科計			60	40		
	学部計			100			

入学志願者及び入学者数

【学部】[平成28年度入試]

(単位：人、倍、%)

区分		定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D
経営学部	経営学科	推薦	55	77	77	57	57	1.4	1.4
		一般入試(前期)	70	172	162	97	65	2.5	2.3
		一般入試(後期)	15	227	87	42	20	15.1	5.8
		一般入試計	85	399	249	139	85	4.7	2.9
		帰国子女	若干名	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	-	-	-	-	-	-
		留学生	若干名	4	4	1	1	-	4.0
	国際経営学科	小計	140	480	330	197	143	3.4	2.4
		推薦	20	18	18	17	17	0.9	0.9
		一般入試(前期)	30	184	177	42	35	6.1	5.9
	学部計	一般入試(後期)	10	206	79	20	8	20.6	7.9
		一般入試計	40	390	256	62	43	9.8	6.4
		帰国子女	若干名	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	-	-	-	-	-	-
		留学生	若干名	3	3	0	-	-	-
		小計	60	411	277	79	60	6.9	4.6
		学部計	200	891	607	276	203	4.5	3.0
地域創造学部	公共政策学科	推薦	30	24	24	23	23	0.8	0.8
		一般入試(前期)	60	205	181	82	63	3.4	3.0
		一般入試(後期)	30	278	113	49	40	9.3	3.8
		一般入試計	90	483	294	131	103	5.4	3.3
		帰国子女	若干名	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	-	-	-	-	-	-
		留学生	若干名	-	-	-	-	-	-
	実践経済学科	小計	120	507	318	154	126	4.2	2.7
		推薦	45	65	64	50	50	1.4	1.4
		一般入試(前期)	65	163	155	88	67	2.5	2.4
	学部計	一般入試(後期)	20	202	97	26	19	10.1	4.9
		一般入試計	85	365	252	114	86	4.3	3.0
		帰国子女	若干名	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	-	-	-	-	-	-
		留学生	若干名	-	-	-	-	-	-
		小計	130	430	316	164	136	3.3	2.4
		学部計	250	937	634	318	262	3.7	2.5
国際社会学部	国際社会学科	A O	5	4	4	4	4	0.8	0.8
		推薦	19	46	46	23	23	2.4	2.4
		一般入試(前期)	30	72	68	32	29	2.4	2.3
		一般入試(後期)	6	179	55	13	9	29.8	9.2
		一般入試計	36	251	123	45	38	7.0	3.4
		帰国子女	若干名	0	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	0	-	-	-	-	-
	小計	留学生	若干名	1	1	0	-	-	-
		小計	60	302	174	72	65	5.0	2.9
		学部計	250	937	634	318	262	3.7	2.5
情報システム学部	情報システム学科	推薦	12	20	20	12	12	1.7	1.7
		一般入試(前期)	20	76	75	24	21	3.8	3.8
		一般入試(後期)	8	215	86	12	9	26.9	10.8
		一般入試計	28	291	161	36	30	10.4	5.8
		帰国子女	若干名	1	1	0	-	-	-
		社会人	若干名	0	-	-	-	-	-
		留学生	若干名	0	-	-	-	-	-
	小計	小計	40	312	182	48	42	7.8	4.6
		学部計	250	937	634	318	262	3.7	2.5
		学部計	80	569	356	99	84	7.1	4.5
	情報セキュリティ学科	推薦	12	13	13	11	11	1.1	1.1
		一般入試(前期)	20	79	79	28	24	4.0	4.0
		一般入試(後期)	8	163	80	12	7	20.4	10.0
		一般入試計	28	242	159	40	31	8.6	5.7
		帰国子女	若干名	1	1	0	-	-	-
		社会人	若干名	1	1	0	-	-	-
		留学生	若干名	0	-	-	-	-	#VALUE!

区分			定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D	
看護栄養学部	看護学科	推薦	16	49	49	15	15	3.1	3.1	3.3	
		一般入試(前期)	38	135	132	44	41	3.6	3.5	3.0	
		一般入試(後期)	6	167	59	9	9	27.8	9.8	6.6	
		一般入試計	44	302	191	53	50	6.9	4.3	3.6	
		帰国子女	若干名	1	1	0	-	—	—	—	
		社会人	若干名	4	4	0	-	—	—	—	
		留学生	若干名	0	-	-	-	—	—	—	
		小計	60	356	245	68	65	5.9	4.1	3.6	
	栄養健康学科	推薦	10	24	24	10	10	2.4	2.4	2.4	
		一般入試(前期)	24	77	74	26	24	3.2	3.1	2.8	
		一般入試(後期)	6	125	51	8	6	20.8	8.5	6.4	
		一般入試計	30	202	125	34	30	6.7	4.2	3.7	
		帰国子女	若干名	0	-	-	-	—	—	—	
		社会人	若干名	1	1	1	1	—	—	1.0	
		留学生	若干名	1	1	1	1	—	—	1.0	
		小計	40	228	151	46	42	5.7	3.8	3.3	
学部計			100	584	396	114	107	5.8	4.0	3.5	
AO計			5	4	4	4	4	0.8	0.8	1.0	
推薦計			219	336	335	218	218	1.5	1.5	1.5	
一般入試(前期)計			357	1,163	1,103	463	369	3.3	3.1	2.4	
一般入試(後期)計			109	1,762	707	191	127	16.2	6.5	3.7	
一般入試合計			466	2,925	1,810	654	496	6.3	3.9	2.8	
帰国子女計			若干名	3	1	0	0	—	—	—	
社会人計			若干名	6	5	1	1	—	—	5.0	
留学生計			若干名	9	8	2	2	—	—	4.0	
合計			690	3,283	2,163	879	721	4.8	3.1	2.5	

※AO入試の受験者数は2次選考受験者数

【大学院】[平成28年度入試]

(単位:人、倍、%)

区分			定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D
経済学研究科	産業経済・経済開発専攻(修士課程)		12	13	13	12	12	1.1	1.1	1.1
国際情報学研究科	国際交流学専攻(修士課程)		6	2	2	1	1	0.3	0.3	2.0
	情報メディア学専攻(修士課程)		4	0	0	0	0	—	—	—
	研究科計		10	2	2	1	1	0.2	0.2	2.0
人間健康科学研究科	看護学専攻(修士課程)	一般選抜		11	11	8	7	1.5	1.5	1.3
		社会人特別選抜	8	1	1	1	1			
		専攻計		12	12	9	8			
	栄養科学専攻	一般選抜	8	6	6	5	5	0.8	0.8	1.2
		社会人特別選抜	若干名	1	1	1	1	—	—	—
		外国人留学生特別選抜	若干名	0	0	0	0	—	—	—
		前期課程計	8	7	7	6	6	0.9	0.9	1.2
		一般選抜	3	1	1	1	1	0.3	0.3	1.0
		外国人留学生特別選抜	若干名	0	0	0	0	—	—	—
		後期課程計	3	1	1	1	1	0.3	0.3	1.0
	研究科計		19	20	20	16	15	1.1	1.1	1.3
大学院計			41	35	35	29	28	0.9	0.9	1.2

※平成27年10月入学志願者を含む

オープンキャンパス参加者数

(単位:人、校)

年度	キャンパス名	開催日	区分	県内 高校生	県外 高校生	その他 (保護者等)	計	合計	
27 年 度	佐世保校	7月19日	参加者	230	95	163	488	1,695	
			(高校)	(40)	(59)	—			
	シーボルト校	7月19・20日	参加者	625	187	395	1207	1,490	
			(高校)	(58)	(93)	—			
26 年 度	佐世保校	7月20日	参加者	192	79	131	402	1,342	
			(高校)	(43)	(50)	—			
	シーボルト校	7月20・21日	参加者	588	189	311	1088		
			(高校)	(50)	(91)	—			
25 年 度	佐世保校	7月14日	参加者	178	64	136	378		
			(高校)	(38)	(39)	—			
	シーボルト校	7月14・15日	参加者	583	127	254	964		
			(高校)	(49)	(79)	—			
24 年 度	佐世保校	7月15日	参加者	182	61	109	352	1,390	
			(高校)	(40)	(38)	—			
	シーボルト校	7月15・16日	参加者	636	141	261	1038		
			(高校)	(41)	(39)	—			
23 年 度	佐世保校	7月17日	参加者	150	78	142	370	1,337	
			(高校)	(43)	(43)	—			
	シーボルト校	7月17・18日	参加者	619	111	237	967		
			(高校)	(52)	(61)	—			
22 年 度	佐世保校	7月18日	参加者	188	83	140	411	1,496	
			(高校)	(42)	(49)	—			
	シーボルト校	7月18・19日	参加者	633	151	301	1085		
			(高校)	(47)	(72)	—			

I. NICEキャンパス長崎について

1. NICEキャンパス長崎とは

(1) NICEキャンパス長崎(大学間単位互換制度)

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位互換制度で、長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参加しています。

「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate(大学間) Credit(単位) Exchange(互換)の頭文字をとつつけられました。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目(コーディネート科目、教養科目、専門科目)の中から、希望する科目を履修し、科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定される制度です。また、認定された単位のうち、所定の要件を満たすものについては、卒業要件単位(大学によって扱いは異なります。)として活用することもできます。

自分の大学にない分野の科目を学びたい、自分の専攻を深めたい人など、本制度を利用していろいろな可能性にチャレンジしてください。

(2) NICEキャンパス長崎を利用した受講生の声

NICEキャンパス長崎には、他大学の単位が自大学の単位として取得できるほかにも、様々なメリットがあります。昨年度NICEキャンパス長崎を利用した単位互換履修生からは、次のような感想が寄せられています。

これまでに受講した方の感想

- 自分の所属学部に限らず、興味のある科目を学ぶことができる点が良かったです。
- 自分の大学にない分野を受講することができる上に、単位にもなるのでとても良い制度だと思います。
- 他大学の教授の話を聞けたり、他大学の雰囲気がわかつて面白かったです。
- 長崎について様々な視点から学ぶことができました。
- 地域の人々とも一緒に参加できて参考になりました。
- 毎回色々な先生が来るので、期待していましたし、楽しんで受講できました。
- 他大学の学生や社会人の方々と意見交換しあえるところが楽しかったです。
- 合宿型の講義では、他大学の友人もできて視野も広がり多くの気付きがありました。

このように、NICEキャンパス長崎では所属大学だけでは学べない分野について学びの機会や、他大学の講師陣・学生との交流、社会人の方々との交流を深める機会などを提供しています。

また、コーディネート科目では長崎に関する話題を中心に、各大学が独自の視点から講義を構成しています。

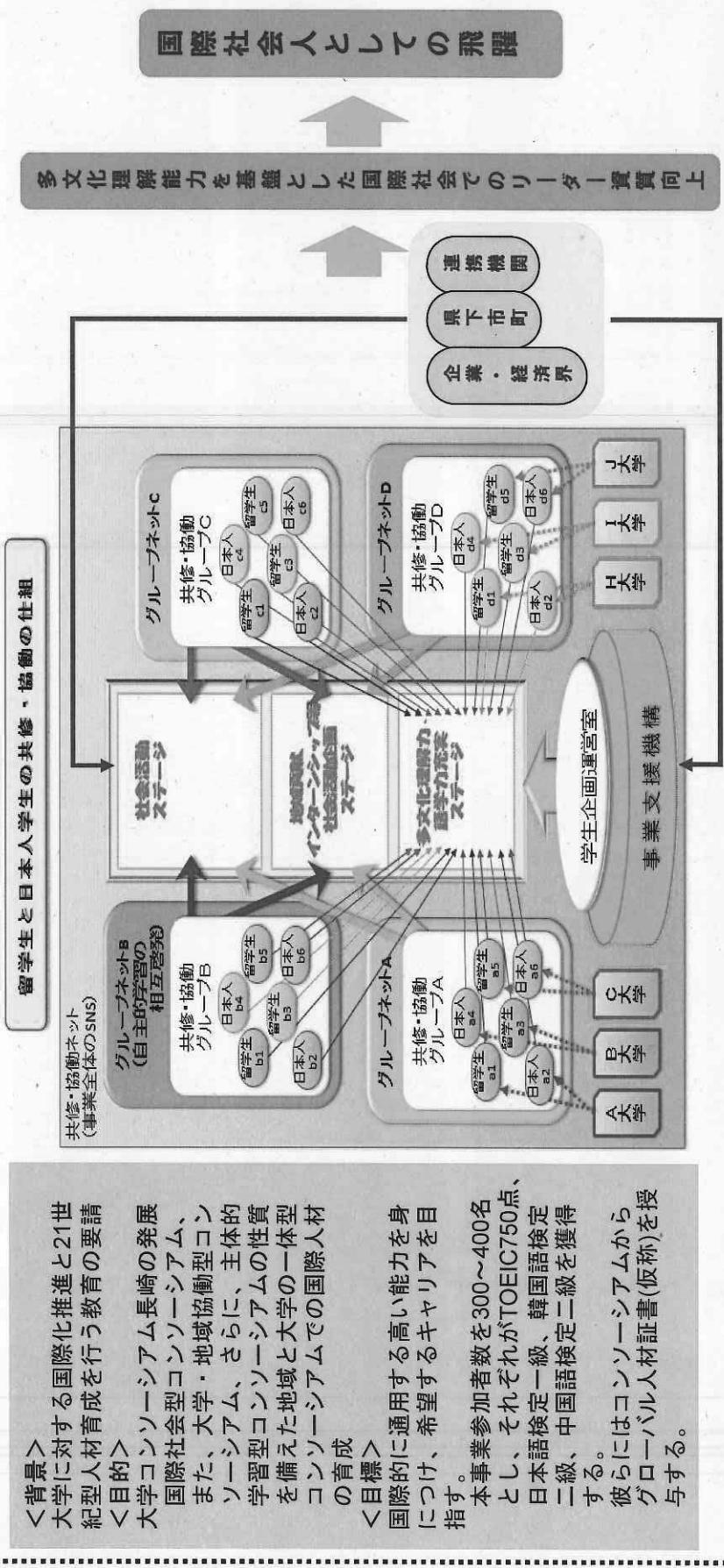
長崎について様々な視点から学びたい方、交流を深めたい方は、是非この機会を活用してみてはいかがでしょうか。

< NICEキャンパス受講者数 >

	H23	H24	H25	H26	H27
受講者数(名)	120	103	187	233	266
提供科目数(科目)					
教養科目	10	10	11	14	12
専門科目	46	40	38	37	36
遠隔科目	8	6	6	6	6

取組名称：留学生との共修・協働による長崎発グローバル人材基盤形成事業
取組大学：長崎大学(代表校)、長崎県立大学、長崎国際大学、長崎外國語大学、長崎純心大学、長崎女子短期大学、長崎女子大学、長崎短期大学

本事業は、各大学から選抜された日本人学生と留学生との混成グループを作り、それを基本形として大学での共修やインターンシップ等での協働を行うことをカリキュラムの中に組み込み、グローバル人材としての基盤形成の場にするものである。
 本事業では、学生企画運営室と事業支援機構が運営の核となつて多文化理解・語学力充実、インターンシップ、社会活動などの年次ステージが順次性をもつて展開される。
 共修科目では、主体的な学習が展開されるとともに双方の学生の対話や相互啓発によつて多文化理解能力の向上も図られる。
 さらには、語学力向上の後に行われるインターンシップ等を通して、課題解決能力に必要な協調力や現場力の獲得も行われる。



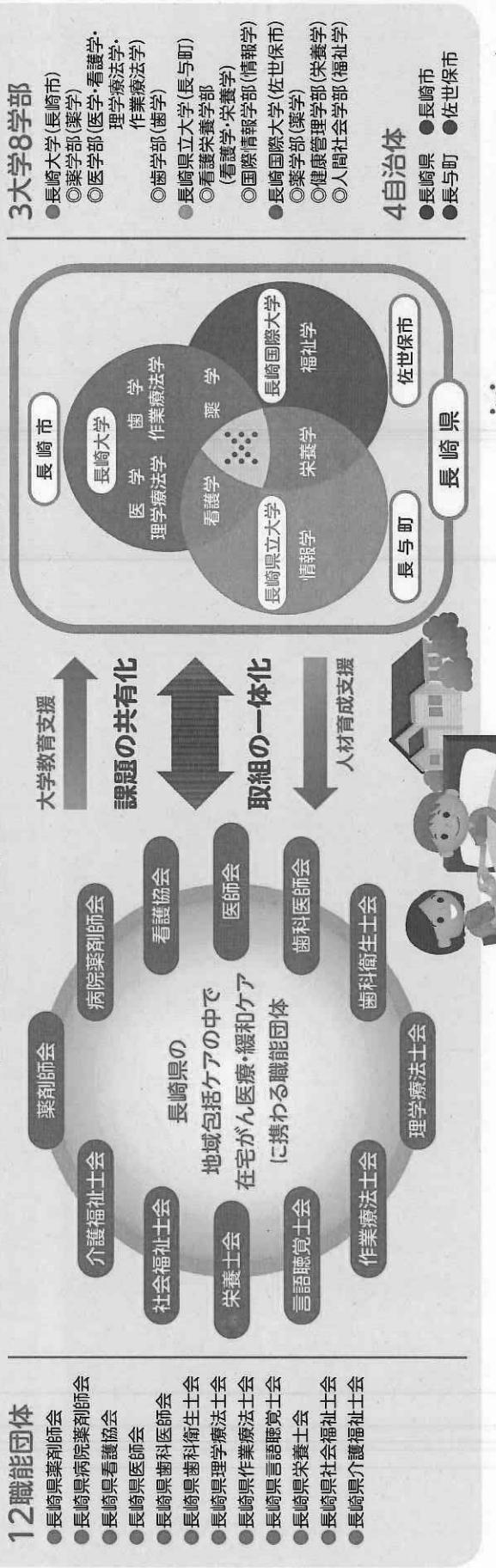
平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

取組名称：多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点 取組大学：長崎大学（代表校）、長崎県立大学、長崎国際大学

わが国の保健医療分野では多職種協働による在宅医療体制の整備が重要な課題となつておる、地域包括ケアの中での在宅がん患者の療養支援を行う体制整備を推進する必要性は高い。そこで、薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公私立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体と連携・一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指す取組である。

連携取組の実現に向けた実施体制

在宅医療・福祉コソーシアム長崎



連携取組の内容

在宅医療・がん医療・緩和ケアの教育を学習アウトカムを重視した順次性カリキュラムに基づく大学間単位互換の合同授業・合同実習として「NICE キャンパス長崎」に登録し、大学間連携教育の実質化と質保証を図る。さらに、大学と地域の連携に基づく協働教育により当該地域の循環型人材育成体制を確立する。

期待される効果

3大学の保健医療・福祉分野の学生は、多職種協働の必要性を認識し、自らの専門分野とは異なる分野のケアに関する基礎力・応用力・実践力を身につけ、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門職としての主体性・協調性を修得できる。さらに、医療と福祉の専門職による在宅がん医療・緩和ケアの協働支援体制整備に向けた人材育成環境が活性化されることで地域の医療リスクが低下し、在宅医療環境が強化される。

開講科目数	656				
対象科目数	632				
実施科目割合	96.3%				

履修者数	30,374				
回答者数	21,233				
回答割合	69.9%				

	全体	所属学科							学年				
		経済	地域政策	流通・経営	国際交流	情報 メディア	看護	栄養健康	1年	2年	3年	4年	
受講への取り組み													
1 この授業に真面目に出席しましたか？													
有効回答数	21,205	4.885	4.681	4.359	2,239	1,429	1,554	1,461	8,934	6,321	4,789	918	
評定平均	4.60	4.58	4.56	4.53	4.64	4.60	4.78	4.76	4.65	4.61	4.55	4.43	
2 この授業に意欲的に取り組みましたか？													
有効回答数	21,197	4.885	4.679	4.357	2,240	1,427	1,552	1,460	8,931	6,320	4,787	917	
評定平均	4.33	4.30	4.29	4.28	4.36	4.30	4.60	4.38	4.34	4.37	4.27	4.32	
3 この授業の予習・復習を行いましたか？													
有効回答数	21,130	4.865	4.663	4.340	2,237	1,423	1,551	1,456	8,911	6,300	4,765	915	
評定平均	3.65	3.61	3.66	3.58	3.71	3.59	3.91	3.55	3.60	3.76	3.61	3.63	
授業内容													
4 シラバスは授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していましたか？													
有効回答数	21,137	4.876	4.663	4.342	2,231	1,425	1,549	1,455	8,918	6,302	4,758	915	
評定平均	4.29	4.22	4.28	4.16	4.43	4.29	4.51	4.37	4.22	4.36	4.30	4.45	
5 授業内容に対して学問的関心を持ちましたか？													
有効回答数	21,197	4.888	4.675	4.360	2,239	1,428	1,552	1,459	8,924	6,325	4,788	916	
評定平均	4.27	4.20	4.22	4.20	4.34	4.20	4.61	4.34	4.21	4.32	4.28	4.41	
6 授業を理解できましたか？													
有効回答数	21,195	4.887	4.676	4.358	2,238	1,429	1,552	1,459	8,925	6,324	4,788	916	
評定平均	4.15	4.08	4.10	4.06	4.26	4.09	4.47	4.22	4.08	4.21	4.15	4.34	
7 授業の進度は適切でしたか？													
有効回答数	21,186	4.887	4.676	4.357	2,232	1,426	1,552	1,460	8,919	6,322	4,788	914	
評定平均	4.33	4.29	4.29	4.24	4.46	4.36	4.48	4.38	4.29	4.37	4.31	4.49	
教員の授業への取り組み													
8 授業担当者の授業に対する熱意を感じましたか？													
有効回答数	21,181	4.885	4.673	4.359	2,235	1,427	1,553	1,455	8,926	6,320	4,777	914	
評定平均	4.46	4.42	4.46	4.34	4.53	4.54	4.71	4.50	4.41	4.51	4.46	4.63	
9 授業担当者の話し方は聞き取りやすかったですか？													
有効回答数	21,175	4.886	4.670	4.359	2,231	1,428	1,553	1,455	8,919	6,323	4,775	914	
評定平均	4.33	4.30	4.28	4.23	4.43	4.39	4.61	4.27	4.26	4.39	4.34	4.54	
10 板書や資料は効果的でしたか？													
有効回答数	21,136	4.879	4.672	4.354	2,221	1,422	1,548	1,450	8,904	6,315	4,770	905	
評定平均	4.25	4.20	4.19	4.14	4.35	4.30	4.53	4.28	4.19	4.31	4.23	4.42	
11 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行っていましたか？													
有効回答数	21,153	4.879	4.668	4.357	2,231	1,424	1,552	1,450	8,915	6,312	4,771	912	
評定平均	4.21	4.16	4.13	4.11	4.32	4.20	4.53	4.29	4.13	4.30	4.20	4.39	
授業環境													
12-1 教室の環境は学習に適切でしたか？													
有効回答数	21,103	4.864	4.668	4.343	2,224	1,416	1,550	1,447	8,895	6,304	4,755	906	
評定平均	4.40	4.36	4.31	4.31	4.52	4.44	4.63	4.53	4.39	4.44	4.34	4.48	
12-2 (遠隔授業の場合)遠隔授業は履修しやすかったですか？													
有効回答数	1,795	401	418	474	111	90	99	73	869	437	300	150	
評定平均	4.32	4.22	4.36	4.18	4.59	3.88	4.68	4.59	4.22	4.32	4.57	4.42	
総括													
13 総合的にみて、この授業は満足できるものでしたか？													
有効回答数	21,105	4,856	4,653	4,349	2,230	1,422	1,551	1,454	8,886	6,306	4,756	914	
評定平均	4.33	4.28	4.29	4.24	4.39	4.34	4.62	4.41	4.30	4.37	4.30	4.51	

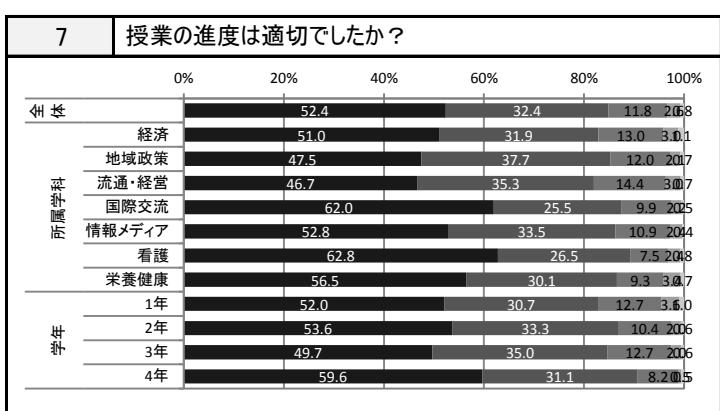
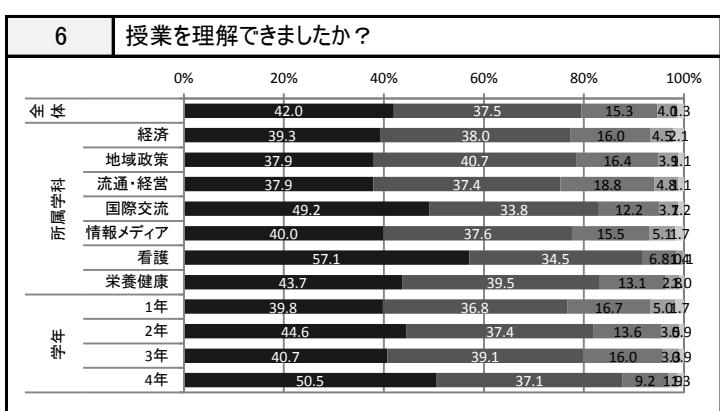
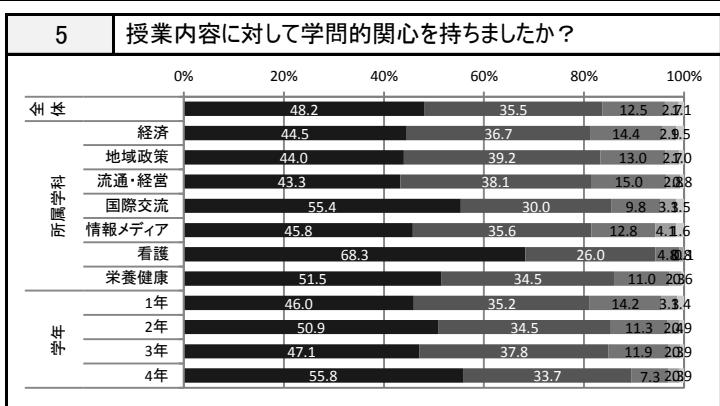
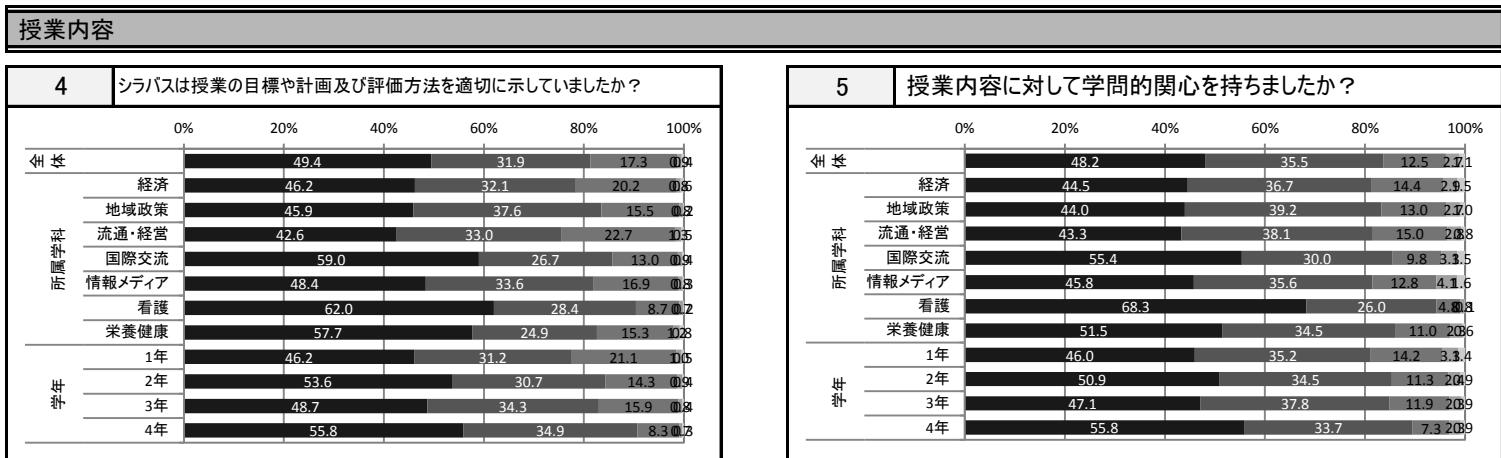
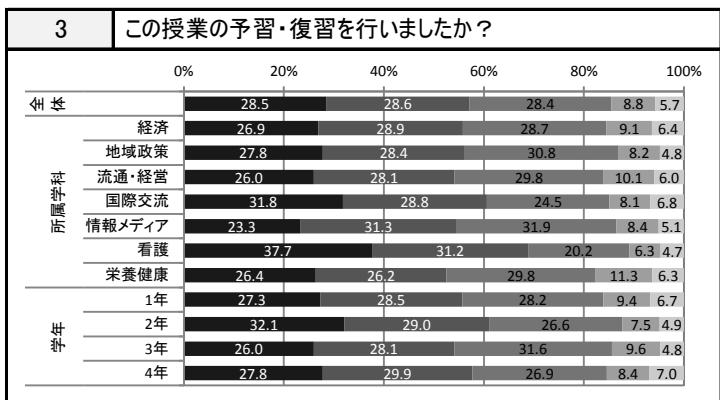
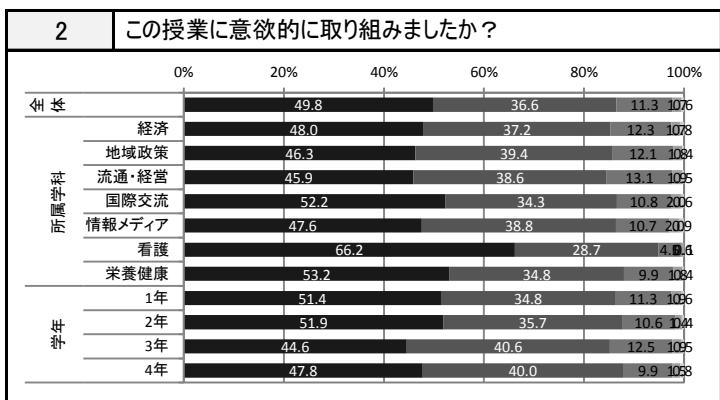
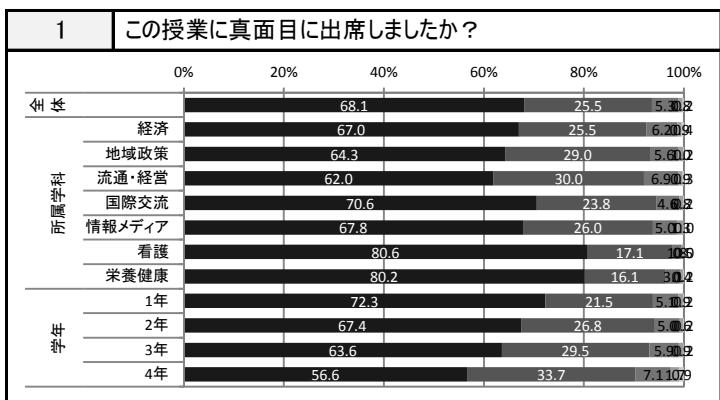
* 評定平均について … 回答選択肢そう思う:5点、どちらかといえばそう思う:4点、どちらともいえない:3点、どちらかといえばそう思わない:2点、そう思わない:1点とし、5点満点で算出。値が大きいほど高評価。

開講科目数	656
対象科目数	632
実施科目割合	96.3%

履修者数	30,374
回答者数	21,233
回答割合	69.9%

■ そう思う(5点) ■ どちらかといえば
そう思う(4点) ■ どちらとも
いえない(3点) ■ どちらかといえば
そう思わない(2点) ■ そう思わない(1点)

受講への取り組み

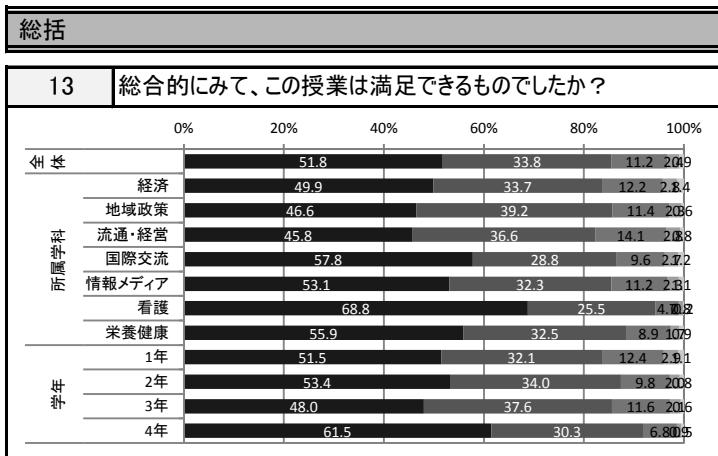
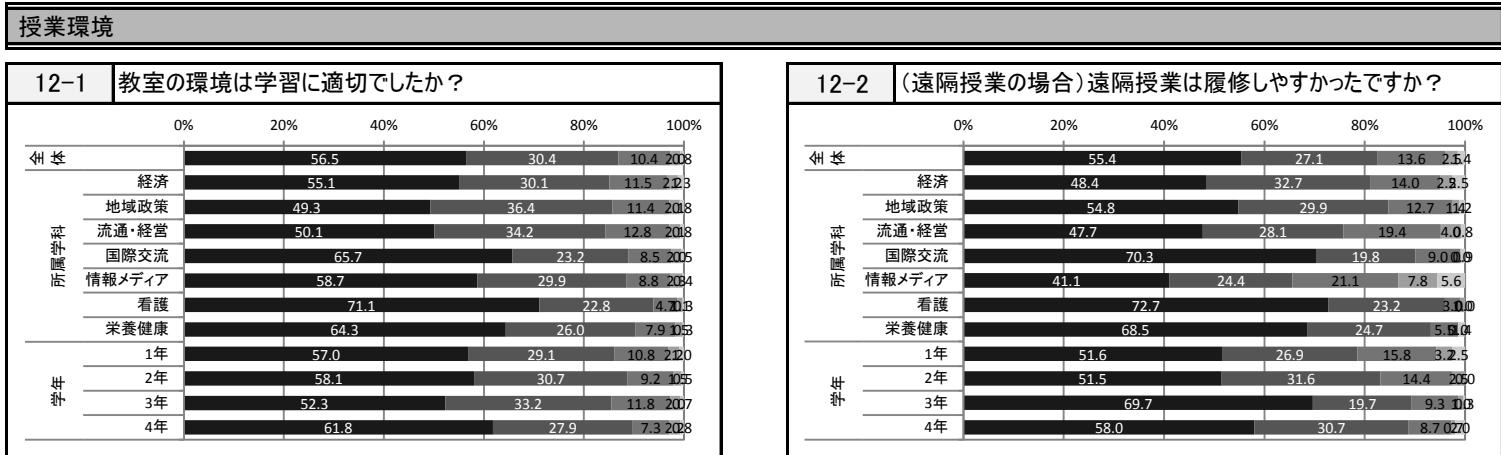
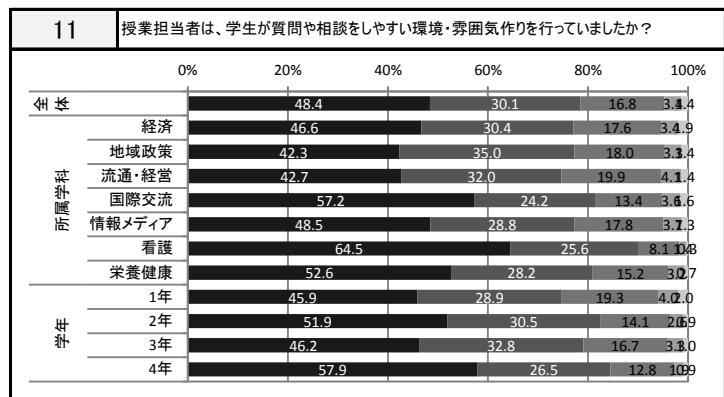
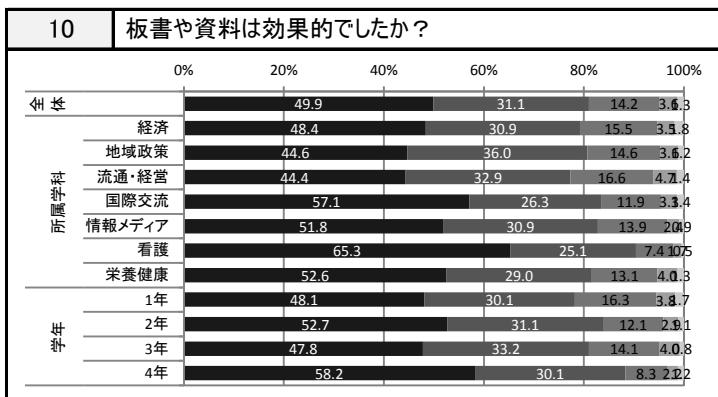
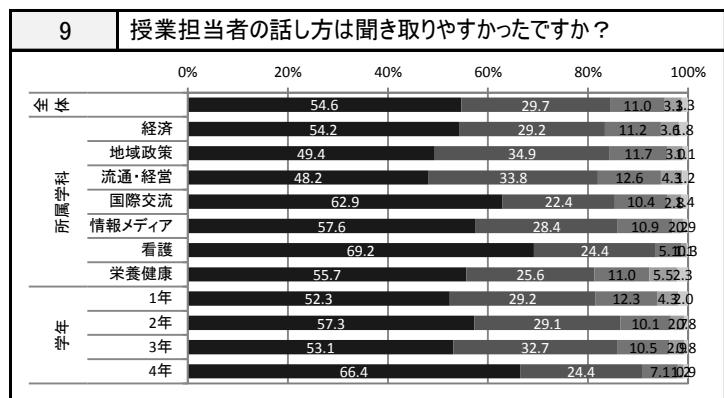
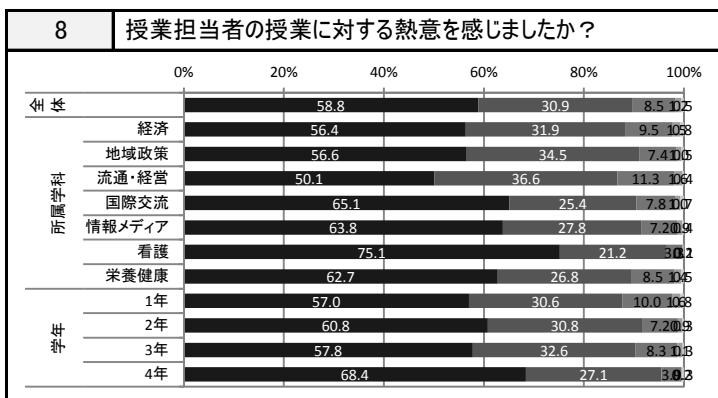


開講科目数	656
対象科目数	632
実施科目割合	96.3%

履修者数	30,374
回答者数	21,233
回答割合	69.9%

■ そう思う(5点) ■ どちらかといえば
そう思う(4点) ■ どちらとも
いえない(3点) ■ どちらかといえば
そう思わない(2点) ■ そう思わない(1点)

教員の授業への取り組み



平成27年度後期 授業評価アンケート集計結果(全体)

開講科目数	836					
対象科目数	777					
実施科目割合	92.9%					

履修者数	28,023					
回答者数	18,167					
回答割合	64.8%					

	全体	所属学科						学年				
		経済	地域政策	流通・経営	国際交流	情報 メディア	看護	栄養健康	1年	2年	3年	4年
受講への取り組み												
1 この授業に真面目に出席しましたか？												
有効回答数	18,147	5,082	4,457	3,698	1,657	39	1,442	1,194	7,914	5,077	3,829	1,100
評定平均	4.56	4.51	4.52	4.46	4.62	4.59	4.84	4.79	4.58	4.52	4.59	4.53
2 この授業に意欲的に取り組みましたか？												
有効回答数	18,141	5,081	4,452	3,699	1,658	39	1,440	1,194	7,912	5,075	3,828	1,100
評定平均	4.38	4.30	4.34	4.30	4.45	4.44	4.69	4.49	4.39	4.36	4.35	4.45
3 この授業の予習・復習を行いましたか？												
有効回答数	18,099	5,067	4,443	3,690	1,653	39	1,436	1,194	7,904	5,061	3,815	1,094
評定平均	3.80	3.71	3.80	3.74	3.81	4.10	4.16	3.68	3.76	3.82	3.79	3.89
授業内容												
4 シラバスは授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していましたか？												
有効回答数	18,099	5,067	4,446	3,688	1,656	39	1,439	1,188	7,901	5,065	3,809	1,097
評定平均	4.37	4.29	4.33	4.26	4.50	4.51	4.65	4.53	4.36	4.35	4.39	4.49
5 授業内容に対して学問的関心を持ちましたか？												
有効回答数	18,157	5,082	4,462	3,700	1,659	39	1,442	1,194	7,919	5,080	3,831	1,100
評定平均	4.36	4.25	4.31	4.29	4.50	4.36	4.68	4.49	4.34	4.35	4.36	4.55
6 授業を理解できましたか？												
有効回答数	18,153	5,079	4,462	3,699	1,659	39	1,442	1,194	7,916	5,079	3,831	1,100
評定平均	4.27	4.16	4.21	4.21	4.45	4.38	4.56	4.40	4.27	4.26	4.24	4.45
7 授業の進度は適切でしたか？												
有効回答数	18,150	5,079	4,462	3,699	1,658	39	1,441	1,194	7,917	5,077	3,831	1,098
評定平均	4.41	4.33	4.37	4.33	4.54	4.51	4.63	4.58	4.42	4.38	4.40	4.54
教員の授業への取り組み												
8 授業担当者の授業に対する熱意を感じましたか？												
有効回答数	18,140	5,078	4,459	3,694	1,656	39	1,442	1,193	7,915	5,073	3,826	1,098
評定平均	4.52	4.46	4.46	4.43	4.63	4.59	4.75	4.67	4.51	4.51	4.49	4.64
9 授業担当者の話し方は聞き取りやすかったですか？												
有効回答数	18,143	5,079	4,457	3,694	1,658	39	1,442	1,194	7,914	5,078	3,825	1,099
評定平均	4.41	4.35	4.30	4.35	4.55	4.49	4.66	4.53	4.40	4.37	4.40	4.60
10 板書や資料は効果的でしたか？												
有効回答数	18,121	5,072	4,450	3,695	1,658	38	1,436	1,192	7,903	5,077	3,817	1,096
評定平均	4.34	4.25	4.27	4.26	4.47	4.39	4.64	4.53	4.34	4.33	4.32	4.49
11 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行っていましたか？												
有効回答数	18,132	5,073	4,456	3,696	1,657	39	1,440	1,191	7,910	5,074	3,825	1,096
評定平均	4.31	4.25	4.21	4.19	4.46	4.49	4.63	4.54	4.28	4.31	4.32	4.52
授業環境												
12-1 教室の環境は学習に適切でしたか？												
有効回答数	18,035	5,044	4,437	3,677	1,647	39	1,425	1,192	7,870	5,060	3,794	1,087
評定平均	4.46	4.40	4.39	4.35	4.59	4.67	4.74	4.67	4.47	4.43	4.44	4.57
12-2 (遠隔授業の場合)遠隔授業は履修しやすかったですか？												
有効回答数	1,985	518	497	562	119	5	80	41	963	550	256	163
評定平均	4.39	4.20	4.40	4.31	4.71	4.60	4.66	4.66	4.36	4.38	4.41	4.52
総括												
13 総合的にみて、この授業は満足できるものでしたか？												
有効回答数	18,093	5,056	4,449	3,692	1,650	39	1,438	1,191	7,891	5,064	3,820	1,092
評定平均	4.41	4.35	4.35	4.35	4.50	4.46	4.66	4.60	4.41	4.38	4.39	4.61

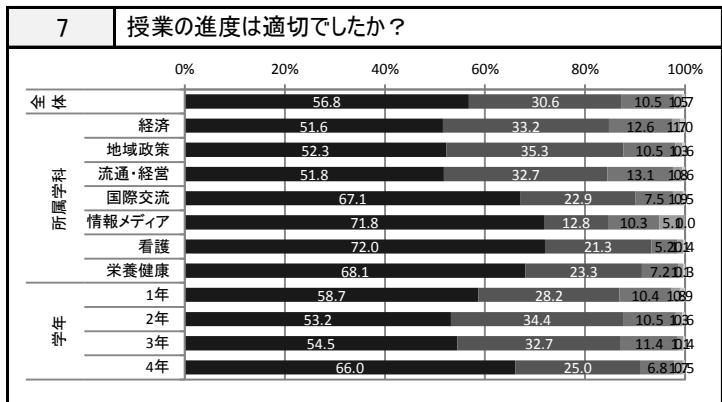
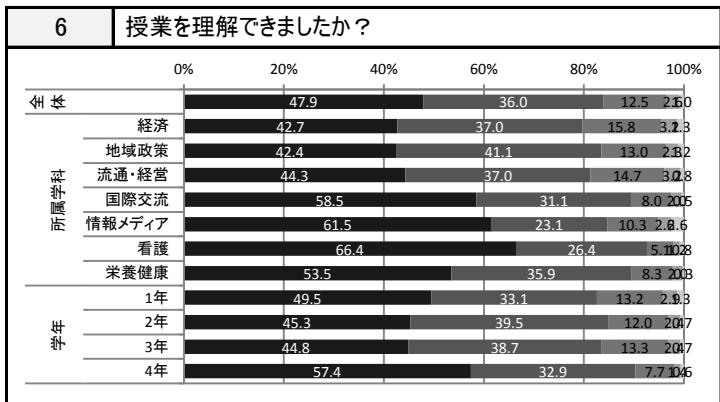
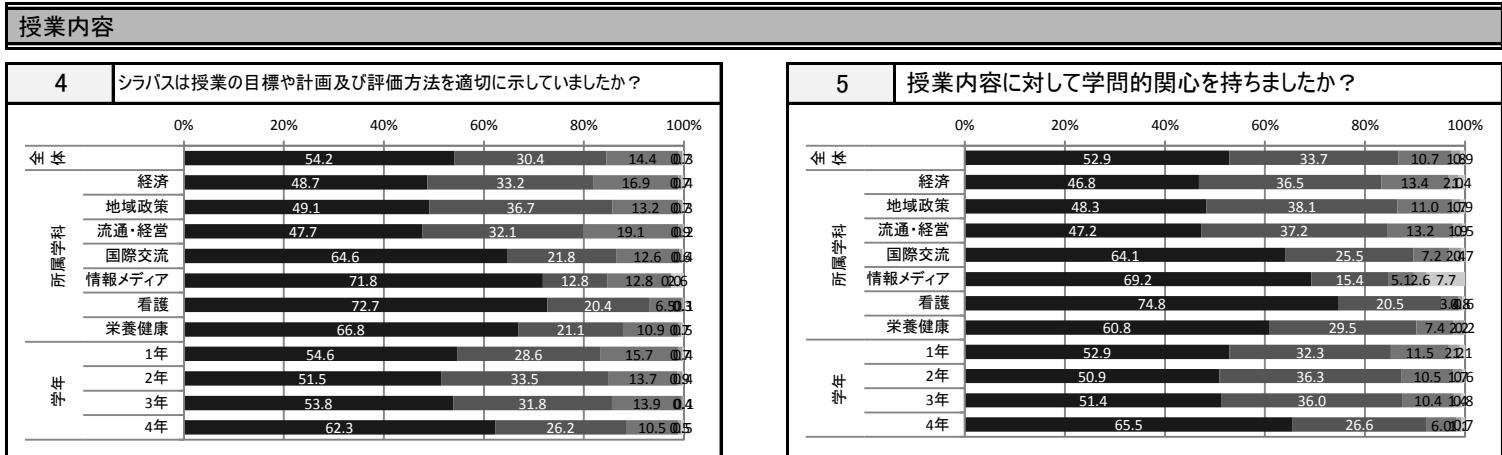
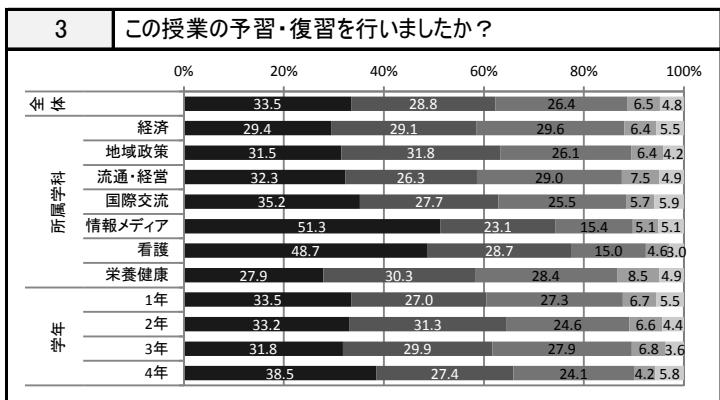
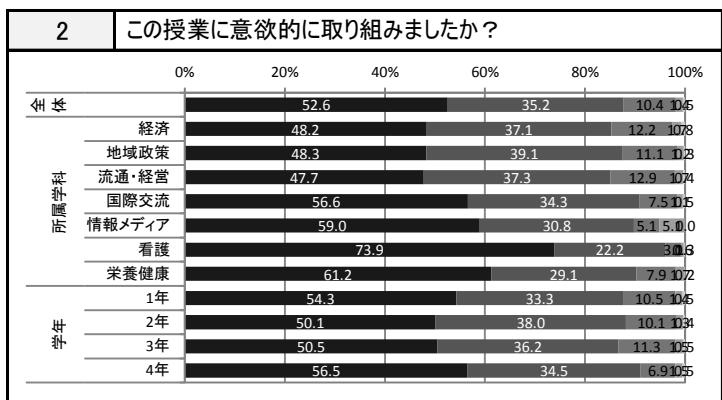
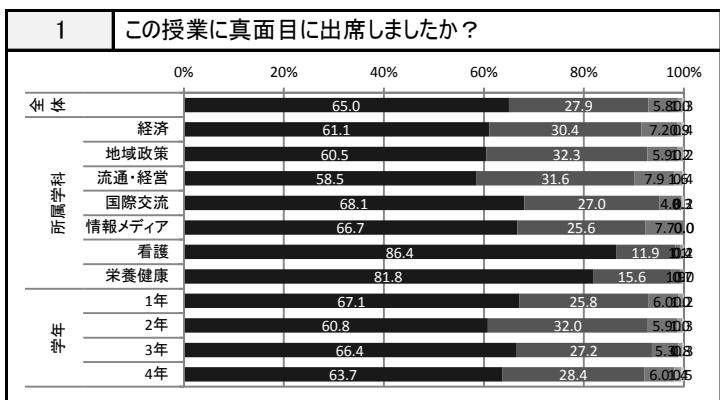
* 評定平均について … 回答選択肢 そう思う:5点、どちらかといえばそう思う:4点、どちらともいえない:3点、どちらかといえばそう思わない:2点、そう思わない:1点とし、5点満点で算出。値が大きいほど高評価。

開講科目数	836
対象科目数	777
実施科目割合	92.9%

履修者数	28,023
回答者数	18,167
回答割合	64.8%

■ そう思う(5点) ■ どちらかといえば
そう思う(4点) ■ どちらとも
いえない(3点) ■ どちらかといえば
そう思わない(2点) ■ そう思わない(1点)

受講への取り組み

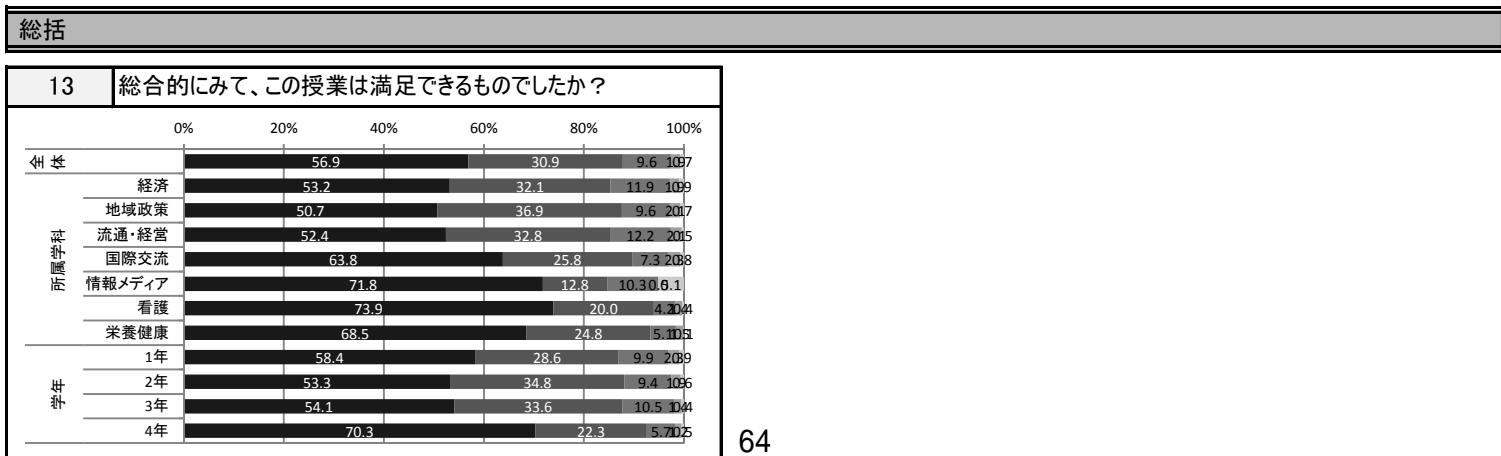
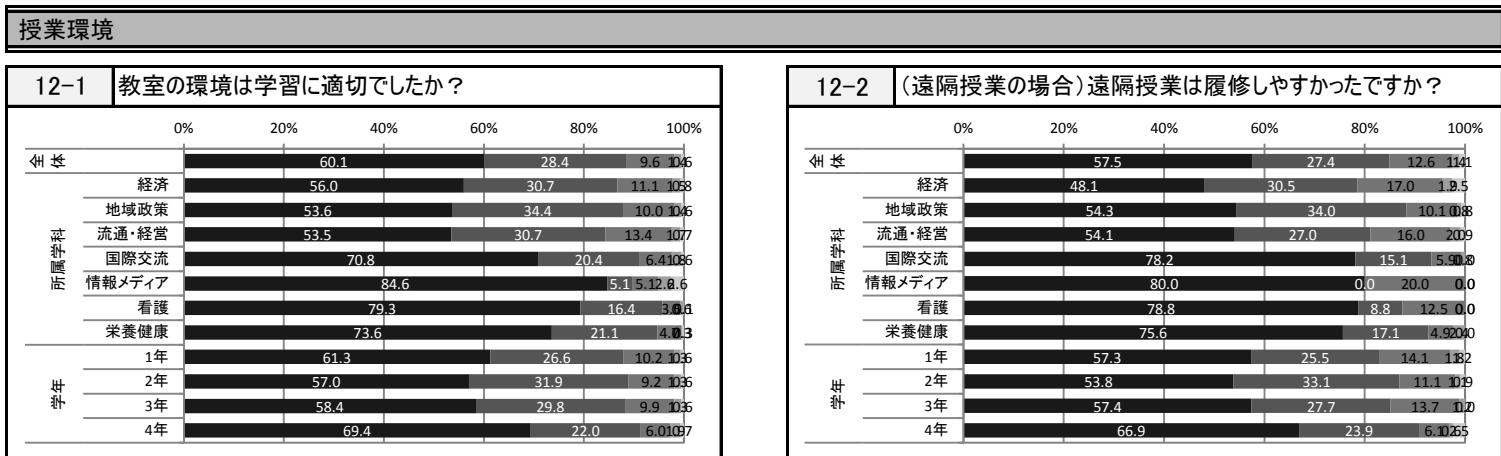
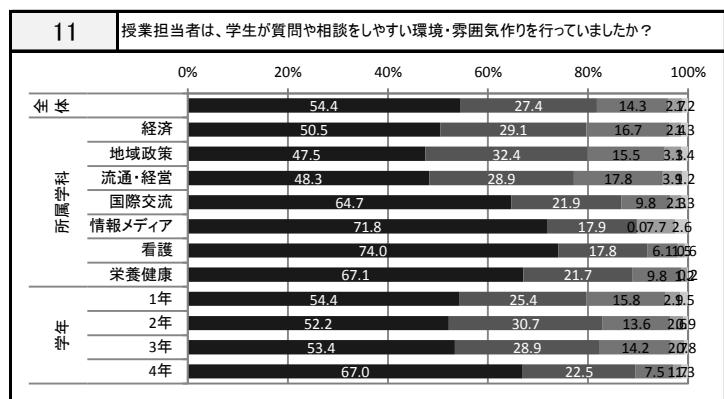
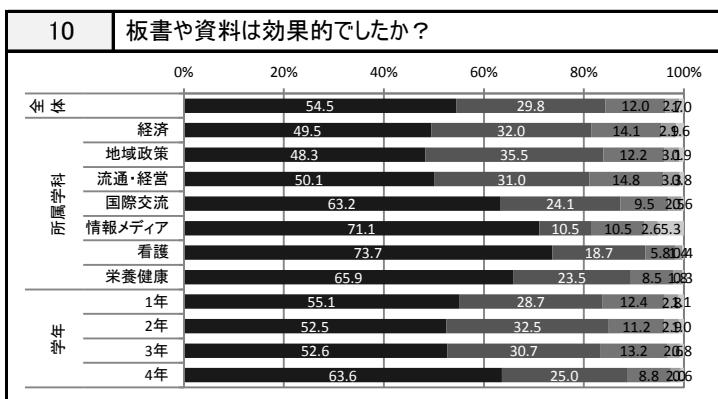
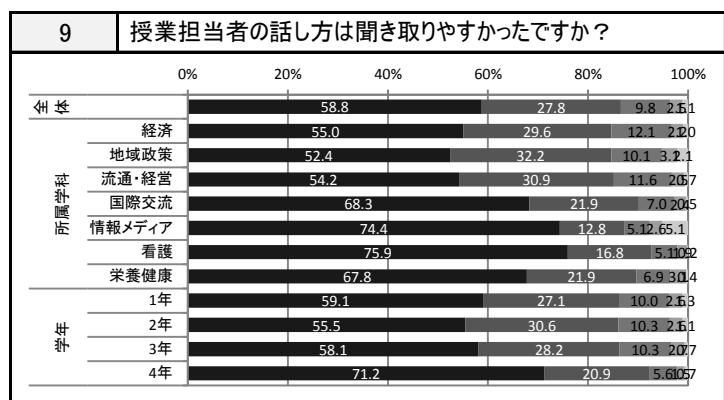
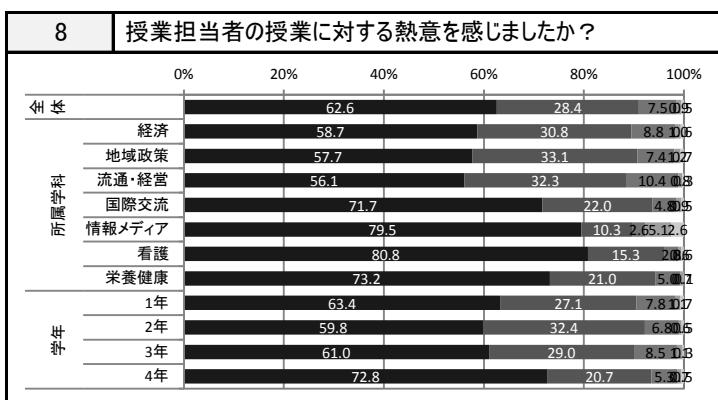


開講科目数	836
対象科目数	777
実施科目割合	92.9%

履修者数	28,023
回答者数	18,167
回答割合	64.8%

■ そう思う(5点) ■ どちらかといえば
そう思う(4点) ■ どちらとも
いえない(3点) ■ どちらかといえば
そう思わない(2点) ■ そう思わない(1点)

教員の授業への取り組み



H27年度実施FD研修会一覧

全学FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
佐世保校	8/6・7	109名	全体テーマとして「多様な学生の受け入れと学生支援」、外部講師として立命館大学齋藤教授を招聘、6日に講演会及び分科会、7日に分科会を行った。

学部FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学部	12/7	16名	講義内容は、長崎のしまのフィールドワークに関する内容。 しまのフィールドワークに関して、「しまを学ぶ」「しまのフィールドワーク」で指導する教員の立場に立って、学生の指導上注意すべき点について、多方面から講演してもらった。
	2/23	26名	新上五島町総合政策課政策推進班の三宅祐徳先生より「しまなびプログラムに対する期待、課題、感想等」を述べていただいた。次に、中島先生と井ノ上先生より今年度しまなびプログラムの振り返り、次年度の改善点についてマニュアルをもとに説明をしていただいた。その後、意見交換を行った。
国際情報学部	11/10	33名	「長崎のしまに学ぶ」についての意見交換会を実施した。
	12/17	12名	慶應義塾大学飯盛教授・SFC研究所所長による「域学連携の事例と方法：社会的創発を生むプラットフォームの探求」をテーマに講演をしていただいた。現在の活動に至る背景の説明（鳳雛塾での人材育成）の後、地域づくりとプラットフォーム、大学との関連についてお話をいただいた。

学科FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学科	7/21	10名	地域政策学科長沼信之教授による「フィールドワーク」をテーマに研修を行った。しまフィールドワーク実施を前に、フィールドワークの内容、実施方法及び実際に学生を引率して行くうえで、有効的なメソッドや注意点についてお話をいただいた。
地域政策学科	7/1,8,11/4,6, 11,25,27,12/ 2,4,2/17	延べ228名	7月1日、8日は西村・山田・吉居ゼミが卒業論文中間報告会を開催した。11月4日、6日、11日、25日、27日、12月2日、4日は卒業論文報告会を開催した。2月17日は各ゼミから推薦された優秀卒業論文についてプレゼンテーションを行った。
	12/9	100名	西村・吉居ゼミがフィールドワーク報告会を開催した。また、フィールドワーク報告会に関する意見交換会を実施した。
流通・経営学科	7/18	12名	三戸先生を講師に、経営学科運営・授業連携に関するディスカッションを行った。
情報メディア学科	9/29	17名	就職GL山崎氏を講師として「情報メディア学科生のキャリアデザイン支援を考える」をテーマに研修実施。また、ディスカッションと質疑応答を行った。

開催地	開催月日	参加人数	概要
看護学科	7/29	19名	長崎大学教育学部 藤井佑介准教授をお招きし「よりよい授業設計に向けて」をテーマに研修を行った。
	12/22	19名	カンファレンスの現状から課題を明らかにすることを目的とした。看護学の7つの領域から実習カンファレンスの学生や教員の関わりの現状を発表し、その後、5名前後のグループで、「実習における学生カンファレンスの課題」を検討した。
栄養健康学科	11/24	14名	静岡県立大学食品栄養科学部 合田 敏尚教授をお招きし、「公立大学における栄養専門職育成のビジョンと具体的な取り組み—現代栄養ケアシステムの課題からみた大学院臨床研修プログラムの意義—」と題した研修を行った。

大学院FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学研究科	7/14	14名	明治大学 菊池教授を招聘し「ピクトリア大学の教育・研究システムー学部・MBA・博士後期課程ー」をテーマに研修を行った。
	10/20	14名	楊光洙教授による「スウェーデンにおける大学院教育の現状」をテーマに、報告と質疑応答が行われた。
国際情報学研究科	3/14	約26名	「研究生」から「修士修了」に至る、留学生の指導過程について、村上雅通教授より事例報告がなされた後、質疑応答が行われた。
人間健康科学研究科	3/18	13名	山本弘史先生(長崎大学病院臨床研究センター長・教授)に「臨床研究のルール」をテーマに60分程度ご講演いただき、それに対して60分程度活発な意見交換がなされた。

模擬授業(授業評価)

学部	開催月日	参加人数	模擬授業担当者	概要
経済学部	10/26	21名	石川教授	地域研究(離島)「しまのフィールドワークを活用した講義」終了後に意見交換会を行った。
地域政策学科	6/18	15名	西岡教授	「公共政策論」を授業参観。 終了後に意見交換会を行った。意見交換会では、特に、学生に出席させる方法、出席の取り方などが話題となった。
	11/25	12名	麻生講師	「英語演習III」を授業参観。 終了後に意見交換会を行った。
国際情報学部	5/26, 6/2, 6/9	延べ20名		「長崎のしまに学ぶ」の授業参観。
国際交流学科	6/22～6/26	各回6～9名		教員相互の授業参観評価を実施し、7月学科会議(7/21)終了後に評価検討会を行った。
看護栄養学部	5/19 7/21 10/14 10/20	約60名 (延べ)	栄養健康学科:富永准教授 看護学科:高比良講師 松本教授 森田教授	教員相互の授業参観、終了後に意見交換会を行った。

「長崎県立大学やるばいプロジェクト」奨励金交付実績

(単位:人、円)

実施年度	実施校	プロジェクト名	構成員数	交付実績額
平成27年度	佐世保校	僕らの学びを実践プロジェクト in 四ヶ町商店街	7	19,690
		PIEESピース(The Program for Intercultural Education and English Studies)異文化理解・外国語教育支援に関する大学生の地域貢献活動と国際交流	15	94,450
		心潤う音楽提供	4	82,872
平成26年度	佐世保校	地域社会と連携し、よりよい音楽の提供を目指すプロジェクト	34	82,982
		PIEESピース(The Program for Intercultural Education And English Studies)異文化理解、外国語教育支援・国際交流に関する大学生の地域貢献活動	16	131,200
		三ヶ町・四ヶ町の新たな魅力発掘プロジェクト	17	121,980
		Sun + light(フェアトレード・カフェスタンドおよびショップ)	33	64,013
	シーボルト校	教会さるく～世界遺産登録推奨プロジェクト～	22	51,942
		教えて先輩！プロジェクト	6	0
平成25年度	佐世保校	音楽の共有による地域交流プロジェクト	32	104,323
		PIEESピース(The Program for Intercultural Education And English Studies)異文化理解、外国語教育支援に関する大学生の地域貢献活動	18	163,505
	シーボルト校	ナニゴトー！？	16	162,455
		長与駅フェスティバル	2	331,842
		RadiPicながさき～長崎新発見～	10	203,360
平成24年度	佐世保校	PIEES ピース (The Program for Intercultural Education and English Studies)異文化理解・外国語教育支援に関する大学生の地域貢献活動	15	386,000
		音楽を通して地域交流プロジェクト	62	91,200
	シーボルト校	JSN～長崎をとれ！～	2	173,500
		障がいをもつ児童らのプチ運動会 ～深めよう！実践を通した障がい理解～	24	140,080
		育てよう食育の芽！広げよう交流の畑	61	496,500

就職状況

<佐世保校>

(単位: %)

	経済学部			
	経済学科 ①	地域政策学科 ②	流通・経営学科 ③	計 (①+②+③)
27年度	97.5	96.7	96.2	96.8
26年度	95.6	97.1	96.9	96.5
25年度	92.6	97.6	90.6	93.5
24年度	91.7	90.3	94.6	92.2
23年度	91.8	89.0	90.5	90.4
22年度	88.2	85.7	89.7	87.9

<シーボルト校>

(単位: %)

	国際情報学部			看護栄養学部		合計 (①+②+③+ ④)
	国際交流学科 ①	情報メディア学科 ②	計 (①+②)	看護学科 ③	栄養健康学科 ④	
27年度	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
26年度	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
25年度	98.7	98.4	98.6	100.0	94.4	97.8
24年度	98.2	94.2	96.3	100.0	91.2	96.7
23年度	95.7	90.7	93.5	100.0	94.6	98.1
22年度	96.5	86.7	91.5	100.0	97.1	99.0

課外講座実施状況

<佐世保校>

(単位:人)

	講 座 名	受講者
27 年 度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	32
	ファイナンシャル・プランニング技能検定2級対策講座	18
	3級販売士養成講習	3
	2級販売士養成講習	18
	簿記2級講座	-
	秘書技能検定2級直前対策	-
	秘書技能検定準1級	-
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	145
	公務員試験対策講座	54
	計	270
26 年 度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	19
	ファイナンシャル・プランニング技能検定2級対策講座	15
	3級販売士養成講習	9
	2級販売士養成講習	16
	簿記2級講座	12
	秘書技能検定2級直前対策	15
	秘書技能検定準1級	3
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	155
	公務員試験対策講座	90
	計	334
25 年 度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	48
	ファイナンシャル・プランニング技能検定2級対策講座	23
	3級販売士養成講習	10
	2級販売士養成講習	15
	簿記3級講座	10
	秘書技能検定2級直前対策	16
	秘書技能検定準1級	3
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	130
	公務員試験対策講座	71
	計	326
24 年 度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	29
	ファイナンシャル・プランニング技能検定2級対策講座	20
	3級販売士養成講習	14
	2級販売士養成講習	17
	簿記2級講座	19
	秘書技能検定2級直前対策	65
	秘書技能検定準1級	13
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	129
	公務員試験対策講座	59
	計	365
23 年 度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	41
	ファイナンシャル・プランニング技能検定2級直前対策講座	5
	3級販売士養成講習	23
	2級販売士養成講習	12
	簿記3級講座	36
	簿記2級講座	21
	秘書技能検定2級直前対策	50
	秘書技能検定準1級	16
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	119
	公務員試験対策講座	41
計		364

<シーボルト校>

(単位:人)

年度	講 座 名	受講者
		(単位:人)
27	英語(TOEFL)対策講座	
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	28
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	
	通訳案内士	-
	秘書検定講座(準1級・2級)	33
	公務員(教養試験)対策講座	10
	教員(専門試験:養護教諭)対策講座	10
	教員(教養試験)対策講座	8
	基本情報技術者試験対策講座	
	計	89
26	英語(TOEFL)対策講座	23
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	32
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	11
	通訳案内士	-
	秘書検定講座(準1級・2級)	34
	公務員(教養試験)対策講座	12
	教員(専門試験:養護教諭)対策講座	9
	教員(教養試験)対策講座	13
	基本情報技術者試験対策講座	39
	計	173
25	英語(TOEFL)対策講座	20
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	36
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	14
	秘書検定講座(2級)	7
	秘書検定講座(準1級)	6
	公務員(教養試験)対策講座	9
	教員試験(教養)対策講座	17
	養護教諭対策講座	7
	基本情報技術者試験対策講座	16
	計	132
24	英語(TOEFL)対策講座	20
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	46
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	17
	秘書検定講座(2級)	12
	公務員(教養試験)対策講座	15
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	-
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	12
	教員試験(教養)対策講座	11
	養護教諭対策講座	6
	基本情報技術者試験対策講座	28
23	英語(TOEFL)対策講座	13
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	41
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	23
	秘書検定講座(準1級・2級)	17
	公務員(教養試験)対策講座	14
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	-
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	10
	教員試験(教養)対策講座	8
	養護教諭対策講座	5
	基本情報技術者試験対策講座(春・秋)	19
計		150

学長裁量研究実績一覧

(単位：件、千円)

平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
件数	金額								
78	74,623	61	49,399	65	55,971	63	46,971	63	38,445

[平成27年度の取り組み]

研究種目	研究代表者		共同・個人の別	研究期間(年)	研究課題				交付額(千円)
	学科	氏名							
離島	地域連携センター	中島洋	共同	2	「しまなび」プログラムにおけるコーディネーター(地域住民)を活用した学びの仕組みの開発				742
	看護	平野かよ子	共同	2	離島における市町村合併後の保健師の効果的な配置と活動体制のあり方に関する研究 その1:五島市				1,050
	情報ゲン	吉村元秀	個人	3	ICTを利用した長崎県観光情報の空間的可視化				975
	国際交流	関谷融	個人	1	COC先進事例における、フィールドワーク活動不適合者への対応措置について				211
	国際交流	河又貴洋	個人	1	学びの「わ」く和・輪・環・話>づくりプロジェクト～対馬・新上五島町での体験学習を通じて～				313
東アジア重点	国際交流	松尾晋一	共同	3	朝鮮における日本の植民地支配				512
	栄養健康	正木基文	共同	1	健康指標としてのテロメア長に関する研究				1,208
	地域政策	松本勝明	個人	1	東アジア諸国と日本との間を移動する労働者の社会保障に関する研究				1,017
	経済	中村和敏	個人	2	インドネシアにおける地域経済成長と技術普及				558
	経済	田村善弘	個人	1	韓国の食農分野における消費者教育に関する研究				283
	情報ゲン	P・ヒヤ	個人	1	アジアのテレビ広告に現れる外国イメージ及び家族像の変容－日本・中国・タイの事例				892
長崎の地域課題研究	流通・経営	山本裕	共同	2	長崎県(離島を含む)と中国・韓国を結ぶネットワークの構築に関する研究(2ヵ年)				623
	流通・経営	西島博樹	共同	1	人口減少社会における住みいまいち・むら創出に関する課題－長崎県の事例を中心				851
	国際交流	山田健太郎	共同	3	しまの観光振興とアクティブラーニング型外国語教育(通訳ガイド)				197
	栄養健康	吉澤和子	共同	2	離島住民の食行動に影響を及ぼす要因に関する研究				665
	栄養健康	湯浅正洋	共同	1	長崎県産九十九島岩ガキの栄養学的特徴とその意義				2,103
	栄養健康	古場一哲	共同	1	乳酸発酵による長崎県産黒大豆の機能性改善に関する研究				2,250
	栄養健康	田中一成	共同	1	長崎県産農林水産物の機能性評価と消費拡大への取り組み				1,480
	栄養健康	富永美穂子	個人	1	長崎県産農産物・加工品のアピールポイント探求に関する基礎的研究				1,202
	看護	大塚一徳	個人	1	地域の高齢者が認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進を目的としたワーキングメモリ機能アセスメント －壱岐市地域包括支援センターとの協働による認知症理解のための普及・啓発講座の実施－				1,234
本学の個性創出	栄養健康	四童子好廣	共同	3	動物細胞における内因性ゲラニルゲラノイン酸(GGA)並びに2,3-ジヒドロGGAの同定				2,817
	看護	永峯卓哉	共同	1	学生の主体的な学びを促進する学生参加型授業方法の検証 看護技術教育におけるアクティブラーニングの実践から				524
	栄養健康	岡本恭子	共同	2	メタボローム解析による糖尿病患者血清の特定バイオマーカーの探索				1,956

重点課題研究 本学の個性創出	地域政策	山崎祐一	個人	2	「実践力のあるグローバル人材」の育成とその教育方法に関する研究 ～英語の知識を海外研修や異文化間コミュニケーションに必要な戦略的コミュニケーションスキルにどう転換していくか～	609
	情報メディア	森田均	個人	3	高度交通システム網構築への参与と実践から情報社会論の新たな研究手法を獲得する試み	1,546
	栄養健康	吉澤和子	個人	3	地域特有の食事パターンを捉える食物摂取頻度調査票(FFQ)の信頼性に関する研究	1,126
	栄養健康	松澤哲宏	個人	2	Loop-Mediated Isothermal Amplification(LAMP)法を用いた耐熱性カビ4属の迅速識別法の開発	1,068
一般課題研究	流通・経営	村上則夫	個人	1	地域コミュニティの発展へ向けての一考察－地域交流・連携ネットワークによる新たな地域発展の試み－	239
	地域政策	奥山忠裕	個人	1	津波災害に対する支払意志額の比較研究	450
	経済	大塚芳宏	個人	1	空間計量モデルの地域分析への応用	439
	地域政策	雪丸武彦	個人	1	佐世保市立中学校でのボランティア体験を通じた学生の職能成長に関する研究	213
	地域政策	麻生雄治	個人	1	センテンス・コンバイニングを取り入れた英作文指導の研究と教材開発	370
	流通・経営	舟橋豊子	個人	1	フィリピンにおける卸売業の役割について	299
	栄養健康	森田茂樹	共同	1	一般病院における栄養状態把握法の検討(血中甲状腺ホルモンの測定を中心)	516
	看護	吉田恵理子	共同	1	長崎の観光における内部障害者の「外食に関するユニバーサルツーリズム」に関する実証研究	571
	栄養健康	駿河和仁	共同	1	成長期の仔ラットの栄養状態が成長後の代謝障害発症に及ぼす影響	827
	看護	片穂野邦子	共同	1	アファニチブ治療による有害事象が肺がん患者のQOLに及ぼす影響	601
	栄養健康	石見百江	共同	1	幼児の運動能力向上のための教育実践に関する研究	728
	看護	木村チヅル	共同	1	新総合事業移行による地域包括ケアシステム構築に関する研究	397
	栄養健康	飛奈卓郎	共同	1	運動による体重減少と体組織の変化に関する研究	984
	情報メディア	C・ソムチャイ	個人	1	本学における学習用の電子書籍の横断検索仕組みの確立に関する研究	457
	国際交流	下野孝文	個人	1	・遠藤周作論－精神分析学的アプローチから／ ・長崎と文学－文学と歴史的背景について	265
	情報メディア	永野哲也	個人	1	phinslerー空間における線形平行移動で対称な曲線の基礎的研究	321
	国際交流	福島涼史	個人	1	国際社会の内と外-その形成過程と法的帰結	298
	情報メディア	吉光正絵	個人	1	島嶼地域の女性の情報発信に関する研究	316
	国際交流	和田一哉	個人	1	意思決定への関与に対する認識:途上国における家計内資源配分の実証分析	256
	看護	李節子	個人	1	在日外国人(移住女性)への性暴力被害者支援と医療通訳体制に関する研究	250
	看護	河口朝子	個人	1	らい予防法廃止以前にハンセン病療養所の入所者と交流した地域高齢者に関する研究	403
	看護	林田りか	個人	1	大学生と喫煙に関する研究	300
	看護	高比良祥子	個人	1	看護学生の小児糖尿病サマーキャンプ参加における教育的效果	148
	看護	山口多恵	個人	1	回復期リハビリテーション病棟における看護師のアンラーニングを促進するプロセスマネジメントの作成	376
	栄養健康	山口範晃	個人	1	筋肉細胞C2C12の各代謝におけるビタミンAの影響	409
総 計						38,445

平成27年度 新上五島町との連携事業について

項目	内 容
協定締結日	平成19年11月 2日
目的	大学と新上五島町は、相互の発展のため、地域振興、教育、健康福祉及び学術等の分野で協力する。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域政策、まちづくりに関すること ② 教育及び人材育成に関すること ③ 生涯学習に関すること ④ 地域産業の振興に関すること ⑤ 健康福祉に関すること ⑥ 地域情報化に関すること ⑦ 学術研究に関すること ⑧ インターンシップ等現地学習に関すること ⑨ 施設の利用に関すること ⑩ その他両者の協議により定める事項

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	飛奈 卓郎	住民の健康増進と生活習慣病予防のための運動普及
情報メディア学科	河又 貴洋	人口減少対策に向けたガイドライン作成事業
地域政策学科	西村 千尋	町民が歩きたくなるウォーキングコースマップの作成

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	奥山 忠裕	佐世保港を起点とする観光マーケティング事業
流通・経営学科	山本 裕	
栄養健康学科	飛奈 卓郎	住民の健康増進と生活習慣病予防のための運動普及

【平成25年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	奥山 忠裕	佐世保港を起点とする観光マーケティング事業
流通・経営学科	山本 裕	
栄養健康学科	飛奈 卓郎	住民の健康増進、生活習慣病予防（運動編）

【平成24年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	阿部 律子	世界遺産登録推進事業
地域政策学科	奥山 忠裕	佐世保港を基点とする観光マーケティング事業
流通・経営学科	山本 裕	
看護学科	吉田 恵理子	日常生活圏域における地域と高齢者のアンケート調査と分析
//	永峯 卓哉	

平成27年度 佐世保市との連携事業について

項目	内 容
協定締結日	平成22年4月7日
目的	大学と佐世保市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、県北地域における学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 共同研究・受託研究に関すること ② 地域貢献の取り組みに関すること ③ 人材育成・交流に関すること ④ その他、本協定の目的を達成するために必要な事項

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	長崎県北・西九州エリアの社会経済分析について
流通・経営学科 経済学科	宮地 晃輔 綱 辰幸	製造業の生産効率改善につながる人材育成支援策の共同研究
流通・経営学科	山本 裕	

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	将来都市構造実現化方策研究
流通・経営学科	西島 博樹	
流通・経営学科 経済学科	宮地 晃輔 綱 辰幸	製造業の生産効率改善につながる人材育成支援策の共同研究
流通・経営学科	山本 裕	

【平成25年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科 //	石川 雄一 車 相龍	将来都市構造実現化方策研究
流通・経営学科	西島 博樹	
経済学科	綱 辰幸	
地域政策学科	西村 千尋	佐世保市ウォーキングモデルコースマップ集 改訂業務
経済学科	綱 辰幸 大塚 芳宏	合併自治体における財政効果及び佐世保市統計情報の利活用について

【平成24年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	佐世保市の地理空間情報を活用した地域課題の調査・研究事業
地域政策学科 経済学科	石川 雄一 綱 辰幸	佐世保市の広域合併に関する研究及び都市計画マスター・プランにおける中心市街地等の機能に関する研究
地域政策学科 // 経済学科	車 相龍 金綱 基志 宮地 晃輔 綱 辰幸	産業人材育成実態調査及び支援策にかかる共同研究
地域政策学科	西村 千尋	佐世保市ウォーキングモデルコースマップ集改訂業務

平成27年度 長与町との連携事業について

項目	内 容
協定締結日	平成23年11月28日
目的	大学と長与町が、相互の資源を活用した連携を推進することで、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	①地域政策、まちづくりに関すること ②教育及び人材育成に関すること ③生涯学習に関すること ④地域産業の振興に関すること ⑤健康福祉に関すること ⑥地域情報化に関すること ⑦学術研究に関すること ⑧施設の利用に関すること ⑨その他両者の協議により定める事項

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	富永 美穂子	長崎県立大学シーボルト校 学内菜園で野菜栽培・収穫体験！！
		地域（自治会・コミュニティ）活性化事業 (平成24年度からの継続事業)
情報メディア学科	森田 均 村上 雅通	長与町まち・ひと・しごと創生推進会議
学生		長与町まち・ひと・しごと総合戦略策定
Siebo		全国移住ナビにかかるプロモーションビデオ製作

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	永田 保夫	きな粉を利用した食品事業
栄養健康学科	永田 保夫	長与町特産品（みかん、オリーブ）を利用した食品事業
栄養健康学科		食品分析や再利用についての研究
流通・経営学科 サークル(Siebo 等)		地域コミュニティ再生事業（平成24年度からの継続事業）
学生・教職員		地域（自治会・コミュニティ）活性化事業 (平成24年度からの継続事業)
学生		長与川まつり（平成24年度からの継続事業）

【平成 25 年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	永田 保夫	大豆を使った給食事業（平成 24 年度からの継続事業）
栄養健康学科	武藤 慶子ほか	ベジママクッキング～おやこで作ろう夏野菜～（お母さん料理教室）
栄養健康学科		オリーブ製品の開発
流通・経営学科	岩重 聰美 山本 裕	みかん加工製品
栄養健康学科	永田 保夫	
流通・経営学科	岩重 聰美 山本 裕	直売所運営
流通・経営学科		地域コミュニティ再生事業（平成 24 年度からの継続事業）
学生・教職員		地域（自治会・コミュニティ）活性化事業 (平成 24 年度からの継続事業)
学生		長与川まつり（平成 24 年度からの継続事業）
情報メディア学科		効果的な町のPR 方法

【平成 24 年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	全員	スイーツコンテストの開催
栄養健康学科	永田 保夫	大豆を使った機能性食品の給食への活用

平成27年度 平戸市との連携事業について

項目	内 容
協定締結日	平成25年9月20日
目的	大学と平戸市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 共同研究、受託研究に関すること。 (2) 地域貢献の取組みに関すること。 (3) 人材育成及び交流に関すること。 (4) その他本協定の目的を達成するために必要な事項

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
流通・経営学科	西島 博樹	道の駅におけるマーケティング調査
経済学科	田村 善弘	
流通・経営学科	太田 謙一郎	
学生		平戸観光応援隊設置運営事業

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
流通・経営学科	岩重 聰美 大田 謙一郎	「平戸牛のブランド化」に関するマーケティング調査事業
学生		平戸観光応援隊設置運営事業
学生		ひらどツーデーウォーク大会にかかるボランティアスタッフ支援事業

【平成25年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
学生		平戸観光応援隊設置運営事業
学生		ひらどツーデーウォーク大会にかかるボランティアスタッフ支援事業

平成27年度 五島市との連携事業について

項 目	内 容
協定締結日	平成26年2月6日
目的	大学と五島市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 共同研究、受託研究に関すること。 (2) 地域貢献の取組みに関すること。 (3) 人材育成及び交流に関すること。 (4) その他本協定の目的を達成するために必要な事項

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
情報メディア学科	森田 均	奈留地区 幸せになる島のまちづくりプロジェクト 学生モニターツアー調査への協力（五島市奈留地区）

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
情報メディア学科	森田 均	平成26年度 集落地域における「小さな拠点」形成推進に関する調査 「小さな拠点」づくりモニター調査地域への協力（五島市奥浦地区）
情報メディア学科	森田 均	荒川案内人育成事業：荒川さるくマップ作成とそれに伴うフィールドワーク（地域調査）

平成 23 年度「地域イノベーション戦略推進地域」及び 「地域イノベーション戦略支援プログラム」の採択にかかる 取り組みについて

- 文部科学省が、地域の特性を活かした持続的・発展的なイノベーション創出に向けた主体的な取組に対し、関係府省の施策を総動員して支援を行う「地域イノベーション戦略推進地域」について、長崎県を含む、24 地域を選定。

【地域名】ながさき健康・医療・福祉システム開発地域

【目的】健康・医療・福祉分野での新産業の創出

【構成機関】

産:長崎県商工会議所連合会 長崎県商工会連合会 長崎県中小企業団体中央会
学:長崎大学(実施機関) 長崎県立大学 長崎総合科学大学 佐世保工業高等専門学校
金:十八銀行 親和銀行
官:長崎県 長崎県産業振興財団(総合調整機関および実施機関)

【国の支援(地域イノベーション戦略支援プログラム)内容について】

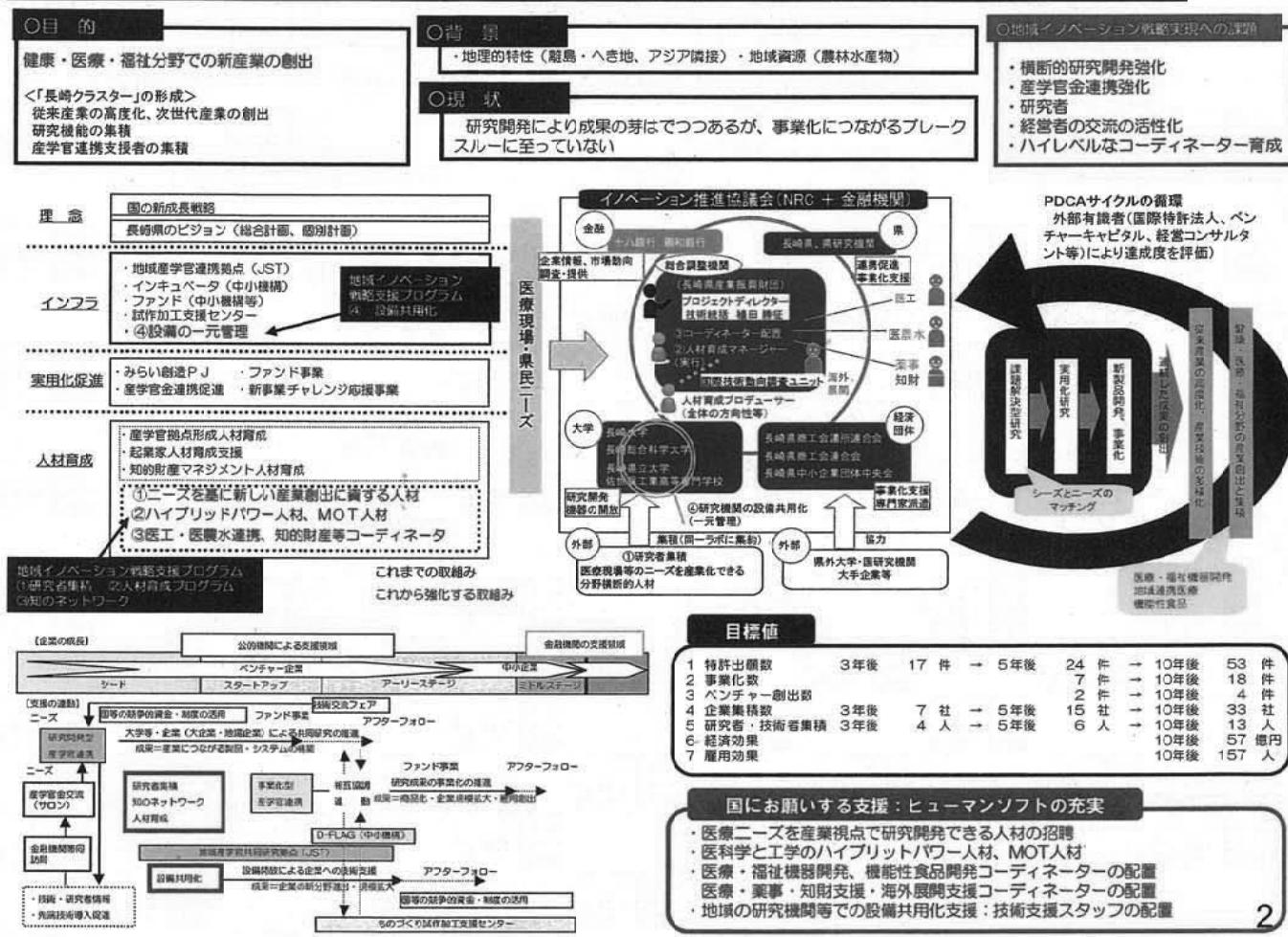
- (1)中核を担う研究者の集積にかかる経費支援
- (2)地域戦略実現のための人材育成にかかる経費支援
- (3)大学の知のネットワーク構築にかかる経費支援
- (4)地域の研究機関等での設備共用化支援にかかる経費支援

【支援期間】

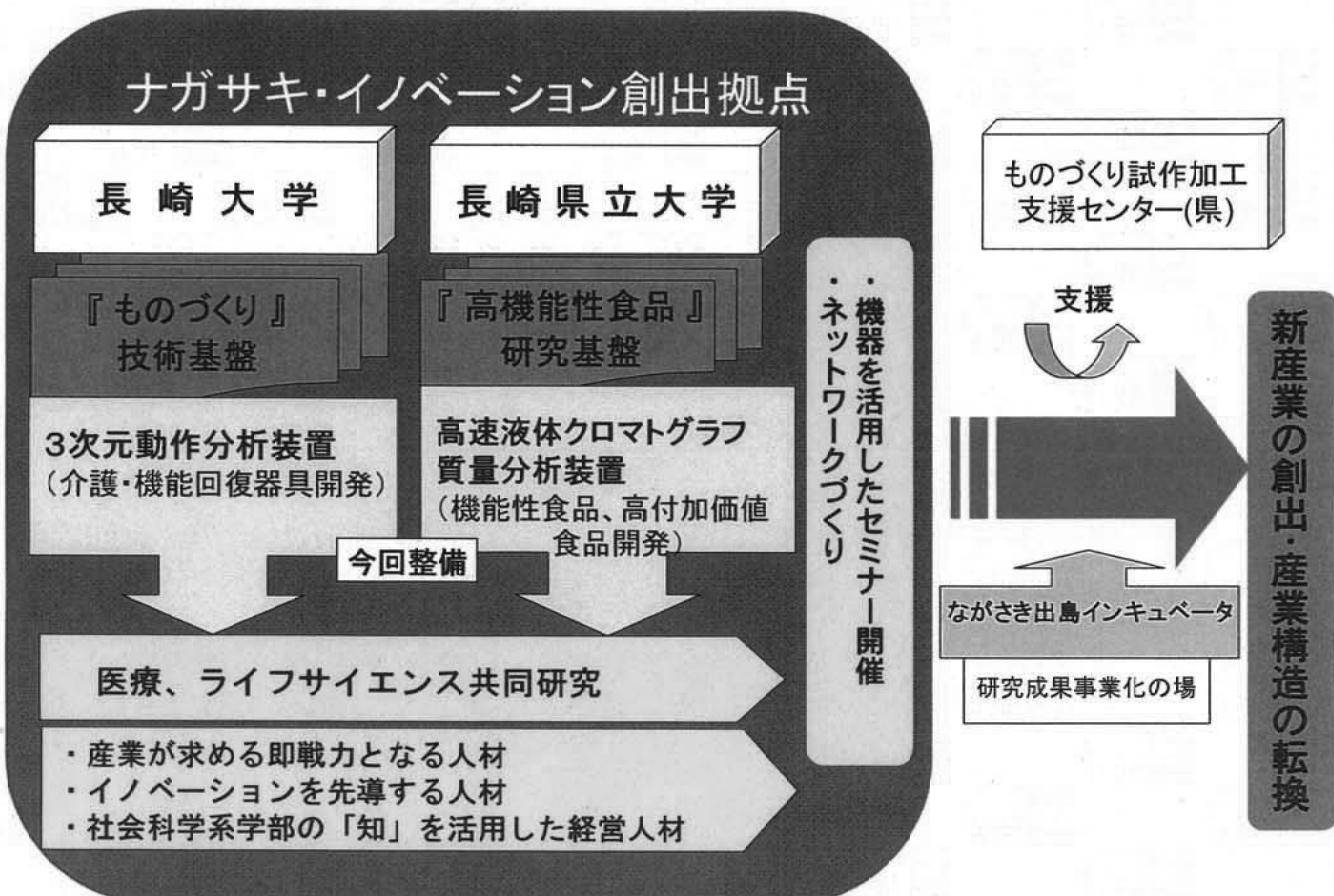
5 年

- 上記支援「(1)中核を担う研究者の集積」において、本学に1名研究者が配置
永田保夫氏(栄養生化学、医療用機能性食品の開発)
※雇用は長崎大学。

地域イノベーション戦略の全体図

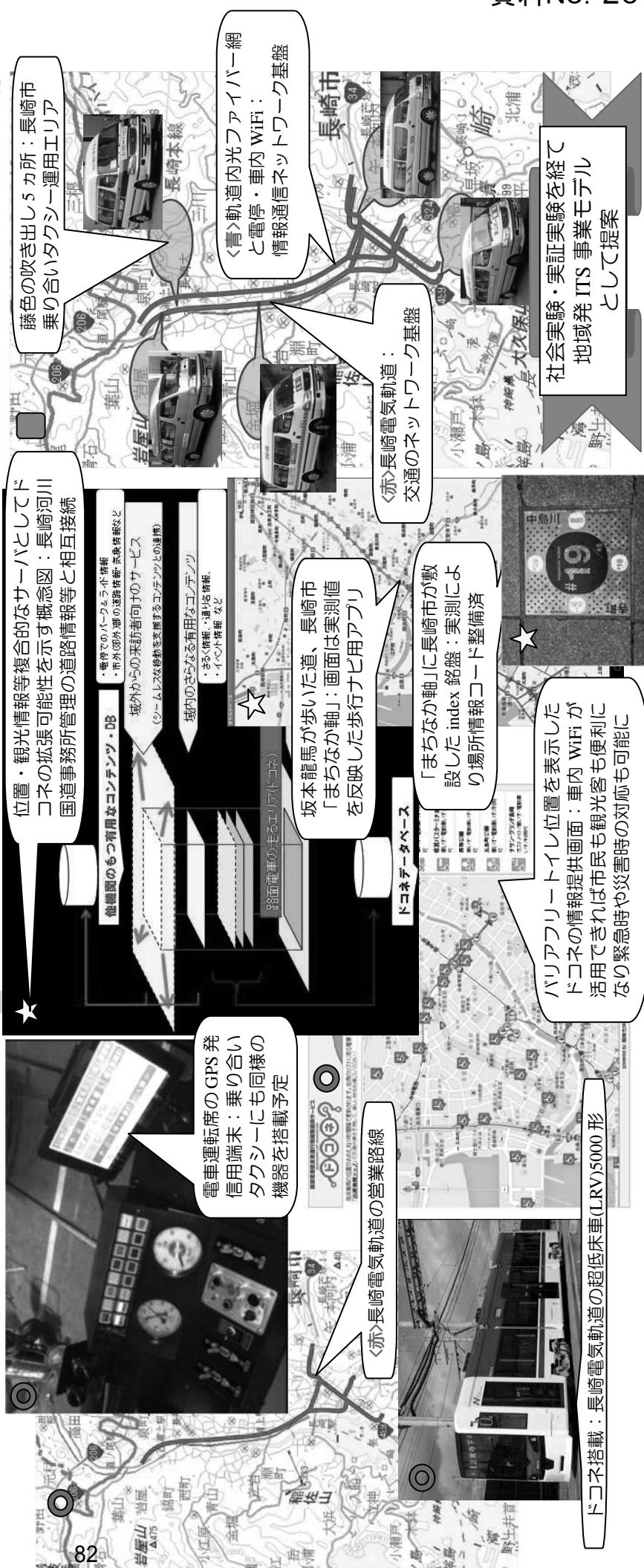


2. 地域産学官共同研究拠点の概要



総務省戦略的情報通信技術によって公共交通の体系统化を促し地域ITSモデルの構築を目指す研究開発

研究代表者：森田均(長崎県立大学) 研究分担者：松坂勲、山口文春、高比良惣(扇精光ソリューションズ株式会社) 上記3機関と長崎市建設局まちなか事業推進室、長崎県産業労働部グリーンニューディール推進室、国土交通省長崎河川国道事務所で構成する長崎市LRTナビゲーション推進協議会は、国土交通省「平成23年度 ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業」として同年10月からGPSを用いて低床型車両から位置情報を発信し、ユーザーの携帯電話・スマートフォン等へ配信する、位置情報配信サービス「ドコネ」を運用している。
(◎印図) このシステムをまちなかの徒步移動とともに連携させ、他の観光情報データベースと連動させる試みを長崎県産業振興財团の支援を得て、平成24年度に実施した。(☆印図) また、ITS世界会議東京2013では軌道内敷設の光ファイバーとWi-Fi網を介して長崎市内を走行中の車両から東京ビッグサイトまでHD映像をインターネット経由でライブ中継することによって、路面電車の軌道が情報網として機能することを実証した。(□印図) これらの業績を利用して、幹線のみならず周辺部を含めた公共交通の総合的な体系统化と、市民生活と観光活性化の双方に有用な情報通信環境の整備という地域の課題に応えるため、位置情報配信システムを拡張することにより幹線としての路面電車に支線として乗合タクシーを結節させる。BluetoothLE(iBeacon)やNFC等の近距離無線通信技術を利用して位置情報、観光情報等の提供を行なう。これにより統合化したインフラとして、災害時・緊急時に応えるため、位置情報配信システムを取りまとめ地域ITSモデルの構築を目指す。本研究開発は、□印図までの成果を取りまとめ地域ITSモデルの構築を目指す。本研究開発は、**Webナビゲーションと近距離無線通信技術によって公共交通の体系統化を促し地域ITSモデルの構築を目指す研究開発課題**



平成27年度第1回長崎県立大学COCプロジェクト連絡会議を開催しました

7月29日（水）13時より、佐世保校とシーボルト校の両キャンパスを遠隔システム（テレビ会議）でつなぎ、「平成27年度第1回長崎県立大学COCプロジェクト連絡会議」を開催しました。

この連絡会議は、地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の推進について、各自治体と大学間で連絡及び調整等を行うものです。

議題としては、「しまなび」プログラムに関するフィールドワーク実施計画や各グループのテーマについての説明、地域との連携事業等の説明、地域での公開講座や学園祭出店にかかる協力依頼等を行いました。

「しまなび」プログラムの計画としては、8月18日～9月26日の期間、4泊5日の日程で、56グループ、計605名の学生が7箇所の「しま」でのフィールドワークを実施します。

自治体の委員からは、「テーマは観光や情報発信が主であり市の課題と同じ」「地域の活性化のために学生の知恵を借りたい」「地域の抱える農業や水産業などの課題にも視点を向けるべきでは」「しまを訪れる学生が増えることは非常に好ましい」等の意見が出され、活発な意見交換を行いました。

今回の地域からいただいた要望等を踏まえ、地域の知の拠点となるべく、大学COC事業を引き続き実施していきます。

※今回参加いただいた自治体

長崎県、佐世保市、平戸市、対馬市、壱岐市、五島市、長与町、小値賀町、新上五島町



佐世保校の様子



シーボルト校の様子

平成27年度第2回長崎県立大学COCプロジェクト連絡会議を開催しました

2月17日（水）13時より、佐世保校とシーボルト校の両キャンパスを遠隔システム（テレビ会議）でつなぎ、「平成27年度第2回長崎県立大学COCプロジェクト連絡会議」を開催しました。

この会議は、地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の推進について、本学と地域との連絡を円滑に推進するためのものであり、7月に第1回会議を開催し、「しまなび」プログラムに関するフィールドワーク実施計画、地域での公開講座や学園祭出店にかかる協力依頼等を行っておりました。

今回は、第2回会議として、今年度のフィールドワークの実施状況、来年度の実施予定を報告するとともに、今後の実施に関する意見交換を行いました。

地域からは、「観光に関するフィールドワークだけでなく農業や水産業などの基幹産業にも目を向けた取組みを希望する」「自治体では対応出来ないデータ解析等の取組みを行うことで地域づくりに貢献出来ないか」「フィールドワークの報告会については開催周知をもっと早くすべき」などの意見が出されました。

次年度につきましては、地域から出された意見を反映して、よりよい活動が出来るよう努めていきたいと思いますので、地域の皆様方のご協力をよろしくお願いします。

※今回参加いただいた自治体

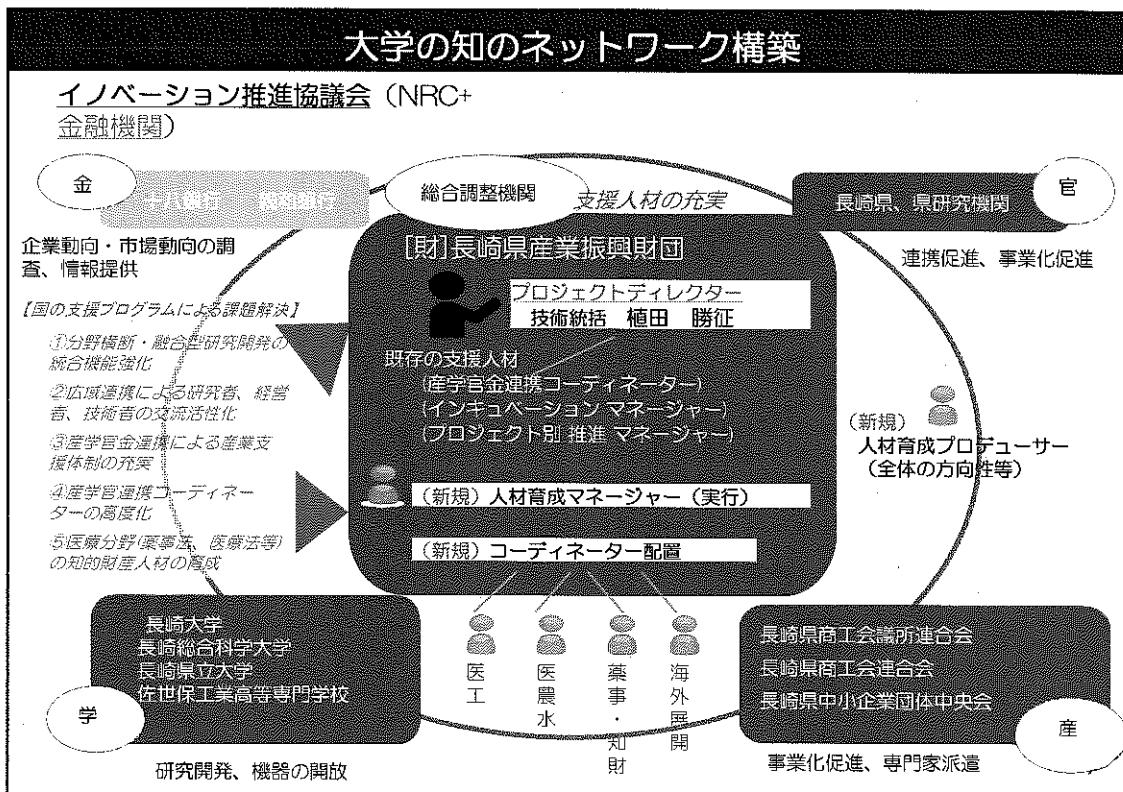
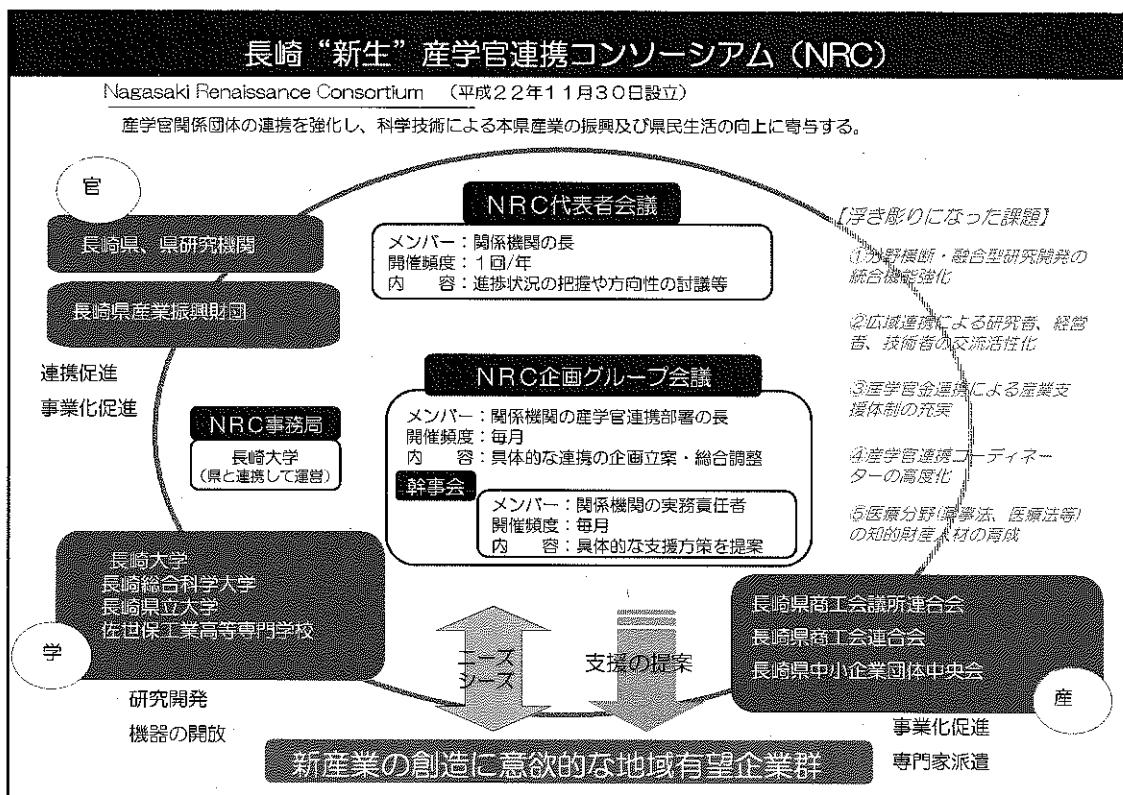
長崎県、佐世保市、平戸市、対馬市、壱岐市、五島市、長与町、小値賀町、新上五島町



佐世保校の様子



シーボルト校の様子



平成27年度 第1回 機能性食品開発セミナー・試食交流会

日 時 平成27年9月8日（火）15時10分 - 18時30分
会 場 長崎県立大学シーボルト校 大講義室、中央棟1階M104
主 催 長崎県立大学、ながさき地域資源活用機能性食品研究会
 長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム（NRC）
 長崎県農商工連携事業推進協会

次 第

1. 開会あいさつ 15:10

長崎県立大学 地域連携センター センター長
 国際情報学部 情報メディア学科 教授 森田 均

2. 基調講演

(1) 「食品の機能性表示制度の概要とその活用について」 15:15

公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 事務局長 青山 充 氏

(2) 「お酒と健康」 16:15

長崎県立大学 看護栄養学部 栄養健康学科 准教授 富永 美穂子

- 休憩 -

3. 機能性食品開発の成果発表

17:05

長崎県立大学 看護栄養学部 客員教授

長崎大学産学官連携戦略本部 教授 永田 保夫

4. 閉会あいさつ

17:15

ながさき地域資源活用機能性食品研究会 会長 永田 保夫

5. 試食交流会

17:30 - 18:30

【お問い合わせ先】

ながさき地域資源活用機能性食品研究会事務局

《公益財団法人 長崎県産業振興財団内》担当：山喜・前田

TEL 0957-52-1138 FAX 0957-52-1140

E-mail nagasyoku25@joho-nagasaki.or.jp

平成
28
年2/
26
(金)

第2回

機能性食品開発セミナー

生産農家・食品加工業者・流通業者・販売業者、研究機関、支援機関等の方々にお集まりいただき、機能性食品開発が一層進捗し、県内産業がますます発展する契機となることを目的として機能性食品開発セミナー&試食交流会を開催いたします。

試食交流会では、本研究会で取り扱っている食品素材を使った開発中の試作品を試食いただけます。また、過去の本セミナーをきっかけとして製品開発が始まり、既に製品化されたものも数点あります。

ぜひご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

開会 15時10分 (受付 14時40分)

次第

1. 開会あいさつ	15:10	
2. 基調講演		
(1) 「パッケージデザインの重要性について」	15:15	
株式会社 デザイン・スーパー・マーケット 代表取締役 古澤 高志 氏		1-1-1
(2) 「血液ドロドロと血液サラサラのウソとホント」	16:00	
長崎県立大学 看護栄養学部看護学科 教授 立石 憲彦		1階
【休憩 16:45 - 16:55】		
3. 機能性食品開発の成果発表	16:55	M103
長崎県立大学 看護栄養学部 客員教授		
長崎大学産学官連携戦略本部 教授 永田 保夫		M104
4. 閉会あいさつ	17:15	
試食交流会 (M104)	17:30 - 18:30	

お問い合わせ先

ながさき地域資源活用機能性食品研究会事務局

[公財]長崎県産業振興財団 E-mail nagasyoku25@joho-nagasaki.or.jp

TEL 0957-52-1138 FAX 0957-52-1140

主 催	長崎県立大学シーボルト校 中央棟 1階
場 所	長崎県西彼杵郡長与町まなび野 ながさき地域資源活用機能性食品研究会、長崎県農商工連携事業推進協会

平成 27 年度 長崎県立大学知的財産セミナー

長崎県立大学では例年、知的財産に関する情報を提供するセミナーを開催しています。

本年度は九州/長崎の知財の状況をレビューするとともに、職務発明の際に必要な知識や実務で役立つ情報を提供する場として、日本弁理士会九州支部支部長の原崎弁理士にご講演いただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時	平成 28 年 3 月 3 日(木) 13:20 ~ 14:50	(開場 13:00)	参加費無料
会場	(主 会 場) 長崎県立大学シーボルト校 中央棟 2 階 M206 教室 西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1		
(遠隔会場)	長崎県立大学佐世保校 新館講義棟 1 階 504 教室 佐世保市川下町 123-1 ※佐世保校は遠隔システムによる受講になります		
対象	どなたでも参加できます		
主催	長崎県公立大学法人 長崎県立大学	後援	日本弁理士会 九州支部

演 題

知的財産権の常識

講 師

原崎 正 氏 (原崎特許商標事務所 所長 弁理士)

- | | | |
|-------|---------|------------------------------|
| プログラム | 1. 開 会 | 13:20 |
| | 2. 開会挨拶 | 13:20~ 地域連携センター長 教授 森田 均 |
| | 3. 講 演 | 13:25~ 「知的財産権の常識」 弁理士 原崎 正 氏 |
| | 4. 質疑応答 | 14:45~ |
| | 5. 閉 会 | 14:50 |

講師紹介

- | | |
|------|--------------------------|
| 〈略歴〉 | 1974 年 長崎大学 工学部卒 |
| | 1974 年 佐世保重工業 鉄構部橋梁設計勤務 |
| | 1983 年 弁理士登録 (9008 号) |
| | 1987 年 恵美須町に原崎特許商標事務所を開設 |
| | 1996 年～ 日本弁理士会の各種委員を歴任 |
| | 2014 年 黄綬褒章 (弁理士業務功労) 受章 |
| | 2015 年 日本弁理士会 九州支部 支部長就任 |

〈学会/公職等〉 日本弁理士会 九州支部 支部長、長崎県発明協会 発明相談員

〈著作/講演等〉 長崎県産業振興財団 広報誌に「中小商工業者のための工業所有権の常識」を連載。

シーボルト校会場では閉会後に弁理士との無料の知財相談の場を設けます。ご希望の方は参加申込時にご記入下さい。



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI

お問い合わせ先

長崎県立大学 シーボルト校 地域連携センター 担当:伊東

TEL:095-813-5500 / FAX:095-813-5220 / E-mail:hitou@sun.ac.jp

アジア・国際戦略に関する取組

1. 学長プロジェクト研究

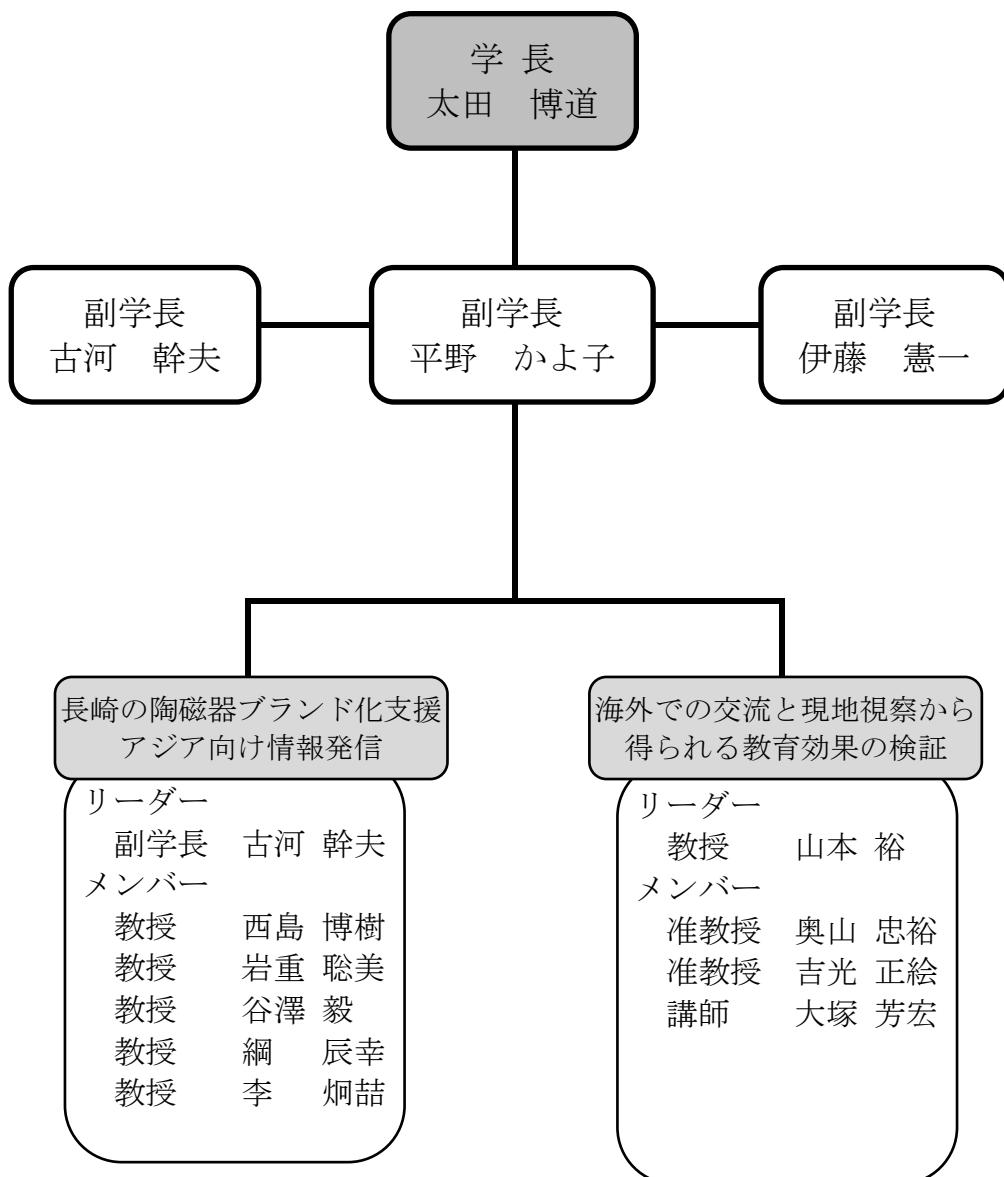
○趣旨

本学は、中期計画において、県や県内市町の政策課題に関する研究を推進し、提言を行うことにより、地域貢献を果たしていくこととしている。「東アジア」に関する研究を重点課題研究としていることは、本学の特色の1つである。具体的には、東アジア研究所を設置し、東アジア地域の大学との連携を積極的に推進している。

一方、長崎県の政策課題の中でも、「アジア・国際戦略」は、最重要課題の1つである。これは本学にとって最も合致する政策課題であり、本学が県政推進に大きく寄与できる分野であると考える。

そこで、本学の教職員が連携して研究を推進するため、学長を中心に、平成26年度から東アジアに特化した研究プロジェクトを立ち上げた。

○研究組織



○「上海ゼミ」の実施

学長プロジェクトである「海外での交流と現地視察から得られる教育効果の検証」のため、「上海ゼミ」を実施し、学生35名、教職員11名が参加した。上海外国语大学学生との交流や上海に進出している日系企業等の訪問を行い、現地で働く人々や企業の実情等を学んだ。

2. 「海外ビジネス研修」の実施

経済学部で実施した「海外ビジネス研修」（経済学科、流通・経営学科による共同実施）では、シンガポール、ベトナム、中国に24名の学生を派遣した。

さらに、引き続き研修先の確保を行い、研修先を15ヶ所とした。

長崎県立大学プロジェクト研究費について

長崎県立大学及び県立長崎シーボルト大学の研究面でのより一層の活性化を目的として、両大学の今後の発展に資する学術研究を支援するため、総額30,000千円、期間3年を限度として両大学の教員を対象とした公募により配分する研究費。対象となる研究は、①「大学教育・学生支援推進事業」など国等の研究費の申請になり得る研究、②本学の活性化や地域の課題に即した研究となっている。

[配分実績]

(単位：件)

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
件数	件数	件数	件数	件数	件数
1	1	1	1	2	2

[平成27年度の配分実績]

研究者		研究期間	研究題目
学科名	教員氏名		
研究代表者			
経済	古河 幹夫		
研究分担者			
経済	綱 辰幸		
流通・経営	西島 博樹		
流通・経営	岩重 聰美		
流通・経営	谷澤 毅		
国際交流	李 炳喆		

研究者		研究期間	研究題目
学科名	教員氏名		
研究代表者			
流通・経営	山本 裕		
研究分担者			
地域政策	奥山 忠裕		
情報メディア	吉光 正絵		
経済	大塚 芳宏		

研究論文数・学会発表数

	欧文学術誌発表論文					
	H22	H23	H24	H25	H26	27
経済学部	3	4	10	14	8	16
国際情報学部	11	3	11	7	3	10
看護栄養学部	23	24	12	18	32	20
年度 計	37	31	33	39	43	46

	邦文学術誌発表論文					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27
経済学部	10	13	32	29	34	33
国際情報学部	11	13	31	30	44	33
看護栄養学部	31	25	12	32	27	13
年度 計	52	51	75	91	105	79

	国際学会発表					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27
経済学部	5	6	7	15	14	13
国際情報学部	17	18	12	13	10	16
看護栄養学部	49	27	28	39	29	27
年度 計	71	51	47	67	53	56

	全国学会発表					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27
経済学部	17	20	25	19	28	32
国際情報学部	31	24	38	24	35	17
看護栄養学部	160	120	49	106	104	91
年度 計	208	164	112	149	167	140

共同研究・受託研究一覧

○実施件数

(単位:件)

年度	共同研究	受託研究	備考
27年度	11	6	佐世保市との共同研究1件 佐世保市、平戸市との受託研究1件 ずつを含む
26年度	11	8	
25年度	13	11	
24年度	10	15	
23年度	11	12	
22年度	12	12	
計	68	64	

※相手先や共同研究者に配慮し、件数のみ記載。

国際交流協定校一覧

	大学名	協定締結日	協定事業内容				
			学生交流 〔派遣・受入人数 期間〕	教職員 交流	共同 研究	シンポジウム等	刊行物等 の 交換
1	華僑大学	中国 1992年10月7日 (平成4年)	○ [計4名 規定なし]	○	○	○ [年1回 交互に 開催]	○
2	ウィスコンシン大学オシュコシュ校	アメリカ 2001年9月28日 (平成13年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○		
3	上海外国语大学	中国 2002年10月17日 (平成14年)	○ [各3名 半年又は1年]	○	○		
	上海外国语大学短期留学生プログラム協定		○ [受入5名 派遣短期研修10名]				
4	東亜大学校	韓国 2004年4月1日 (平成16年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○	○	○
5	高麗大学校	韓国 2004年12月2日 (平成16年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○	○	○
	看護大学校		○ [定期的な相互交流]	○	○	○	
6	廈門大学 日本研究所	中国 2006年12月7日 (平成18年)	○ [規定なし]	○	○	○	○
7	澳門大学 社会人文学部	中国 2009年5月20日 (平成21年)	○ [計1~3名 規定なし]	個別に 協議			
8	西安外国语大学	中国 2011年3月1日 (平成23年)	○ [各2名 1年以内]	○			
9	タマサート大学	タイ 2012年10月30日 (平成24年)	○ [学部の規定による]	○	○		○
	ジャーナリズム・マスコミュニケーション学部		○ [各5名 1年以内]				
	看護学部		○	○	○		
10	湖北大学	中国 2013年3月1日 (平成25年)	○ [各5名 1年以内]	○	○	○	○
11	エドモンズコミュニティカレッジ	アメリカ 2013年12月14日 (平成25年)	○ [各2名 半年]	○	○		
12	ダナン大学(大学間交流協定)	ベトナム 2014年11月25日 (平成26年)	○ [別途覚書を締結]	○	○	○	○
	(学生交流に関する覚書)		○ [各2名 1年以内]	○			

※東亜大学・華僑大学と2011年締結した協定については6年毎に更新。それ以外の協定は5年毎に更新。

海外大学とのシンポジウム・フォーラム開催実績一覧

年度	開催日	タイトル	場所	備考
27 年 度	6月26日	第1回東アジア研究セミナー 「江戸時代における日清間の文学交流」	シーポルト校	主催：東アジア研究所
	11月6日	第5回東アジア学術交流フォーラム 「Creative City and East Asia —Nagasaki, Quanzhou, Busan—」 (和訳：創造都市と東アジアー長崎、泉州、釜山ー)	東亞大学（韓国）	本学・華僑大学・東亞大学 との合同開催
	11月20日	第2回東アジア研究セミナー 「東アジアと長崎県の海運と港湾 ～交流人口と物流の拡大を展望する～」	佐世保校	主催：東アジア研究所
26 年 度	6月25日	第1回東アジア研究セミナー 「東アジア地域におけるFTA秩序と日中韓の実利」	佐世保校	主催：東アジア研究所
	11月13日	第4回東アジア学術交流フォーラム 「海洋都市の過去・現在・未来ー長崎・釜山・泉州 ー」	シーポルト校	本学・華僑大学・東亞大学 との合同開催
	3月18日	第2回東アジア研究セミナー 「Quality Assurance of Nursing education in Korea」、「Primary health Care pediatric Clinic in Korea」	シーポルト校	主催：東アジア研究所
25 年 度	11月6日	第1回東アジア研究セミナー 「台湾のメディア社会について」	シーポルト校	主催：東アジア研究所
	11月15日	第3回東アジア学術交流フォーラム 「グローバリゼーションにおける東アジア企業の経営 戦略」	華僑大学（中国）	本学・華僑大学・東亞大学 との合同開催
	12月20日	第2回東アジア研究セミナー 「社会学による日本文化史の理解」	佐世保校	主催：東アジア研究所
24 年 度	11月15日	第2回東アジア学術交流フォーラム 「東アジアの高齢化と福祉」	東亞大学	本学・華僑大学・東亞大学 との合同開催
	11月22日	第1回東アジア研究セミナー 「鎖国体制における朝鮮貿易」	佐世保校	主催：東アジア研究所
	1月22日	第2回東アジア研究セミナー 「韓国における高齢者の健康増進」	シーポルト校	主催：東アジア研究所
23 年 度	5月12日	第5回東アジア世界化フォーラム 「東北アジア炭素関連市場と排出量取引制度」 —中国・日本・台湾・韓国の現状と展望—	東亞大学	主催：東亞大学
	11月10日	第1回東アジア学術交流フォーラム 「自然災害と東アジア」	佐世保校	本学・華僑大学・東亞大学 との合同開催

東アジア研究所「東アジア研究ネットワーク」について

【趣旨及び目的】

「東アジア研究ネットワーク」は、東アジア研究所(以下、研究所という)を拠点に、東アジア研究を幅広くかつ円滑に進めるため、世界の研究者及び研究機関との連携を図る。(※本研究所における「東アジア」とは、東北アジア・東南アジアなど広く意味する。)

【研究者】

国内外の大学・研究機関に在職し、本研究所の研究活動に賛同する者とする。本学の研究者には「研究員(Research Fellow)」、学外の国内研究者には「連携研究員(Cooperative Research Fellow)」、海外の研究者には「海外研究員(Overseas Research Fellow)」の称号を与え、共同研究の推進、研究者の紹介、情報や資料の交換、『東アジア評論』への投稿など、包括的な相互協力をを行う。本学の研究員は、ネットワークの中で主導的に研究グループを形成し研究活動を行う。東アジア研究ネットワークの趣旨に賛同した研究者(以下、登録研究者という)は、本研究所の研究者登録制度に基づいて研究者登録を行う。

【研究者登録制度】

研究者登録について、研究員は自薦とし、連携・海外研究員は研究員からの推薦によるものとする。東アジア研究ネットワークの登録研究者は、指定の情報(プロフィール、研究業績一覧)を提供し、本人の許諾の上「東アジア研究者シート」を本研究所のホームページに公開する。登録の期限は一年とし、登録研究者から申し出がない限り、自動的に更新されるものとする。

【登録研究者への優遇措置】

- ・ 本研究所の各種研究会及び国際シンポジウムへの招待及び招聘
- ・ 本研究所の機関誌『東アジア評論』への掲載優先
- ・ 本研究所の刊行物の贈呈
- ・ 本研究所の事業や動向の個別案内

【主要研究部門】

研究内容は、東アジアと関係することを前提とし、下記の主要研究部門とする。

- ・ 貿易研究部門(政策、規制、関税、摩擦、自由化、WTO、FTA/EPA 等)
- ・ 金融研究部門(政策、制度、投資、為替、通貨統合等)
- ・ 産業研究部門(政策、規制、構造、集積、環境、連携、創出、国際観光等)
- ・ 企業研究部門(戦略、流通、物流、マーケティング、リスク、進出、R&D、M&A 等)
- ・ 地域研究部門(共同体、政治、外交、国際関係、法律、社会、文化等)

公開講座・地域公開講座・学術講演会等実施状況

○ 公開講座

(単位:講座、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計 ※2	
	講座	参加者	講座	参加者	講座	参加者
27年度	17	752 ^{※1}	17	598	17	1,350
26年度	17	666 ^{※1}	17	659	17	1,325
25年度	17	573 ^{※1}	17	467	17	1,040
24年度	13	386 ^{※1}	13	530	13	916
23年度	10	261 ^{※1}	10	333	10	594
22年度	13	283 ^{※1}	13	415	13	698

※1 佐世保校参加者には、新上五島町での参加者を含む

※2 両校で同時開催した講座は1講座として集計する

○ 地域公開講座

(単位:講座、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計	
	講座	参加者	講座	参加者	講座	参加者
27年度	33	1,546	41	1,534	74	3,080
26年度	26	681	27	967	53	1,648
25年度	17	642	28	1,831	45	2,473
24年度	18	940	43	2,142	61	3,082
23年度	20	519	27	1,129	47	1,648
22年度	11	341	22	908	33	1,249

○ 学術講演会等

(単位:講演、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計 ※2	
	講演	参加者	講演	参加者	講演	参加者
27年度	5 ^{※3}	797 ^{※1}	12	554	10	1,351
26年度	3	190 ^{※1}	10	361	10	551
25年度	4	124 ^{※1}	9	322	10	446
24年度	4	183	6	316	7	499
23年度	3	221	9	453	9	674
22年度	3	381	3	341	3	722

※1 佐世保校参加者には、新上五島町での参加者を含む

※2 両校で同時開催した講座は1講座として集計する

※3 学外会場で開催した2件を含む

教員の研究活動状況

【経営学部】

●経営学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	三戸 浩	・「経営者支配化」のプロセスの検討 ・長崎県の地域活性化の手掛かりを探る
教授	代田 義勝	・地域における女性活躍の促進について
教授	上畠 良信	・チューリヒ啓蒙主義の系譜とJ.G.ズルツァー(後篇) ・スイス啓蒙主義とJ.H.ペスタロッチーの誕生 ・J.G.ズルツァーからJ.H.ペスタロッチーへのスイス教育思想の生成と展開 ・わが国における道徳教育の現状と課題 ・大学新入生の学校メタファー・アンケートの分析
教授	竹田 範義	・イギリス減価償却学説史の研究—Mathesonの資産評価論について—
教授	村上 則夫	・地域コミュニティの「再生」から「発展」への一考察
教授	岩清水 由美子	・ジョウゼフ・コンラッドの小説におけるジェンダー研究
教授	山崎 祐一	・異文化理解の要素を視野に入れた英語教育の有効性と課題 ・英語コミュニケーション能力育成の技法と実践
教授	鴻上 喜芳	・賠償責任保険のあり方に関する研究 (1)事故と被害者救済に関する研究 (2)損害賠償請求ベース約款のあり方に関する研究
教授	宮地 晃輔	・造船業における原価管理の動向—S社造船所の事例を対象として— ・会計教育における高大連携と学士力・質保証—長崎県立大学の事例から— ・会計のグローバル化は地場製造業をどう変えるのか? ・佐世保市における産業人材育成支援策に関する研究
教授	高橋 秀至	・法人税法における知的財産取引の価額
教授	神保 充弘	・医薬品業界における流通系列化の生成過程
特任教授	田中 政光	・企業交代のダイナミックス
准教授	斎藤 光正	・ドイツ経営経済学の史的展開
准教授	津久井 稲緒	・企業の社会的責任と地域連携 —自治体と企業との包括連携協定に関する考察—
准教授	四本 雅人	・重要インフラ企業における安全文化構築に関する研究 ・日本の雇用慣行の変化に伴うブラック問題の発生とレトリック戦略としての「家」 ・長崎県における地域資源活用のための経営者ならびに人材育成に関する研
講師	馬場 晋一	・企業家の事業創造におけるプライベートエクイティの役割について
講師	板垣 太郎	・会社役員賠償責任保険(D&O保険)の諸問題に関する研究
講師	大田 謙一郎	・クロスマディア環境下におけるブランド・コミュニケーション戦略
講師	中村 貴治	・ステークホルダー理論におけるステーク概念
特任講師	S.E.ライフ	・The history of English education in Japan. ・Development of online study materials. ・Computer assisted pronunciation training.

●国際経営学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	谷澤 毅	・ヨーロッパ商業都市の貿易と社会・文化に関する研究
教授	岩重 聰美	・アジアにおける流通システムの現状と日本型流通システムとの比較研究・
教授	石田 和彦	・通貨の本質を踏まえた、金融論・金融政策論各領域の再検討
教授	山本 裕	・国際物流における輸送サービスと輸送システムについて ・離島交通、離島物流について ・内外の港湾政策、港湾事情の研究と政策提言
教授	江崎 康弘	・日本企業のグローバル化と社会インフラ事業に内在するリスクと対策
教授	矢野 生子	・IMF体制とGATT(WTO)体制の再考察、通貨危機とIMFの役割
教授	小形 健介	・会計基準設定機関における基準設定活動決定プロセスの研究
准教授	新川 本	・現代企業の企業統治機能の研究
准教授	斎藤 毅	・地方におけるグローバル人材育成の現状と課題
講師	舟橋 豊子	・フィリピンにおける卸売業の役割について

【地域創造学部】

●公共政策学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	綱 辰幸	・市町村の効果と課題
教授	西岡 誠治	・安全・安心まちづくりの研究
教授	橋本 優花里	・高次脳機能障害者の認知リハビリテーション
教授	阿部 律子	・五島列島におけるキリスト教信仰
教授	宮崎 明人	・一般相対論的重力場の理論
教授	竹田津 進	・英語の心理動詞の受動文と共に起する前置詞の史的変遷 ・英語のDo you have～?構文とHave you (got) 構文の史的発展 ・英米人の日本のと言える国民性比較について
教授	松岡 純子	・許地山研究—僑郷(広東・福建)及び華僑・華人社会の形成と発展の中で
教授	吉居 秀樹	・行政法領域における行政手続法及び情報法の研究
教授	長沼 信之	・我が国におけるソーシャルビジネスの現状と課題
教授	石川 雄一	・都市縮小の事態に向けた今後の都市圏構造の在り方に関する研究
教授	西村 千尋	・自然環境を活かした地域づくり、健康づくり
教授	車 相龍	・地域創造の射程—地理学と計画学の未来学的コンシリエンスの見地から—
准教授	麻生 雄治	・英語表現力を育成するための効果的な指導法とその評価
准教授	黒木 誉之	・市民協働による地域ガバナンス
准教授	吉本 諭	・地域経済、農林水産業及びフードシステムの産業連関構造に関する研究
准教授	奥山 忠裕	・政策評価における最適な便益計測手法の選択に関する研究
講師	長濱 幸一	・19世紀後半のハプスブルク帝国商會議所における工業化と民族問題
講師	雪丸 武彦	・戦後の養護学校の設置プロセスの研究
講師	石田 聖	・協働型ガバナンスにおける中間支援組織の役割と機能に関する研究
特任講師	高 芳	・長崎の唐通事と日本の中国語教育
特任講師	N.A.ケイン	・The perceptions and effectiveness of task-based learning in the Japanese context
特任講師	A.ボードナー	・English language speaking fluency.
特任講師	橋本 将	・非制限的関係節の統語構造と意味論

●実践経済学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	古河 幹夫	・陶磁器産地の支援 ・大学教育の改革
教授	西 道彦	・国際流通の電子化
教授	後藤 正之	・リスク・マネジメントの観点に立った、不確実な世界経済環境下における日本のマクロ経済政策のあり方
教授	柳田 芳伸	・マルサスの『人口論』(とくに2版以降の諸版)が同時代人たち、及び後世人たちに及ぼしてきた社会・経済的影響
教授	菅 宜紀	・高速道路民営化の効果
教授	楊 光洙	・日本の経済連携政策(FTA/EPA/RCEP/TPP等)について ・日本と欧州の社会保障制度と財源について
教授	鳥丸 聰	・リレー方式による新幹線暫定開業が地域経済に与えるインパクト
教授	青木 圭介	・ユーロ圏の金融システムの構築と政策波及効果の経済分析
特任教授	堤 修三	・ケアの法哲学
准教授	有馬 弥重	・契約および規制に関する非対称情報下でのインセンティヴ効果について
准教授	尹 清洙	・動学的応用一般均衡アプローチによる日中韓経済の相互依存に関する計量分析
准教授	中村 和敏	・インドネシアにおける経済格差と労働市場
准教授	植野 貴之	・多段意思決定過程における評価系に関する研究
准教授	田村 善弘	・韓国の食料・農業分野における消費者教育
講師	芳賀 普隆	・地域資源としてのエネルギー活用によるスマートコミュニティ構築
講師	鶴指 真志	・地域公共交通運営政策

【国際社会学部】

●国際社会学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教 授	村上 雅通	・水俣病報道と長崎原爆被爆者報道 メディアの功罪
教 授	荻野 晃	・中・東欧の安全保障、冷戦期のハンガリー外交、歴史としての体制転換(1989)
教 授	森田 均	・情報・モビリティ・エネルギーによるネットワーク社会の形成
教 授	祁 建民	・中国における国家権力と農村社会
教 授	瀬端 孝夫	・日米関係と日本の安全保障
教 授	李 焰皓	・戦後日本の首相たちのアジア認識と政策
教 授	上村 俊彦	・英語学習者の英語力の検証と英語リソースの総合研究
教 授	竹部 隆昌	・オーンゾルゲの東西に皇帝称号問題の論駁
教 授	下野 孝文	・遠藤周作における＜母なるもの＞の形成について
教 授	関谷 融	・学校教育カリキュラムの調査及び教育方法・用具の開発
教 授	鈴木 晓彦	・現代中国における大衆思想の多様化と政治的民主化の課題
准 教 授	金村 公一	・「デジタルメディア2.0」その特性からみる情報・コミュニケーションと社会
准 教 授	山田 健太郎	・表象文化とコミュニケーション
准 教 授	周 国強	・和製漢語について・中国と日本の交流研究
准 教 授	小原 篤次	・東アジアの経済システム、インバウンド(内需の外需化)の研究、企業の国際化に関する研究
准 教 授	柳田 多聞	・情報プレゼンテーションのスキル向上への紙芝居の活用研究 ・紙芝居が集団の形成や維持におよぼす影響の実態調査
准 教 授	河又 貴洋	・情報通信分野の技術革新と社会変容・制度改革、そして産業・企業の競争優位戦略に関する社会知能情報学的研究
准 教 授	門部 昌志	・メディア・コミュニケーションの基礎的研究
准 教 授	吉光 正絵	・東アジアの女性の文化とメディア利用
准 教 授	唐津 理恵	・日本映画におけるナショナル・アイデンティティーの脱構築
准 教 授	松尾 晋一	・近世的「境界」の研究
准 教 授	和田 一哉	・南アジアとアフリカの発展途上国における開発

職名	氏名	現在の研究テーマ
准教授	ポンサピタック サンティ・ビヤ	・アジアのテレビ広告における文化価値観 ・アジアにおける日本と長崎に対する認識とメディア利用行動 ・現代タイ社会における若者の精霊信仰とメディア ・東日本大震災・熊本地震に関するタイのメディアの報道
准教授	福島 涼史	・公法(憲法・国際法)における主権理論
講師 (特任)	ニール・ミリントン	・語学学習のモチベーション、インターナルチュラル コンタクト と インターカルチュラル コミュニカティブ コンピテンス
講師 (特任)	ブラッドリー・ ゴードン・スミス	・モバイル及びオンライン学習
講師 (特任)	ウイリアム・ マクドナルド	・英語語源学教育の有効性 ・英語と日本の大学の財政の安定 ・外国語学習における不安
講師 (特任)	シャネン・メイソン	・オーストラリアの語学教師における「キャピタル」、それらが教員の減少に及ぼす影響について

【情報システム学部】

●情報システム学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教 授	日下部 茂	・セーフウェアの開発と運用の方法論
教 授	辺見 一男	・画像処理とヒューマンインターフェースの応用に関する研究
教 授	青木 研	・反復関数系フラクタル図形の造形的コントロールに関する研究
教 授	有田 大作	・農業情報の計測と可視化
教 授	平岡 透	・空間情報を用いた解析および応用に関する研究
教 授	金谷 一朗	・人工物および人間の創造活動に関する統合的な理解
准 教 授	吉村 元秀	・パターン認識の実応用に関する要素技術の開発
准 教 授	片山 徹也	・デジタルデバイス画面の色彩条件がユーザビリティやアクセシビリティに及ぼす影響 ・景観色彩における印象評価について
講 師	前村 葉子	・コンテンツの特性に適した画像処理に関する研究・在宅医療における情報通信技術活用に関するサーベイ
講 師	藤沢 望	・テレビゲームプレイ時のハラハラ感とBGMの関係について

●情報セキュリティ学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教 授	伊藤 憲一	・カオス時系列データの解析手法に関する研究 ・カオス暗号に関する研究
教 授	永野 哲也	・線形平行移動にもとづくフィンスラー空間の基礎的研究
教 授	小松 文子	・情報セキュリティにかかる意思決定に関する研究
教 授	松崎 なつめ	・高機能暗号の研究
教 授	チャットウイエンチャイ ・ソムチャイ	・PDFファイル形式の電子書籍の横断検索仕組みの確立に関する研究
教 授	加藤 雅彦	・ネットワークシステムにおける各種セキュリティ対策に関する研究
教 授	山口 文彦	・知能情報処理技術の応用
准 教 授	穴田 啓晃	・計算機科学の分野の、暗号学の技術領域における、クラウドコンピューティングもしくはインターネット・オブ・シングズに適したデジタル署名方式・暗号方式
准 教 授	松田 健	・数理モデルと関連する数学一般およびそれらの情報科学分野への応用

●看護学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教 授	平野 かよ子	・保健師による保健活動の評価指標の検証に関する研究
教 授	久佐賀 真理	・子ども・若者の社会的自立に向けた支援のあり方に関する研究 —関係改善とシステム構築を同時に進行させるPeacebuilding Integrated Frameworkの活用—
教 授	松本 幸子	・高齢化の進む離島で生活する住民の終の棲家に対する意識と健康関連行動に関する研究 ・成人看護学におけるシミュレーション教育に関する研究
教 授	中尾 八重子	・地域づくりと行政保健師の地区組織活動 ・新総合事業移行による地域包括ケアシステムの構築に関する研究
教 授	河口 朝子	・ハンセン病高齢者の転倒予防に向けたフットケアの基礎研究
教 授	李 節子	・グローバル社会における母子保健のあり方に関する研究 医療通訳のあり方に関する研究 性暴力被害者支援のあり方に関する研究
教 授	立石 憲彦	・島と地域の医療の現状と課題
教 授	大塚 一徳	・ワーキングメモリ容量個人差に関する認知心理学的研究
准 教 授	山澄 直美	・院内教育のための研修評価システムの開発
准 教 授	吉田 恵理子	・ロコモティブシンドローム予備軍2型糖尿病患者の運動療法に関する研究 ・分子標的治療薬を用いた肺がん患者の副作用とQOLに関する研究 ・内部障害者の生活実態に関する研究 ・長崎の観光における内部障害者の「外食に関するユニバーサルデザイン」に関する実証研究 ・吃音者の実態と合理的配慮に関する研究 ・がん化学療法、放射線療法をうける患者支援に関する研究 ・離島出身の大学生の居場所に関する研究 ・免疫療法を選択する肺がん患者の意思決定のプロセス
准 教 授	林田 りか	・親子のQOL調査票の開発とQOLの関連性について
准 教 授	永峯 卓哉	・看護基礎教育における看護技術教育の在り方に関する研究 協同学習を用いた教授学習過程および認知・態度・行動の具体的な側面からの効果測定と測定方法の検討
講 師	木村 チヅル	・認知症や医療依存度が高い高齢者の看護の実態と、地域包括ケアシステムを目指した連携による看護の継続。
講 師	重富 勇	・精神科看護師のストレスに関する要因
講 師	片穂野 邦子	・看護教育におけるシミュレーション教育の現状と評価 ・分子標的薬治療中の肺がん患者の皮膚障害とQOLに関する研究
講 師	高比良 祥子	・肝疾患相談支援看護師の育成に関する研究
講 師	山谷 麻由美	・住民と行政とのまちづくりにおける協働
講 師	濱田 由香里	・長崎県の離島における住民のヘルスリテラシーの現状
講 師	堂下 陽子	・精神看護学においてロールプレイを活用した演習方法の効果と課題の検討
講 師	山口 多恵	・回復期リハビリテーション病棟における看護師の専門病棟適応のプロセスマネジメントの作成

職名	氏名	現在の研究テーマ
講師	新田 祥子	・グローバルスタンダードを考慮した看護教育に関する研究および、グローバル社会における日本の母子保健のあり方に関する研究
助教	三重野 愛子	・看護大学生における「看護技術」イメージの変化
助教	高崎 亜沙奈	・看護師の役割拡大における在宅看護師の役割変化の研究
助教	竹口 和江	・長崎県の地域包括ケアシステム構築と円滑に運用するための研究

●栄養健康学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	大曲 勝久	・生活習慣病における栄養の意義について
教授	武藤 慶子	・野菜摂取量と行動変容からみた女子大学生における食生活の現状と分析
教授	田中 一成	・長崎県産農林水産物を利用した機能性食品開発
教授	古場 一哲	・食品成分による脂質代謝調節に関する栄養学的研究
教授	森田 茂樹	・栄養状態評価方法の検討
教授	四童子 好廣	・新しい発癌抑制性テルペノイドの化学生物学:Chemical Biology of Novel Anti-Cancer Terpenoids
教授	樋口 才二	・金芽米の製造方法および力学特性、味覚特性、官能特性
教授	久木野 憲司	・スリムダイエットが骨形成に及ぼす影響に関する実験的研究 ・スリムダイエットが脳の機能と形態に及ぼす影響に関する実験的研究
教授	富永 美穂子	・大学生の食行動および食文化の異文化間比較 ・長崎県産品や伝統野菜の食味特性、嗜好性、加工特性 ・地域高齢者の食生活や健康支援 ・県内離島の人材開発、地域活性化
准教授	駿河 和仁	・妊娠・授乳期の栄養状態が栄養素の吸収・代謝機能に及ぼす影響と作用機序に関する研究
講師	吉澤 和子	・栄養疫学のための物摂取頻度調査票(FFQ)の開発(H25年～):FFQの妥当性研究 ・離島住民の食行動に影響を及ぼす要因に関する研究:壹岐健康調査研究(H27年～) ・ファストフードとトランス脂肪酸に関する研究(H25年～) ・国連データ利用に関する研究(H25年～) ・グローバルヘルス(H25年～)、他 子供のアレルギー
講師	石見 百江	・地域に根ざした栄養教育体制の強化～幼児と保護者を対象として～
講師	松澤 哲宏	・食品危害耐熱性カビの耐熱性試験と迅速診断法の開発
講師	飛奈 卓郎	・運動トレーニングや食事のコントロールによる身体の変化と遺伝的要因の関係
助教	山口 範晃	・脂肪組織のビタミンA代謝およびその生理作用に関する研究
助教	岡本 恒子	・プロテオームおよびメタボローム解析による糖尿病患者血清の特定バイオマーカーの探索
助教	湯浅 正洋	・ビオチンについての栄養生化学的研究

長崎県公立大学法人の経営戦略

中央教育審議会が答申した「我が国の高等教育の将来像」7つの機能別分化類型が示されている。本学はその中で、「職業人養成」及び「地域の生涯学習の機会の拠点」、「社会貢献」を本学の最も重要な使命として明確に位置づける。即ち、学部学生の教育に軸足を置き、教員の知と学生の活力をもって、地域の文化・経済の発展に貢献することを使命とする。そのために必要な大学資源を重点的に投入していく。

それを踏まえ本学は、長崎の歴史的・地理的・文化的特色を活かした本学独自の教育を推進する。それは単に「長崎に関することを知る」ということではなく、最終的に学部学科全体として学生の個の確立（発言、提案、議論、そして協働）に資するレベルまで止揚されたものとしていく必要がある。「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育て、社会に送り出すことを目的とした大学運営を行う。世界が向かうグローバル化の中で活躍できる卒業生の輩出を目的とし、教育の自律的質保証に向けた取組を強化していく。ここで最も重要なことは、教職員ひとり一人が組織の一員としての自覚を持ち、各々の役割・責任を最大限の力で全うし、学生の成長に喜びと誇りを感じることである。そのためのガバナンスのさらなる強化にも取り組む。

具体的には、下記の取組を中心に実施していく。これらの取組を通じ、本学をより魅力に満ちた選ばれる大学へと磨き上げていく。その結果、本法人最大の収入源である授業料収入を安定的に確保し、揺るぎない財政基盤を確立していく。

1 教育の質保証によるたくましい人材の育成

卒業時に、「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育成するために、教育体系を再構築し、その質の保証を目指す。それが、長崎県立大学の学生像であると、県民のみならず全国に浸透するように、教職員一丸となって取り組んでいく。

（1）学生を育てる過程の明確化

- ・学生の受入方針、教育課程の編成方針、学位授与方針の3ポリシーを明確化
- ・組織的・体系的教育の実現による出口の質保証を徹底

（2）就業力の養成

- ・学生の就業力（個の確立）を入学時から養成し、高い就職率を維持

（3）国際性の向上

- ・学生の意欲を引き出す教育で、高い外国語運用能力の養成
- ・本学学生の留学、本学で学ぶ留学生の倍増

2 魅力ある教育の実施による志願者の確保

高校生や保護者的心に響く魅力ある教育を実施する。このために、長崎県の特色を活かした教育の充実に取り組む。

(1) 特色ある教育、魅力ある学問分野の創出

- ・「しま」体験教育プログラム
- ・「長崎学」科目群の設置

(2) 教育環境の整備

- ・佐世保校の建替に伴い、学生が魅力を感じ、足を運びたくなるような新しいキャンパスを整備

3 地域貢献の充実・研究の高度化

長崎県から交付される運営費交付金は、授業料と並び本法人の収入の柱であり、県内唯一の公立大学として地域貢献を充実しその存在意義を示すことにより、その安定的確保に努める。また、外部資金についても今まで以上の獲得に努める。

(1) 長崎県に関連する研究への取組

- ・「離島」「東アジア」「長崎の地域課題」に関連する研究への重点的な取組
- ・「アジア・国際戦略」への貢献、シンクタンク機能の強化
- ・産学官連携の推進

(2) 研究の高度化による外部資金の増加

- ・第2期中期計画期間中 3億5千万円以上獲得

(3) 県民への説明責任

- ・法人運営や教育、研究に関する情報の積極的な公表

4 効果的な大学運営の推進

理事長・学長のリーダーシップの下、必要な大学資源の選択と集中を実施するなど、効果的な法人・大学運営を推進する。

(1) 教育研究等の見直し

- ・大学として推進する「しまプロジェクト」や「アジア・国際戦略」、「留学支援」等の教育研究への予算の重点配分
- ・平成28年度までに物件費を1億2千万円削減
- ・教員評価を全学的に見直し、理事長・学長が積極的に評価

(2) 分離キャンパスの組織運営

- ・分離キャンパスを「禍」とせず、「福と為す」柔軟な組織再編

(3) 効果的な情報発信、大学ブランド力の向上

- ・本学の学生像を意識させるような情報発信
- ・大学のブランド力を高めるための広報戦略

平成23年12月7日

長崎県公立大学法人理事長 清浦義廣

外部資金獲得状況

《中期計画に掲げる目標》

【件数:H17～22 計299件 → H23～H28 計330件以上】

【金額:H17～22 計330百万円 → H23～H28 計350百万円以上】

《獲得状況》

	件数(件)	金額(千円)
平成27年度	86	131,723
平成26年度	76	118,923
平成25年度	83	103,533
平成24年度	77	77,736
平成23年度	70	69,020
合計	392	500,935

○用語概説

	用語	解説
ア行	アジア・国際戦略	長崎県が策定した戦略。成長著しい東アジアの最前線に位置し、これまでの深い交流の歴史の中で築いてきた友好・信頼関係を土台として、アジアを中心に海外の活力を取り込み、長崎県の経済活性化に結びつける。
	アドミッション・ポリシー	入学者受入方針。 各大学・学部等が、その教育理念や特色等を踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような能力や適性等を有する学生を求めているのかなどの考え方をまとめたもの。 入学者の選抜方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されている。
	インターンシップ	学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うこと。
	eラーニング	電子ネットワークなどを利用した教育、研修。 WBT(Web Based Training)やdistance learningとも呼ばれる。
	AO入試	AO入試：アドミッション・オフィス入試。 アドミッションポリシー（大学が求める学生像）に基づき、学力では量れない受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識などを多面的、総合的に評価し判定する入試。
	SD	Staff Development（スタッフ・ディベロブメント）の頭文字。 事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。
	SPI	Synthetic Personality Inventoryの頭文字。能力面と性格面の2つの側面から総合的に人材の資質を測定・評価する総合適性検査の一種であり、リクルート社が開発したもの。現在では、SPIという名称が適性検査を表す言葉として定着している。
	FD	Faculty Development(ファカルティー・ディベロブメント)の頭文字。 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。 具体例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法に関する研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。
	FP（ファイナンシャル・プランニング）技能検定	顧客の資産に応じた貯蓄・投資等のプランの立案・相談（ファイナンシャル・プランニング）に必要な技能に関する試験。レベルは1～3級まであり、2級はビジネスでは必須と言われるレベルで、金融業界を中心に企業ニーズも高く、昇格要件とされるケースもある。
	遠隔授業	インターネットなどの情報通信システムを利用して、離れた場所を結んで行われる授業形態。
	オフィスアワー	教員が曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその曜日・時間には自由に教員研究室を訪れて質問・相談等をすることができる制度。

	用語	解説
力行	科学研究費補助金	人文・社会科学から自然科学まで、あらゆる分野における優れた独創的・先駆的な研究を発展させることを目的とする国庫の研究助成費。文部科学省、厚生労働省、日本学術振興会により審査・交付される。
	科目等履修生	正規の学生と異なり、大学で開設されている授業科目のうち、必要な授業科目や興味のある授業科目だけを選んで履修する学生。正規の学生と同様、履修した授業科目について試験の上で単位が与えられる。
	カリキュラム・ポリシー	教育課程編成・実施方針。 ディプロマ・ポリシーで定めた学修内容を習得するためのカリキュラムを体系的に示したもの。
	カリキュラムマップ	履修系統図。 学生に身につけさせる知識・能力と授業科目との間の対応関係を示し、体系的な履修を促す体系図。
	キャリア・ポートフォリオ	授業や学習活動の成果であるレポートや論文、課外活動での経験や身につけたスキルなどを記録保管するファイルのこと。これらを蓄積・保存し、振り返っていくことで、自分の将来を考えることに役立てることができる。また、履歴書やエントリーシートを書くとき等の材料としても活用することができる。
	クリッカー	学生一人一人が手のひらサイズのリモコンを持ち、講義中に出される質問に対してリモコンの番号を押して回答するシステムで、学生の回答は瞬時に集計され、結果がグラフ等でスクリーンに映し出される。 講義者と学修者の双方コミュニケーションを可能にするツールの一つ。
	高度専門職業人	深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力を必要とする職業に就く者。
	コンソーシアム	連合体、共同体。
	コンピテンシー	経験を積むことで身についた行動特性。社会人基礎力。
	コンピュータリテラシー	コンピュータを操作して、目的とする作業を行い、必要な情報を得ることができる知識と能力を持っていること。
サ行	サテライト・キャンパス	社会人など時間的・地理的制約等に大学の本校に継続的に通うことが困難な者に対して、授業の一部を行う本校以外の場所。
	COC事業	center of communityの頭文字。 文部科学省が実施する「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」で、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としている。（平成25年度より開始）
	シーズ	大学がもつ「技術、ノウハウ、アイデア、人材、設備」などを指す。

	用語	解説
サ行	ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)	人と人とのつながりを促進・サポートする、「コミュニティ型の会員制のサービス」。Facebook、LINE、Twitterなど、多数のサービスがある。
	GPA	Grade Point Average (グレート・ポイント・アベレージ) の頭文字。 GPAは、アメリカ等の大学で一般的に用いられている成績評価法の一つで、学生の学業成績を客観的に計ることができるものとして、大学院進学や留学時の参考資料として活用されている。 具体的には、授業科目ごとの成績評価を5段階(A、B、C、D、F)で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0のようにグレード・ポイントを付与し、この単位あたりの平均を算出する。 本学では、学生の卒業時におけるレベル確保等のために、成績評価基準にGPAを導入し、履修指導等に活用している。
	GP	Good Practice (グッド プラクティス) の頭文字。 本来、「優れた取組」という意味であるが、各大学が自らの大学教育に工夫を凝らした取組で他の大学でも参考となるようなものを公募により選定する文部科学省の事業の通称。
	「しまなび」プログラム (「しま」体験教育プログラム)	島嶼県である長崎県の特性を活かし、また長崎県の公立大学として「しま」を第3のキャンパスとして位置づけ、学生を在学期間中(4年間)に最低一度は「しま」を訪問させ、現地の生活や人との交わりの中で、実践的な学習を体験させる本学独自のプログラム。平成27年度より本格実施に伴い、「しまなび」プログラムと名称を改めた。
	就業力	平成23年度から施行される大学設置基準では、「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力」と定義されている。
	シラバス	各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業名、担当教員名、講義目的、各回毎の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学修等をすすめるための基本となるもの。
	セメスター制	1学年複数学期制の授業形態。 1つの授業を1年間通して実施する「通年制」の前・後期などとは異なり、1つの授業を学期(セメスター)毎に完結させる制度。 1学期の中で少数の科目を集中的に履修することで、学習効果を高めることができる。
	情報処理技術者試験	情報処理技術者試験は、「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」が一定以上の水準であることを認定している国家試験。 試験区分はレベル1(ITパスポート)、レベル2(基本情報技術者試験)、レベル3(応用情報技術者試験)、レベル4として、情報セキュリティスペシャリスト試験など9分野の試験がある。 平成28年度より情報セキュリティマネジメント試験(レベル2)が追加された。
	ジェネリックスキル	社会でどんな仕事に就いても必要な力。専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力。

	用語	解説
タ行	大学コンソーシアム 長崎	個別に取り組むと手間や費用がかかる事業等を共同で行うため、長崎県内の大学等が集まつた組織。現在は、大学間で単位互換を行う「NICEキャンパス長崎」に主に取り組んでいる。
	大学ポートレート	データベースを用いた国公私立の大学の教育情報を公表・活用する共通的な仕組みとして、大学の教育情報を広く社会一般に公表するためのWebサイト。 大学評価・学位授与機構に置かれる「大学ポートレートセンター」が日本私立学校振興・共済事業団と連携・協力しながら運営している。
	中国語検定	日本中国語検定協会が実施する中国語能力の検定試験で、1級から準4級までの6段階で試験が行われている。 2級の認定基準は、複文を含むやや高度の中国語の文章を読み、3級程度の文章を書くことができ、日常的な話題での中国語による会話が行えること。 3級の認定基準は、中国語の一般的な事項をマスターしていて、簡単な日常会話ができ、基本的な文章を読み、書くことができること。
	チューター制	在学生、教員等が学生に対して、学習、生活上の精神的サポートとして、支援、助言を個別に行う制度。主に外国人留学生に対して個別の課外授業を行うなど、留学生の学習、研究効果の向上を図る制度。
	聴講生	科目等履修生と同様に、特定の授業科目のみ履修する学生であるが、単位を修得しない点が異なる。
	長期履修学生制度	職業を有しているなどの個人の事業に応じて、大学の定めるところにより、学生が大学の修業年限を超えた一定の期間にわたって計画的に教育課程を履修し卒業することを認められる制度。平成14年度から実施。
	ディプロマ・ポリシー	学位授与方針。 卒業時に学生が獲得すべき能力や態度、知識などを示したもの。
	ティーチングアシスタント(TA)	優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実験・実習等の教育補助業務を行わせ、大学院生の教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当てを支給し、大学院生の処遇改善の一助とする目的としたもの。
	TOEFL	英語を母語としない人が、主にアメリカの大学・大学院に出願する際に、受験が義務付けられている英語力判定テストの呼び名で、310～677点の間のスコアで算出する。留学に必要なスコアは、大学・学部等によって異なるが、一般に500～550点以上とされている。
	TOEIC	英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストで、10～990点までのスコアで評価をするもの。一般に、730点以上で、どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているとされる。

	用語	解説
ナ行	長崎県立大学やるばいプロジェクト	本学や地域の活性化につながる学生の自主的な活動を促すことを目的に平成19年度に創設した学生支援制度。採択プロジェクトに対しては奨励金を助成している。平成24年度に「長崎県立大学活性化プロジェクト」から名称変更。
	長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム(NRC)	産学官関係団体の連携を強化し、産学官の研究開発等を推進することにより、持続的・発展的にイノベーションを創出するシステムを構築し、科学技術による長崎県の産業振興及び県民生活の向上に寄与することを目的として、平成22年11月に設立されたもの。長崎県、長崎大学、長崎総合科学大学、長崎県立大学、佐世保工業高等専門学校、長崎県商工会議所連合会、長崎県商工会連合会、長崎県中小企業団体中央会、長崎県産業振興財団、十八銀行及び親和銀行の11機関が参加している。(金融機関は平成23年8月より加入)
	長崎留学生支援センター	長崎留学生支援コンソーシアムが開設した留学生の支援のための機関。平成27年3月時点で27団体からなる。 長崎地域における留学生の就職・生活を支援するとともに、留学生の力を活用し、地域活性化や観光振興に貢献することを目的とし、長崎への留学を促す広報活動なども行う。
	内部質保証	高等教育機関が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を元に改革・改善に努め、これによって、その質を自ら保障することを目指す。
	任期制	任期を付して教員を任用する制度。 現在は、「大学教員等の任期に関する法律」(平成9年8月25日施行)により、「先端的、学際的または総合的な教育研究」等の場合に任期を定めることができるとされている。 なお、外国人教員については、「国立又は公立の大学における外国人教員の任用等に関する特別措置法」により、任期を定めて任用することができるとされている。
ハ行	ハラスメント	嫌がらせ。セクシャルハラスメントは性的嫌がらせ。
	販売士検定	販売員としての素養やサービス向上を目的に日本商工会議所が実施する検定試験。 レベルは1~3級まであり、2級は売場の管理者クラスのレベルで、店舗管理に不可欠な従業員の育成や指導、仕入や在庫の管理といった知識が必要。
	ピア・サポート	「Peer」とは“仲間”、「Support」とは“支える、援助する”と言う意味。在学生が新入生を仲間として援助し、支える活動。
	PROGテスト	PROGは河合塾と(株)リアセックが開発した大学教育を通じたジェネリックスキル育成プログラム。 PROGテストは、リテラシーテストとコンピテンシーテストの2つがあり、知識を活用して問題解決する能力(リテラシー)と経験を積むことで身についた行動性(コンピテンシー)の2つの観点でジェネリックスキルを測定するもの。

	用語	解説
ラ行	ラーニング・コモンズ	自主的、自立的な学習活動（ラーニング）を支援するため、図書館が所蔵する図書や雑誌と、電子ジャーナルやデータベースなどの新しい電子資料の双方を自由に利用できるネットワークの環境が整った共有空間（コモンズ）。
	リサーチアシスタント（RA）	大学等が行う研究プロジェクト等に、大学院生等を研究補助者として参加させ、研究遂行能力の育成、研究体制の充実を図るとともに、これに対する手当の支給をするもの。
	リテラシー	新しい問題や経験のない問題に対して、知識を活用して問題を解決する能力
	臨床栄養師	人間栄養学に基づいた臨床栄養の知識、技術およびマネジメント能力を習得し、栄養ケア・マネジメントの質の向上に努めることのできる能力を有している学会員である管理栄養士。